

# 令和3年度 シラバス

## 作業療法学専攻

科目区分	開講科目	科目区分	開講科目
教養基礎科目	科学的思考の基盤	専門科目	基礎作業療法学
	1 生命の科学		47 作業療法概論
	2 エネルギーのしくみ		48 臨床運動学
	3 情報処理		49 基礎作業学
	4 論文講読		50 基礎作業学実習
	人間と生活		作業療法評価学
	5 心理学基礎		51 作業療法評価法
	6 人間関係論		52 作業療法評価法実習Ⅰ
	7 コミュニケーション論		53 作業療法評価法実習Ⅱ
	8 レクリエーション		54 身体障害作業評価学
	9 外国語1 (英会話)		55 精神障害作業評価学
	10 外国語2 (韓国語会話)		56 発達障害作業評価学
	11 外国語3 (中国語会話)		作業療法治療学
	社会の理解		57 作業療法研究法
	12 現代社会の理解		58 作業治療学理論
13 生物と環境	59 作業療法治療学実習		
複合教養	60 身体障害作業治療学Ⅰ		
14 教養演習 (1年)	61 身体障害作業治療学Ⅱ		
15 教養演習 (3年)	62 身体障害作業治療学実習		
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	63 精神障害作業治療学	
	16 解剖学Ⅰ	64 精神障害作業治療学実習	
	17 解剖学Ⅱ	65 発達障害作業治療学	
	18 解剖学Ⅲ	66 発達障害作業治療学実習	
	19 解剖学実習 (1年)	67 高齢期作業療法学	
	20 解剖学実習 (2年)	68 日常生活作業学Ⅰ	
	21 生理学Ⅰ	69 日常生活作業学Ⅱ	
	22 生理学Ⅱ	70 日常生活作業学実習	
	23 生理学実習	71 高次脳障害作業治療学	
	24 運動学総論	72 義肢装具学	
	25 運動学Ⅰ	73 義肢装具学実習	
	26 運動学Ⅱ	74 作業科学	
	27 運動学実習	75 人間作業モデル論	
	28 人間発達学	地域作業療法学	
	疫病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進	76 リハビリテーション関連機器	
	29 一般臨床医学	77 地域作業療法学	
	30 公衆衛生学	78 地域作業療法学実習 (1年)	
	31 臨床心理学	79 地域作業療法学実習 (2年)	
	32 内科学	80 就労支援学	
	33 整形外科学	総合作業療法学	
	34 神経症候学	81 臨床実習Ⅰ (見学)	
	35 精神医学	82 臨床実習Ⅱ (地域)	
	36 小児科学	83 臨床実習Ⅲ (総合1)	
	37 医療安全学・救急医学 (1年)	84 臨床実習Ⅳ (総合2)	
	38 医療安全学・救急医学 (2年)	85 卒業研究 (2年)	
	39 画像診断学	86 卒業研究 (3年)	
	40 健康科学	87 総合演習 (1年)	
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	88 総合演習 (2年)	
	41 リハビリテーション概論	89 総合演習 (3年)	
	42 リハビリテーション倫理		
	43 リハビリテーション社会論 (1年)		
	44 リハビリテーション社会論 (2年)		
	45 社会福祉学		
	46 障がい者スポーツ概論		

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
生命の科学	リハビリテーション学科 作業療法専攻	1学年	必修	2単位	30時間
担当教員名					
石黒 茂					
実務経験のある教員					
授業概要					
<p>私たち生物はDNAを遺伝子の本体とし、40億年近く前に誕生した生命体から延々とそれを受け継いできている。近年の急速に進歩した生命科学は生命・生物に対して新しい知見や見方を示し、生命に対する考え方を変えています。本講義では、高等学校で学んだ生物学の知識に基づき、主にヒトに関わることを中心に生命現象について学修を進め、生命倫理についても学びます。学んだことが専門科目への橋渡しとなり、将来に役立つ科学的なものの見方・考え方ができるようになってくれることを期待します。</p>					
学習到達目標					
知識・理解	①生物や生命現象について、生命科学の基本的な概念や原理・法則を使って説明することができる。(DP3) ②生命倫理とは何か、現代社会との関わり、その重要性和意義について述べる事ができる。(DP3)				
思考・判断 ・表現	③ヒト及び身の回りの生物や生命現象に関する事柄・トピックに、科学的な思考や判断で対処できる。(DP3) ④生命倫理、現代社会との関わり、生命倫理に関する今日的话题について科学的な思考や判断で対処できる。(DP3)				
技能					
関心・意欲 ・態度	⑤ヒト及び身の回りの生物や生命現象に関わる事項について興味・関心を持ち、自ら課題をもって学ぶことができる。(DP3) ⑥生命倫理と現代社会の関わり、生命倫理に関する今日的话题について興味・関心を持ち、自ら課題をもって学ぶことができる。(DP3)				
授業形態					
講義	配付資料とスライドを用い、グループ・ワークによるアクティブ・ラーニングを交えた講義を行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	石黒	生命とは何かについて考える	資料を読み、自分の考えを明確にした上で、生命とは何かについてグループ・ディスカッションを行う。		
2	石黒	生命とは何かについて学ぶ	生命の特徴、起源、生命の基本単位・細胞について学修する。		
3	石黒	生命をつくる物質（物質の化学的基礎、水、タンパク質）	生命をつくる物質の化学的基礎、その性質と役割について学修する。		
4	石黒	生命をつくる物質（核酸、ATP、糖、脂質など）	生命をつくる物質の化学的基礎、その性質と役割について学修する。		
5	石黒	細胞、細胞内の物質移動、細胞の膜輸送	生命の基本単位である細胞の大きさ、構造、機能について学修するとともに、細胞内での物質の移動、細胞の膜の構造と機能、能動輸送と受動輸送についても学修する。		
6	石黒	細胞の増殖と分化	細胞分裂、細胞の分化、組織、器官について学修する。		
7	石黒	生命活動とエネルギー	酵素の働き、物質交代とエネルギー交代、エネルギーと生命活動について学修する。		
8	石黒	人体のしくみー筋肉と運動ー	ヒトの筋肉運動の仕組み、筋肉運動のエネルギー利用について学修する。		
9	石黒	人体のしくみー神経系ー	ヒトのニューロンの構造と機能、中枢神経と体性神経について学修する。		

10	石黒	人体のしくみ －自律神経系と内分泌系－	ヒトの自律神経、ホルモンのはたらきについて学修する。					
11	石黒	人体のしくみ －消化系と呼吸系－	生命活動に必要な物質の吸収とガス交換について学修する。					
12	石黒	人体のしくみ－循環系－	ヒトの体内輸送、排泄と体内の浸透圧調節について学修する。					
13	石黒	人体のしくみ －ホメオスタシス－	ヒトの内部環境の調節の仕組みについて学修する。					
14	石黒	生命倫理	生命倫理とは何か、その重要性と意義についてグループ・ディスカッションを行う。					
15	石黒	生命倫理と現代社会・まとめ	生命倫理と現代社会の関わり、生命倫理の今日的话题について学修するとともに、講義全体をとおして自らの学びを振り返る。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●	●			50	①②③④
	ポートフォリオ		●	●		●	30	①②③④⑤⑥
	授業への参加・貢献、発表態度					●	20	⑤⑥
評価の 特記事項	授業への参加・貢献（学習意欲・授業への参加・発表態度）は授業ごとに評価する。ポートフォリオは提出ごとに毎回評価する。評価は授業への参加・貢献、ポートフォリオおよび筆記試験の合計で行う。合計点が基準（60%）に達しない場合、筆記試験（50%）部分だけで再試験を行い、授業への参加・貢献、ポートフォリオの点数はそのままの点数で合計し評価する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
（予習）次の授業までに調べたり、考えをまとめたりすることを指示するので、しっかり取り組んで、授業に臨むこと。（約30分～1時間） （復習）授業ごとに学修したことを振り返り、ポートフォリオシートを作成し、次の授業までに提出すること。（約30分～1時間）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
ポートフォリオシートは、その内容を読み、間違った理解や見方・考え方など正すべき点、疑問に思っていることについてコメントして返却する。全体に対して話すべきことは次の授業でフィードバックする。								
教科書								
授業用のプリント（資料）を使用し、「NEW 人体のしくみとはたらき要点整理&ドリル」 SENKOSHAメディカルドリル編集部（編） 宣広社 を補助教材として使用する。								
参考図書								
高等学校で使っていた生物図説（図録）等、他は講義の中で紹介する。								
備考：履修者への要望								
高等学校までに学んだ生物の知識を深め、生命についての新たな見方・考え方を身に付け、間違った情報に流されず、正しく科学的な判断ができるようになってもらいたい。そのためには、ヒト及び身近な自然、生命倫理等に関する新聞等の記事にも関心を持ち、生命科学のおもしろさを実感してもらいたい。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
エネルギーのしくみ	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	2単位	30時間
担当教員名					
後藤 理夫					
実務経験のある教員					
授業概要					
本科目は、物理学の中でも特に力学・熱学・電磁気学を中心に、エネルギーに関する理論・法則性の理解だけでなく、量的にも問題をくり返し解き、学修することで、専門科目において、その学修成果が十分達成されるための基礎知識の理解修得を目標とする。					
学習到達目標					
知識・理解	①「エネルギーの概念」を理解し、その法則を使った計算ができる。(DP3)				
思考・判断 ・表現					
技能					
関心・意欲 ・態度					
授業形態					
講義	講義を中心とした理論と演習問題の解説で展開する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	後藤	速度と等速直線運動	物質質量と単位について 変位、速度(平均・瞬間速度)、速度-時間グラフ		
2	後藤	直線運動の加速度	変位、速度と加速度の関係 負の加速度 加速度-時間のグラフ		
3	後藤	力とつりあい (I)	力の表し方、つり合う2力(重力・張力・抗力・弾性力等) 力の合成・分解 作用反作用の法則		
4	後藤	力とつりあい (II)	剛体のつり合い 剛体と回転、モーメント(トルク) てこの原理		
5	後藤	力とつりあい (III)	平行力、平行力の合成と重心 圧力・浮力		
6	後藤	運動の法則 (I)	運動の法則(第1慣性の法則・第2運動の法則) 落下運動 斜面上の運動		
7	後藤	運動の法則 (II)	摩擦力が働く運動(最大静止摩擦力・動摩擦力) 回転運動と角速度		
8	後藤	力学的エネルギー (I)	仕事、力と仕事 仕事の原理 仕事率		
9	後藤	力学的エネルギー (II)	運動エネルギー、位置エネルギー、弾性位置エネルギー エネルギー保存の法則 運動量と力積		

10	後藤	熱 (I)	熱と温度、熱運動、温度と内部エネルギー 熱と仕事					
11	後藤	熱 (II)	物質の三態と状態変化 (融点・沸点) 比熱、熱容量、熱平衡					
12	後藤	波動 (I)	波の発生、伝わり方、波を表す量 波の性質 (独立性・反射・屈折・回折・干渉)					
13	後藤	波動 (II)	縦波・横波 音波 (音速・三要素・超音波) 光波、電磁波のなかま					
14	後藤	電磁気 (I)	静電気 電流と電圧、電気抵抗 電気とエネルギー (消費電力)					
15	後藤	電磁気 (II)	磁石と磁力線、電流がつくる磁界、電流が磁界から受ける力電磁誘導、交流と直流 電波					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●				80	①
	課題		●				20	①
評価の 特記事項	筆記試験は、講義プリントの練習問題及び課題演習問題より出題する。 課題は、十分な復習活動によって問題を理解する努力度で評価する。 筆記試験と課題を合わせて6割に達しなかった場合、再試験を行う。							
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間								
教科の性質上、予習より復習に力点を置くため、講義終了時に課題の演習問題プリントを配布しますので、解答を答えるだけでなく理論についても理解に努める。(約1時間程度)								
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法								
課題演習は、全問解答をした上で答え合わせをする (不正解はやり直すこと、解説付きの解答も同時配布します)。 これを次回講義時に提出する。(次々回の講義日に返却された演習問題プリントは各自でファイリング保管して筆記試験に備える)								
教科書								
講義用のプリント学習冊子を初回に配布します。								
参考図書								
特になし (高等学校教科書「物理基礎」「物理」および「問題集」などを残している学生は利用できる)								
備考：履修者への要望								
受講生全員が高等学校における履修は「物理基礎」のみで「物理」を選択履修していない前提での講義内容とします。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
情報処理	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	15時間
担当教員名					
斎藤 末広					
実務経験のある教員					
授業概要					
<p>本科目は、現代人として身に付けておくべき情報リテラシーおよび医療に携わる者として知っておくべきデータに関する事柄を、講義とともにパソコンを用い演習を取り入れながら習得する。  情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに医療に携わる者としてのネットワーク社会でのルールやモラルを理解する。</p>					
学習到達目標					
知識・理解					
思考・判断 ・表現	①医療現場における医療情報の役割を考え、自分の考えを表現することができる。(DP3)				
技能	②PCで測定値を記録し、統計処理を使用することができる。(DP3)				
関心・意欲 ・態度					
授業形態					
講義	教科書に沿って、PCを利用する演習形式の講義				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	斎藤	オリエンテーション	ネットワーク、SNS利用時の注意点、および、タッチタイプでの文字入力方法を学ぶ：教科書 序章		
2	斎藤	ワープロ文書作成	MS-Wordにて、行や段落指定、フォントの変更等の基本機能を演習する：教科書 2章		
3	斎藤	オブジェクトの利用	画像や図形等のオブジェクトが入った文書を作成し、画像や図形をMS-Word上で加工する：教科書 2章		
4	斎藤	表計算ソフトの利用	表計算ソフトMS-Excelで基本的な表を作成する：教科書 3章		
5	斎藤	表の作成	MS-Excelを用い、関数を利用して計算する表を作成するとともに、表の体裁を整える：教科書 3章		
6	斎藤	表計算の各機能	表計算ソフトのさらに高度な関数や計算式を使う。統計データ処理方法を学習する。絶対参照、相対参照を用いた表を作成する：教科書 3章		
7	斎藤	プレゼンテーションの利用	表のデータに基づきグラフを作成する：教科書 4章 MS-PowerPoint 用いて、スライド作成を行う		
8	斎藤	まとめ	医療現場における IT 化に対する自分の考えを論述する。		

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法			●		50	②
	実技試験			●		50	①
	筆記試験		●				
評価の 特記事項	2回のPCを使った実技試験の得点で成績を評価する(50%)。レポートおよびタッチタイプ練習記録の提出状況に応じて加点する(50%)。すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施する						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
授業の空き時間や自宅にて、タッチタイプの習得に取り組んでください。キーボード練習、正しい方法で訓練すること。（週30分程度）習った技術を積極的に日々の学習等に利用すること。							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
課題には、教科書のとおりによれば十分。手で操作を覚えることを意識してください。疑問点のみ個別対応。							
教科書							
「30時間アカデミック情報リテラシー Office2019」 実教出版							
参考図書							
必要に応じて授業内で紹介する。							
備考：履修者への要望							
大学生生活や私生活の中で、ぜひとも情報機器を有効に活用してください。							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
論文講読	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	選択	1単位	15時間
担当教員名					
丹羽 重信					
実務経験のある教員					
授業概要					
<p>本科目は、専門的な研究や臨床場面では、医学論文を読む機会が多くなるが、そのための基本となる文法・語法の知識を応用し、一般的な論文の読解能力を身につけることを目的とする。特に海外の論文を読むための基本的な英語読解能力も必要となるため、英字新聞、学術雑誌などを題材にして幅広く英文読解への関心を高める。授業は、基本的に論文の構成や読解についての講義とともに、いくつかの論文を実際に講読し、内容についてのディスカッションをする演習形式も取り入れながら進める。</p>					
学習到達目標					
知識・理解	①論文の読解法と構成法、英語の文法・語法を応用することができる。(DP2, DP3)				
思考・判断 ・表現	②日本語および英語の文章の論点を見抜き、分かりやすく説明することができる。(DP2, DP3)				
技能	③調査データのポイントを読み取り、専門用語や英語の辞典の情報や資料を活用することができる。(DP2, DP3)				
関心・意欲 ・態度	④論文やニュースに日頃から注意を払い、積極的に調べることができる。(DP2, DP3)				
授業形態					
講義	毎回、論文を読んで研究するとともに、英語の小テストを行い、解説を行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	丹羽	初めての論文	手本となる論文を見てみる。また、グローバル化の時代における英語の重要性について考える。		
2	丹羽	論文を読む(1)	論文構成の約束事を知る。述語動詞を中心とする英文の基本構造と品詞との関係について確認する。		
3	丹羽	論文を読む(2)	科学技術論文を見てみる。英語話者がいつも意識している時間軸と述語動詞の形との対応について整理する。		
4	丹羽	論文を読む(3)	社会科学の論文を見てみる。英語で動詞を、述語動詞としてではなく、準動詞として他の品詞で用いる意味を考える。		
5	丹羽	論文を読む(4)	医学論文を見てみる。英語の文と文をつなぎ、重文や複文を作るいろいろな接続詞の働きについて整理する。		
6	丹羽	論文を読む(5)	英語による歴史的な論文を読み、その意義について考える。英語で接続詞と代名詞・副詞の働きを兼ねる関係代名詞・関係副詞を使い分ける。		
7	丹羽	論文を読む(6)	英語による数学の証明を読み、その特徴を学ぶ。英語の形容詞や副詞の原級・比較級・最上級と、否定表現とのいろいろな組合せを見てみる。		
8	丹羽	まとめ	全分野の復習テストとその解説を通し、自分の弱点分野を見つけ出す。		



観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法						
	筆記試験	●	●	●		20	①②③
	小テスト	●	●			40	①②
	参加貢献度		●	●	●	40	②③④
評価の 特記事項	最終講の筆記試験・毎回行う小テスト・授業中の参加貢献度を上記の割合で評価する。各評価を合計した総合評価が6割に満たないものについて、再試験を課す。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
図書室に備えられた専門書や先輩の卒業論文を読んでみる。これまで使用した英文法の参考書を再読する。（30分程度） また、授業後は文法事項の苦手箇所を復習する。（30分程度）							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
最終試験および小テストについては各回の講義中に解答解説する。小テストは自己採点とするが、最終試験は結果を報告する。							
教科書							
毎回、論文および英語小テストのプリントを使用する。							
参考図書							
手持ちの英文法の参考書、および英和辞典・和英辞典（電子辞書も可）							
備考：履修者への要望							
英語の学習に王道はない。焦らず、あきらめず、コツコツと続ける以外に方法はない。時間はかかるが、誰でも上達できるものである。このことを頭に入れて、日頃から読む・聞く・話す・書くことに努めたい。							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
心理学基礎	リハビリテーション学科 作業療法専攻	1学年	必修	2単位	30時間
担当教員名					
金子 幾之輔					
実務経験のある教員					
日本カウンセリング学会認定カウンセラー・スーパーバイザーとしてカウンセリングの実務経験を有し、本授業にカウンセリング理論・実習を導入することによって、自己理解や障がい者への支援等に関する知識・技能の学修を促進する。					
授業概要					
本科目は、人間の心の諸相を心理学の立場から把握することを目的とし、代表的な心理学の知見を日常生活上の事象と関連付けながら平易に解説し、人の心の仕組みや働きについて学修する。また、カウンセリング理論・実習も導入するなどして自己理解や障がい者への支援について考察する。					
学習到達目標					
知識・理解	①心理学の代表的な知見を論じられる程までに心理学に関する基礎知識を説明できる。(DP1) ②自己理解や障がい者への支援について説明できる。(DP1)				
思考・判断 ・表現					
技能					
関心・意欲 ・態度					
授業形態					
講義	自作の資料に基づいて平易に解説するとともに、体験学習やグループワークも導入する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	金子	心理学とは何か	心理学の領域と歴史等を概観し、心理学の概念や特徴を把握する。		
2	金子	外界認識	人間が行動表出するまでの認識のメカニズムについて学修する。		
3	金子	記憶	記憶のプロセスとさまざまな記憶について学修する。		
4	金子	学習 (1)定義等 (2)古典的条件づけ	学習の定義、意義、種類および学習の基本的メカニズムとしての条件づけについて学修する。		
5	金子	学習 (3)道具的条件づけ (4)その他	条件づけと認知的学習およびその他の学習理論について学修する。		
6	金子	動機づけ	動機づけのメカニズム、生物的動機と社会的動機について学修する。		
7	金子	人間の成長 (1)発達心理学の視点 (2)子どもの発達	人の成長を発達心理学の視点から捉え、子どもの発達について学修する。		
8	金子	人間の成長 (3)青年期の発達 (4)成人期の発達	上記と同様の視点から、青年期の発達、成人期の発達について学修する。		
9	金子	性格 (1)性格の記述 (2)性格の測定	性格記述の代表的な理論である類型論と特性論について学修する。また、性格測定として、質問紙法の一つである「モーズレイ性格検査(MPI)」を実施する(体験学習)。		

10	金子	性格 (3) 性格の形成(4) 知能 (5) 遺伝と環境	性格形成に影響する諸要因、知能の定義・構造・測定、知能の発達を規定する遺伝と環境の要因について学修する。					
11	金子	社会的影響	他者の存在やその働きかけによって、個人の態度や行動が大きく影響される過程について学修する。					
12	金子	人間関係	人間関係の基礎理論としての対人魅力、援助行動について学修する。					
13	金子	心の病気	心の健康と不健康、さまざまな心理的障害について学修する。					
14	金子	カウンセリング	カウンセリングの基礎理論を学修する。また、その実習として面接法を実施する。(グループワーク)					
15	金子	総括	講義内容の振り返りとまとめを行う。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	レポート試験		●				85	①②
	振り返り度		●				15	①②
評価の 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート試験は、最終試験のみとする。</li> <li>・振り返り度は、毎回の授業の終わりにリフレクション(省察・振り返り：ミニツツペーパーの導入)を行い評価する。以上2つの評価点を総合して評価する。なお、合格点に満たない場合でも、再試験は実施しない。</li> </ul>							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
<p>○事前学習：心理学辞典や参考文献を用いて、毎回の授業で扱う内容について調べておくこと。（1時間程度）</p> <p>○事後学習：授業で扱った内容を自分なりにまとめるなどの復習をすること。（1時間程度）</p>								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
課題（レポート、振り返り）に関する質問は適宜受け付ける。								
教科書								
授業に必要な自作の資料を配布する。								
参考図書								
講義の中で適宜紹介する。								
備考：履修者への要望								
心理学の基礎知識を修得するために、日常生活上の心理的事象について疑問を抱き、参考文献等でその問題の解決に向けて努力することを期待する								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
人間関係論	リハビリテーション学科 作業療法専攻	1学年	必修	1単位	15時間
担当教員名					
金子 幾之輔					
実務経験のある教員					
日本カウンセリング学会認定カウンセラー・スーパーバイザーとしてカウンセリングの実務経験を有し、本授業にカウンセリング理論・技法を導入することによって、人間関係（とくに援助的人間関係）に関する知識・技能の学修を促進する。今後、本授業で学修した内容を日常生活上に活用することによって、一層円滑な人間関係を構築・維持できるようになることを期待する。					
授業概要					
本科目は、対象者との良好な人間関係を形成したり、職場（施設・病院等）における人間関係を円滑化したりするために、社会人として、医療従事者として、或いは個人として、どのように行動すればよいのかについて客観的、科学的に考察し、その行動を実践できるようになることを目的とし、講義形式を中心に一部演習形式を取り入れた授業形態で学修する。具体的には、日常生活上の事例を検討するなどして人間関係に関する基礎的な理論を把握するとともに、体験学習やグループワーク等を通じ援助的人間関係において必要な基本的態度やコミュニケーション技法に関する知識・技能について学修する。					
学習到達目標					
知識・理解	①人間関係に関する基礎的な理論を説明できる。(DP1) ②援助的人間関係において必要な基本的態度について述べるができる。(DP1) ③援助的人間関係において必要なコミュニケーション技法を適用できる。(DP1)				
思考・判断 ・表現					
技能					
関心・意欲 ・態度	④技法修得に関心を抱き、そのための体験学習やグループワークに意欲的に参加し討議することができる。(DP1)				
授業形態					
講義	自作の資料に基づいて平易に解説するとともに、体験学習やグループワークも導入する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	金子	オリエンテーション	本授業の目的、到達目標、授業計画等について学修する。		
2	金子	1. 人間関係の基礎的な理論	(1) 人間関係の定義、人間関係に関する問題の社会的背景、好ましい人間関係について学修する。		
3	金子	1. 人間関係の基礎的な理論	(2) 人間関係の要因、(3) 人間関係の場面について学修する。		
4	金子	2. 援助的人間関係において必要な基本的態度	態度の定義、個人的態度の捉え方（心理検査の体験学習）、援助的態度等について学修する。		
5	金子	2. 援助的人間関係において必要な基本的態度	援助者に望まれる6つの態度（無防衛、共感、受容、熱意、間、距離）についてグループワーク等を通じ学修する。		
6	金子	3. 援助的人間関係において必要なコミュニケーション技法	前述の6つの態度を実現するためのコミュニケーション技法の基礎である(1) 促しの技法、(2) 繰り返しの技法についてグループワーク等を通じ学修する。		
7	金子	3. 援助的人間関係において必要なコミュニケーション技法	同様に(3) 要約の技法、(4) 解釈の技法、(5) 共感の技法、(6) 保証の技法、(7) 沈黙の技法、(8) 明確化の技法、(9) 質問の技法、(10) 対決の技法について学修する。		
8	金子	まとめ	これまでの授業の振り返り（リフレクション）を行う。		

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法						
	レポート試験	●				80	①②③
	振り返り度	●				10	①②③
	参加貢献度				●	10	④
評価の 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート試験は、最終試験のみとする。</li> <li>・振り返り度は、毎回の授業の終わりにリフレクション（省察・振り返り：ミニツペーパーの導入）を行い評価する。</li> <li>・参加貢献度は、体験学習やグループワークに意欲的に参加し、討議・発表する度合いによって評価する。</li> </ul> 以上3つの評価点を総合して評価する。なお、合格点に満たない場合でも、再試験は実施しない。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
<p>○事前学習：心理学辞典や人間関係学および社会心理学の参考文献等を用いて、毎回の授業で扱う内容について調べておくこと。（1時間程度）</p> <p>○事後学習：授業で扱った内容を自分なりにまとめるなどの復習をすること。（1時間程度）また、援助的人間関係において必要な基本的態度・コミュニケーション技法を修得するために体験学習や実習場面等で熱心にその態度や技法の訓練に取り組むこと。</p>							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
課題（レポート、振り返り、参加貢献）に関する質問は適宜受け付ける。							
教科書							
授業に必要な自作の資料を配布する。							
参考図書							
講義の中で適宜紹介する。							
備考：履修者への要望							
援助的人間関係において必要な基本的態度・コミュニケーション技法を向上させるために体験学習や実習場面のみならず、日常生活上においても積極的にその態度や技法を訓練することを期待する。							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
コミュニケーション論	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	15時間
担当教員名					
丹羽 重信					
実務経験のある教員					
授業概要					
<p>現代社会におけるコミュニケーションの有り様は実に多彩であり、コンピュータやスマートフォンなどの普及によって従来にはなかった新しいネットワーク構築が加速しつつある。本科目では現代のコミュニケーションの実情について広く捉え、日本人の使うコミュニケーション手段の中核としての現代日本語のみならず、それに強い影響を及ぼしている英語表現、さらには唯一の世界共通言語とも言える数学表現をも視野に入れて、将来の研究活動や医療業務に活かせる表現能力を踏まえたコミュニケーションの在り方について学修する。授業は講義形式を中心とし、お互いに考えディスカッションをするグループワークなどを取り入れることもある。</p>					
学習到達目標					
知識・理解	①日本を取り巻く世界の情勢と、日本社会の変化について、科学的な知識に基づいて具体的に述べることができる。(DP3)				
思考・判断 ・表現	②自己中心的な判断ばかりを続けず、他者の立場に立って全体の状況を見直すことができる。(DP3)				
技能	③日本語の中の敬語の基本的な仕組み正しく身に付け、適切に使わけることができる。(DP3)				
関心・意欲 ・態度	④ことばによるコミュニケーションの限界をわかまえつつ、積極的にネットワークを作っていくことができる。(DP3)				
授業形態					
講義	プリントを使用してすすめる講義				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	丹羽	自己と他者とのコミュニケーション (1)	「コミュニケーション」とは何かを考え、自己紹介文を書いてみる。		
2	丹羽	自己と他者とのコミュニケーション (2)	インタビューを通して情報を聞き出し、他者紹介文を書いてみる。		
3	丹羽	ことばによるコミュニケーション (1)	日本語の敬語の仕組みが持つ複雑さを知り、その役割について考える。		
4	丹羽	ことばによるコミュニケーション (2)	ことばによるコミュニケーションの限界とノンヴァーバル・コミュニケーションについて考える。		
5	丹羽	動植物とのコミュニケーション	『雑種植物の研究』を読み、「遺伝学の父」と呼ばれることになるメンデルの生涯について学ぶ。		
6	丹羽	ものとのコミュニケーション	放射能の発見と研究の歴史を概観し、ポーランドに生まれた女性科学者マリー・キュリーの生涯について学ぶ。		
7	丹羽	宇宙とのコミュニケーション	『相対性理論』と宇宙研究を考え、自由な精神を持ったアインシュタインの生涯について学ぶ。		
8	丹羽	まとめ	第1回～第7回のふりかえり		

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法						
	筆記試験	●		●		20	①③
	レポート (課題提出)	●	●	●	●	40	①②③④
	参加貢献度		●		●	40	②④
評価の 特記事項	講義への出席を参加貢献度とみなし、毎回の課題提出、および筆記試験の結果を総合的に評価する。筆記試験、課題提出、参加貢献度の各評価を合計した総合評価が6割に満たないものについて、再試験を課す。						
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間							
ウィキペディアなどで上記の科学者について調べ、テレビや新聞のニュースで世の中の動きを補う。(30分程度) また、人々の話し言葉にも日頃から注意を払う。							
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法							
レポートの中で特に注意を引いたものについて講義中に随時コメントする。試験については最終結果を報告する。							
教科書							
特に指定はしない。講義中に紹介する映画を少なくとも1本見ること。							
参考図書							
「メンデル 雑種植物の研究」 岩槻邦男・須原準平 訳 岩波文庫 「アインシュタイン 相対性理論」 内山龍雄 訳・解説 岩波文庫							
備考：履修者への要望							
電子辞書などを手元に用意しておくこと。							

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数		
レクリエーション		リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	選択	1単位	15時間		
担当教員名								
加藤 真夕美								
実務経験のある教員								
加藤 真夕美:医療機関、介護老人保健施設、保健センター、通所介護事業所において作業療法士として勤務し、レクリエーション指導の経験を有する教員が、レクリエーションの基礎についての講義および実技指導を行う。								
授業概要								
人が生活する上で、遊び・余暇活動は重要な活動である。本科目は、この遊び・余暇活動の一形態である集団レクリエーションについて、その概念や意義、分類、有効性、留意事項などを学修する。その上で、少人数グループに分かれ、集団レクリエーションの企画、計画書の作成、実施、振り返り、報告書の作成という一連の流れを演習を通して体験的に学び、医療・福祉分野における集団レクリエーションの実践能力の基礎を獲得する。								
学習到達目標								
知識・理解	①レクリエーションの分類を述べることができる。(DP1)							
思考・判断・表現	②医療・福祉現場におけるレクリエーションの意義を討議することができる。(DP1)							
技能	③グループで協力して計画を立て、同級生に対して実施することができる。(DP1,5) ④レクリエーションを受ける立場を体験し、レクリエーションを受ける人の気持ちを感じ、それを記述することができる。(DP3,4)							
関心・意欲・態度	⑤グループ活動で自身の役割を果たすことができる。また自身のグループワークでの特性を内省し、それを記述することができる。(DP5) ⑥提出物を遅滞なく、かつ内容の不足なく提出することができる。(DP3)							
授業形態								
演習	グループワークによるアクティブ・ラーニング(演習、レポート作成)を主体とし、一部講義形式を交えて行う。							
授 業 計 画								
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容					
1	加藤	オリエンテーション アイスブレイキング	授業の内容および進行について説明する。グループでの遊びを通してアイスブレイキングを行う。					
2	加藤	レクリエーションの概論	レクリエーションの考え方やリハビリテーションとの関連性について学ぶ。(第1章、第2章)					
3	加藤	レクリエーションの計画立案①	レクリエーションの計画の立て方について学ぶ。(第3章)					
4	加藤	レクリエーションの計画立案②	グループごとに集団レクリエーションを計画し、計画書を作成する。(第3章)					
5~7	加藤	集団レクリエーション実践	各グループ20分間の集団レクリエーションを、他グループの学生に対して実践する。またその成果を学生相互に評価し合う。(第3章)					
8	加藤	レクリエーションの振り返り	集団レクリエーションの他者評価結果をまとめ、グループおよび個人で振り返りを行う。(第6章)					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合(%)	到達目標
	実技評価			●	●	●	30	②③④⑤
	レポート(グループ)		●	●	●	●	40	①②③⑥
	レポート(個人)			●		●	20	②⑤
	参加貢献度					●	10	⑤⑥



<p>評価の特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技評価は、集団レクリエーション実践後のルーブリックによる他者評価で採点する。</li> <li>・レポート（グループ）及びレポート（個人）は、担当教員がルーブリックを用いて採点する。</li> <li>・参加貢献度は、グループワーク当日に果たした役割の有無で採点する。</li> <li>・再試験は実施しない。</li> </ul>
<p>準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p>	
<p>レクリエーション実施に当たっての準備や練習（1時間）</p>	
<p>課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート（計画書・報告書）は、グループごとに口頭でフィードバックする。また、ルーブリックで採点する。</li> <li>・発表内容は、授業内に受講生同士でルーブリック評価を行う。</li> </ul>	
<p>教科書</p>	
<p>「レクリエーション—社会参加を促す治療的レクリエーション」第3版 寺山 久美子、中村 春基 三輪書店</p>	
<p>参考図書</p>	
<p>必要に応じて授業内で紹介する。</p>	
<p>備考：履修者への要望</p>	
<p>実習を円滑に行うため、登録希望者数によっては定員を設けることもあります。</p>	

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
外国語 1 (英会話)	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	15時間
担当教員名					
James Higa					
実務経験のある教員					
Teaching necessary knowledge in class through group work, individual assessment and peer-assessment.					
授業概要					
This is a speaking course designed to help the students feel comfortable using the English that they know and have learned in various health-related and communicative situations. The students will be required to demonstrate their ability to ask and answer questions, and to interact naturally with their classmates, as well as their teacher. In addition to, participating in all the class activities, the students will be expected to work on improving their English skills. The class incorporates group work.					
学習到達目標					
知識・理解	①Can ask and answer basic questions in English. (DP3)				
思考・判断 ・表現	②Can use and understand the vocabulary that they have learned in class. (DP3)				
技能	③Can engage themselves in short conversations. (DP3)				
関心・意欲 ・態度	④Can have a conversation proactively using the vocabulary that they have learned in the class. (DP3)				
授業形態					
講義	Group work				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	James	orientation / self-introduction	review course outline: expectations and homework / talk about self / handout #1		
2	James	friends / classmates / doctor: hospital	introduce classmates / use expressions / / quiz handout #1 / handout #2		
3	James	family / illness: headache, cough, cold, virus	label family members / use expressions / quiz handout #2 / handout #3		
4	James	body parts / body: muscle	identify body parts by name/ use expressions / quiz handout #3 / handout #4		
5	James	hobbies / sports / medicine: pills	things you like to do / play / use expressions / quiz handout #4 / handout #5		
6	James	time / schedule / blood	making appointments / planning / use expressions / quiz handout #5 / handout #6		
7	James	group presentation	final 3 minute group presentation		
8	James	SUMMARY	summary of 1-7		

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法						
	筆記試験	●	●			30	①②
	小テスト	●	●			50	①②
	課題（プレゼンテーション）			●		10	③
	参加貢献度				●	10	④
評価の 特記事項	Course grading will be based on class participation (10%) weekly quiz (50%) written assessment (30%) and assignment: group presentation (10%) Students will need to take a re-examination in case the total score is less than 60%.						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
<p>Students will need to collect pictures or make drawings of various topics to be put into their A4 size notebooks. Students will use the pictures or drawings in class, as part of their weekly assignment. *If the student does not complete the homework assignment, he/she will not be able to participate in class.</p> <p>Students will need to prepare for one group presentation and prepare for the weekly vocabulary quiz. Students can expect to spend 60 minutes a week preparing for these assignments.</p>							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
When the students give a presentation, the teacher gives his opinion and advice depending on its subject as needed.							
教科書							
Printed material will be provided by the instructor.							
参考図書							
none							
備考：履修者への要望							
Please come to class with a positive attitude and be willing to participate using only English. All class instructions will be done in English. Please have an A4 size notebook for assignments and homework.							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
外国語2 (韓国語会話)	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	選択	1単位	15時間
担当教員名					
金 春子					
実務経験のある教員					
授業概要					
<p>韓国語を表記する文字ハングル (偉大な文字) は、1443年朝鮮王朝4代目の世宗大王が、庶民のために学者を集めて創らせた文字である。ハングル文字は子音と母音を組み合わせることができる文字である。韓国語の語順は日本語とほぼ同じで、日本人が学びやすい言語であるといえる。本科目では、このようなハングルを読むために基本文型を学び、簡単な挨拶ややさしい会話ができる知識を身に付けることを目標とする。授業は講義形式で行い、発音練習や会話は二人一組で行う。</p>					
学習到達目標					
知識・理解	①ハングル文字を読むことができる。(DP3) ②韓国語会話を聞くことができる。(DP3)				
思考・判断 ・表現	③韓国語で自己紹介ができる。(DP3) ④ハングル文字を書くことができる。(DP3)				
技能					
関心・意欲 ・態度	⑤韓国語を積極的に話すことができる。(DP3)				
授業形態					
講義	講義形式、会話は二人ずつで行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	金	基礎第1課、2課、3課	ハングル：母音、子音を学ぶ、 会話：あいさつ		
2	金	基礎第4課、5課	ハングル：複合母音、パッチムを学ぶ		
3	金	基礎第6課	ハングル：発音の変化		
4	金	第1課 私は浅井ゆかりです。 第2課 出身はソウルですか？	ハングルを読む練習と会話		
5	金	第3課 図書館ではありません。 第4課 時間がありますか。	ハングルを読む練習と会話		
6	金	第5課 何をしますか。 第6課 貿易会社で働いています。	ハングルを読む練習と会話		
7	金	第7課 服を買います。	ハングルを読む練習と会話		
8	金	まとめ	第1回～第7回で学習した内容の復習		

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法						
	筆記試験	●	●			70	②③④
	課題	●				20	①
	参加貢献度				●	10	⑤
評価の 特記事項	授業態度不良は10%ダウンする。 すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施する。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
学んだところを復習し、ハングルを覚える。(1時間程度)							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
小テスト終了後、解説します。							
教科書							
基礎から学ぶ「韓国語講座」初級 改訂版、 著者：木内明							
参考図書							
特になし							
備考：履修者への要望							
休まず講義に出席する、特に第一回の授業は必ず参加すること、一回目の授業を欠席すると授業についていけなくなる。講義中は私語を慎む。							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
外国語3 (中国語会話)	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	選択	1単位	15時間
担当教員名					
侯 英梅					
実務経験のある教員					
授業概要					
<p>本科目では、中国語の発音、文法解説、作文練習を行う。それにより、ピンイン（中国語発音を表記する記号のこと）が読め、挨拶言葉、基礎的な日常会話を習得し、基礎的な文法を理解し、簡単な意思疎通ができることを目標とする。会話文を通じて、基礎文法と基礎語彙の習得を目指す。授業は講義形式にて行う。</p>					
学習到達目標					
知識・理解	①中国語の漢字、発音、基礎文法の学習を通じて、中国語に対する基礎知識を習得する。(DP3)				
思考・判断 ・表現	②「読む、聞く、話す、書く」を通じて医療人材としての思考力や判断力を高めることができる。(DP3)				
技能	③中国語で自己紹介、簡単なコミュニケーション能力を身につけることができる。(DP3)				
関心・意欲 ・態度	④異文化について意欲的に考える姿勢を身につけることができる。(DP3)				
授業形態					
講義	講義形式で行う				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	侯	発音	母音、子音、声調		
2	侯	你好 (ニーハオ)	挨拶言葉、動詞述語文		
3	侯	我是日本人 (私は日本人です)	動詞述語文、「是」の使い方		
4	侯	我想学习汉语 (中国語を勉強したい)	助動詞「想」、形容詞述語文		
5	侯	2021年5月12日	形容詞述語文、数の教え方、年、月、日、曜日、時間の表現		
6	侯	你家在哪里 (どこにお住まいですか)	名詞述語文、特別疑問文、「在」と「有」の使い分け		
7	侯	你的电话号码是多少? (電話番号を教えてください)	病院での会話の練習		
8	侯	まとめ	前半：1～7課の内容復習		

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法						
	小テスト	●				30	①
	期末試験	●	●	●	●	70	①②③④
評価の 特記事項	小テストは授業で勉強した文法や発音についてのものです。全部で2回あります。 最終回講義の後半に期末試験を行います。 小テスト、期末試験を合わせて6割に達しなかった場合、再試験を行います。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
1日目の授業前に、Youtubeの関連発音動画を見ながら1～2時間予習してください。 1日目の授業後に、ピンインの発音と文法の復習を2～3時間しっかりと行ってください。 2日目の授業の前に、Youtubeの関連例文動画を見ながら2時間予習してください。							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
小テストは実施した後、次回授業の冒頭で解説、講評します。							
教科書							
オリジナルテキスト							
参考図書							
講義の中で示します。（Youtube関連動画などの紹介）							
備考：履修者への要望							
国際化社会の中で、医療現場で外国人と接する機会は増え、外国人患者さんと外国語でコミュニケーションができるのは現場で役立ちます。 今期の中国語集中講座はコロナの関係で、対面で授業を行う場合、授業内の発音練習は必要最小限で行います。オンライン授業になった場合、発音練習は普通に行います。新しい言語を覚えるために、たくさんの発音練習が必要なため、授業後に必ずYoutubeの関連発音動画を見ながら、声を出して積極的に練習してください。短期講座ですが、受講者の皆様に中国語の発音と基礎文法を身につけてほしいと期待しております。							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
現代社会の理解	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	15時間
担当教員名					
蔵本 紗知					
実務経験のある教員					
授業概要					
この授業では社会学の基礎を学びます。自分が向き合っていく「社会」とは何かを、社会学の視点から理解します。授業のはじめに社会学の歴史と社会学の基本を学び、次に「医療と福祉」「監視社会」「新型コロナウイルス」などの身近なテーマを通して、現代社会を分析します。					
学習到達目標					
知識・理解	①身近な社会現象について、社会的に説明することができる。(DP3)				
思考・判断 ・表現	②身近な社会現象について、社会学の枠組みをもとに自分なりの考えを述べるすることができる。(DP3)				
技能					
関心・意欲 ・態度	③身近な社会現象に興味・関心をもち、問題意識をもって情報を調べ、まとめることができる。(DP3)				
授業形態					
講義	毎回、講義の内容と関連したコメントシートを提出してもらいます。状況によってはオンライン授業に切り替わる可能性があります。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	蔵本	イントロダクション：「社会学」とは何か？	現代社会をどう読み解くか、様々な切り口を紹介する。		
2	蔵本	医療と福祉のゆくえ	近年、格差社会という言葉をよく耳にする。社会格差や経済格差は、健康や福祉に影響を及ぼすのだろうか。社会と医療・福祉との関わりを考える。		
3	蔵本	マスメディアのゆくえ	マスメディアがうつす社会は、現実を忠実に反映しているといえるのだろうか。マスメディアの特性を理解し、メディア・リテラシーについて考える。		
4	蔵本	プライバシーのゆくえ	情報化が進み、自治体や民間企業が個人データ管理することが当たり前になってきた。もはやプライバシーという概念は不要なのだろうか。プライバシーとは何かを知り、価値を考える。		
5	蔵本	AIとロボットのゆくえ	AIは社会に欠かせないものとなってきている。AIは社会構造を変化させるのだろうか。また、AIと人間は共生できるのだろうか。AIと社会のこれからを考える。		
6	蔵本	情報化のゆくえ	テレビを見る人が減り、人々の情報源はインターネットに移り変わってきた。SNSでは政治的なデモがよく見られるようになった。SNSは民主主義を発展させるのだろうか。インターネットと社会の関わりについて考える。		
7	蔵本	新型コロナウイルスと社会のゆくえ	新型コロナウイルスの流行をめぐり、社会はどう変わったのだろうか。また、これからどのように変わりうるのだろうか。ポストコロナの社会について考える。		
8	蔵本	エビログ・試験	前半に講義全体のまとめを行い、後半に試験を実施。		



観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法	コメントシートと授業への参加・貢献	●	●		●	30
	筆記試験	●	●		●	70	①②③
評価の 特記事項	すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施する。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
<p>①毎日10分程度、テレビやインターネット、新聞などでニュースに触れてください。そのさい、社会で起こっている出来事について、講義で学んだキーワードで分析を試みてください。</p> <p>②講義では毎回、コメントシートで記述問題に答えていただきます。講義終了後、まわりの受講生と記述問題について話し合ったり、インターネットや新聞・雑誌・書籍等で関連する事柄について調査を行い、自らの答えを振り返ってください。（30分程度）</p>							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
毎回の授業では、復習も兼ねて前回のコメントシートについて取り上げます。							
教科書							
特になし。							
参考図書							
参考文献は講義中に紹介します。							
備考：履修者への要望							
みなさんがこれから出会い、向き合っていく社会はときに面白く豊かで、ときに厳しく難解なものです。この講義を通して社会を読み解く力を身につけ、社会の中で生き抜く力を養ってほしいです。							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
生物と環境	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	選択	1単位	15時間
担当教員名					
石黒 茂					
実務経験のある教員					
授業概要					
地球上に誕生した生物は、環境との相互作用で多様な生物に進化し、それらは互いに関連し合って生態系を構築している。私たちヒトがどのように環境に適応し生活しているかを学ぶとともに、私たちの生活が生態系のバランスと生物の多様性によって支えられていることに気付き、その恵みを持続させることの重要性を学ぶ。また、生物の多様性や生態系のバランスを保全し、地球の環境を維持するといった視点をもって環境問題を考える。					
学習到達目標					
知識・理解	①地球上には多様な生物が生存し、生態系内で生物群集として互いに関連し共存して生きている。その成り立ちと仕組みについて説明することができる。(DP3) ②ヒトがどのように環境からの刺激を受け取り、応答し、環境に適応して生活しているかについて説明することができる。(DP3)				
思考・判断 ・表現	③生態系のバランスと生物多様性の保持の重要性を、科学的に思考し判断することができる。(DP3) ④ヒトが外界からの刺激に応答し、環境に適応して生活していることの重要性について科学的に思考することができる。(DP3)				
技能					
関心・意欲 ・態度	⑤生態系と生物多様性の保持の重要性を認識し、持続可能な社会の実現に向かって主体的に考え、判断し、行動しようとする事ができる。(DP3) ⑥自らの体で起こる刺激への応答、環境への適応について、課題をもって主体的に考え、判断することができる。(DP3)				
授業形態					
講義	配付資料とスライドを用い、グループ・ワークによるアクティブ・ラーニングを交えた講義を行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	石黒	地球上の生命	生命の起源とその歴史、生物と環境の相互作用について学修する。		
2	石黒	地球の環境を知る－生態系－	生態系とニッチ、食物連鎖による物質とエネルギーの流れなどについて学修する。		
3	石黒	地球の環境を知る －ヒトと様々な生物との関わり－	地球上で、ヒトは多様な生物と関わり、恩恵を受けて生活していることについて学修する。		
4	石黒	人体の環境応答①	人体の外界からの刺激の受容と伝導の仕組みについて学修する。		
5	石黒	人体の環境応答②	人体の外界からの刺激への応答と伝導の仕組みについて学修する。		
6	石黒	人体の環境応答③	人体が外界からの刺激の受容と、応答によって、環境へ適応していることについて学修する。		
7	石黒	地球環境問題について知る、考える	地球環境問題の今日的課題について、グループ・ディスカッションを行い、意見を発表する。		
8	石黒	地球環境を守る	地球環境を守るという視点で、自分たちにできることとは何かを考える。		

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	筆記試験	●	●				50
ポートフォリオ	●	●			●	30	①②③④⑤⑥
授業への参加・貢献、発表態度					●	20	⑤⑥
評価の 特記事項	授業への参加・貢献（学習意欲・授業への参加・発表態度）は授業ごとに評価する。ポートフォリオは提出ごとに毎回評価する。評価は授業への参加・貢献、ポートフォリオおよび筆記試験の合計で行う。合計点が基準（60%）に達しない場合、筆記試験（50%）部分だけで再試験を行い、授業への参加・貢献、ポートフォリオの点数はそのままの点数で合計し評価する。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
<p>（予習）次の授業までに調べたり、考えをまとめたりすることを指示するので、しっかり取り組んで、授業に臨むこと。（約30分～1時間）</p> <p>（復習）授業ごとに学修したことを振り返り、ポートフォリオシートを作成し、次の授業までに提出すること。（約30分～1時間）</p>							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
ポートフォリオシートは、その内容を読み、間違った理解や見方・考え方など正すべき点、疑問に思っていることについてコメントして返却する。全体に対して話すべきことは次の授業でフィードバックする。							
教科書							
使用しない。授業用のプリント・資料を使用する。							
参考図書							
参考文献は講義の中で紹介する。							
備考：履修者への要望							
今までに学んだ生物の知識を深め、新たな見方・考え方を身に付け、身近な自然や新聞等の記事にも関心をもってもらいたい。そして、間違った情報に流されず、正しく科学的に考え判断し、持続可能な社会の実現のため、主体的に行動できるようになってもらいたい。							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数			
教養演習	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	15時間			
担当教員名								
横山 剛								
実務経験のある教員								
授業概要								
<p>リハビリテーションチームの一員として作業療法士は、様々な社会的背景の患者を対象とし、患者一人一人の背景についての理解を含めた全人的な対応が求められている。そのため、広い教養を持った豊かな人間性、社会ルールについての理解、コミュニケーション力、問題発見能力、問題解決能力等が必要であり、これらの力が専門的な知識・技術を支える。</p> <p>本科目では、作業療法士に求められる力の基礎的事項を講義や演習を通して学習する。</p>								
学習到達目標								
知識・理解	①他者と円滑なコミュニケーションを取り信頼関係を築くための知識を説明できる。＜DP1＞ ②学修する際にこれまでに使用したことがない方法について説明できる。＜DP1＞							
思考・判断 ・表現								
技能	③他者と信頼関係を築くための基礎的な技術を習得し実践できる。＜DP2,3＞ ④新しい学習方略を習得し実践できる。＜DP2,3＞							
関心・意欲 ・態度	⑤他者から信頼されるための自身の課題を整理し表現できる。＜DP2,3＞							
授業形態								
演習	講義、演習							
授 業 計 画								
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容					
1～3	横山	円滑なコミュニケーション1～3	他者に信頼される言葉遣い、態度について学ぶ。 具体的には、言葉遣い、レポートの書き方、メールの書き方、演習を通して学ぶ。					
4	横山	学習の仕方	授業時のノートの取り方、学習事項のまとめ方について講義する。					
5～7	横山	学習方略の使用	実際の科目と連動させた学習方略を使用しての学習					
8	横山	学習方略の使用	実際の科目と連動させた学習方略を使用しての学習					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	参加態度				●	●	50	②④⑤
	レポート	●	●	●	●		50	①③⑤
評価の 特記事項	参加態度 (50%)、レポート (50%) で評価します。基準点の60点に満たない場合は、再度レポートを課します。							

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
授業の中で配布した資料を用いて予習、復習を行ってください（1回につき1～2時間程度）。言葉遣いや、態度は常日頃から気をつけ信頼関係の構築に努めてください。後半の学習方略の使用については試験に備えての学習に繋がりますから継続してください。（1回につき1～2時間程度）。
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法
レポートは採点后、希望者には返却します。成績の評価の内容については随時フィードバックします。
教科書
なし
参考図書
適宜紹介する。
備考：履修者への要望
医療従事者として信頼関係を築くための人間性を磨いていくために、挨拶の習慣、約束を守ること、その他報告・連絡・相談することを行います。恥ずかしがらずにチャレンジしてください。

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数		
教養演習		リハビリテーション学科 作業療法学専攻	3学年	必修	2単位	14時間		
担当教員名								
横山 剛、加藤 真夕美、渡邊 豊明、清水 一輝、松田 裕美、廣渡 洋史、外倉 由之								
実務経験のある教員								
横山 剛、加藤 真夕美、渡邊 豊明、清水 一輝、松田 裕美、廣渡 洋史、外倉 由之 以上の教員は、医療機関や介護保険領域の施設等において理学療法士・作業療法士として勤務した経験を有する								
授業概要								
病院・施設の見学を通じて社会や医療の中における、作業療法士の役割と責任を全体的に理解するため、また、1～3年次における専門的な学習を統合し、臨床実習Ⅰ～Ⅳに向けての準備を行う。								
学習到達目標								
知識・理解	①作業療法士の役割や専門的な内容を体系的に理解できる。(DP1)							
思考・判断・表現	②症例を把握し、その問題解決のために作業療法士として可能なことを概念的に把握できる。(DP5) ③見学した病院・施設の目的・役割・治療方針・施設組織、および作業療法部門の役割を把握し、その中でリハビリテーションとしての作業療法の意義を把握できる。(DP5) ④学内で学んだ基礎知識が実際にはどのような意味を持つのかを考え、これ以降の専門的な学習を通じての知識習得をより効果的かつ有意義に行えるように準備できる。(DP5)							
技能	⑤先輩作業療法士、他の医療スタッフと交流し、将来、作業療法士(専門職)としての資質向上のために役立てることができる。(DP2)							
関心・意欲・態度	⑥作業療法の対象者や、スタッフおよび診療現場全体に対して必要な配慮、心配りなどができ、医療従事者として相応しい態度を身につけられる。(DP3・4)							
授業形態								
演習	学外での実習形態とする。							
授 業 計 画								
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容					
1～23	横山・加藤・清水・渡邊・松田・廣渡・外倉	1年次の2/18-3/8の期間内に1週間の日程で行う。 施設見学実習①	1. 実習前ガイダンス 実習のオリエンテーション、セミナーを実施し、実習への心構え、態度、その他準備すべきことを周知する。その上で、各自必要な実習前学習を行う。 2. 医療機関・福祉施設などへ赴き、規定期間実習実施 左記規定期間施設において、実習目標が達成できるよう実習を行う。 3. 実習終了後、学内での実習報告会、内容検討会などを実施し、実習報告レポートを本学へ提出する。 (実習目標およびそれに関する詳細は、学修の手引き別頁の「臨床実習」を参照のこと。また、その他の詳細については、事前のガイダンスにて提示する)					
24～30	横山・加藤・清水・渡邊・松田・廣渡・外倉	3年次の4/6-10/2の期間内に行われる臨床実習ⅢⅣのうち、それぞれ初日(計2日間)を本講義として取り扱う。 施設見学実習②	1. 実習前ガイダンス 実習のオリエンテーション、セミナーを実施し、実習への心構え、態度、その他準備すべきことを周知する。その上で、各自必要な実習前学習を行う。 2. 医療機関・福祉施設などへ赴き、規定期間実習実施 左記規定期間施設において、実習目標が達成できるよう実習を行う。 3. 実習終了後、学内での実習報告会、内容検討会などを実施し、実習報告レポートを本学へ提出する。 (実習目標およびそれに関する詳細は、学修の手引き別頁の「臨床実習」を参照のこと。また、その他の詳細については、事前のガイダンスにて提示する)					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	実習指導者による評価		●	●	●	●	40	①②③④⑤⑥
	レポート課題		●	●			10	①②③④
	セミナー報告		●	●			50	①②③④

<p>評価の特記事項</p>	<p>①各施設の実習指導者による実習目標に基づいた具体的項目についての評価、          ②実習中に作成したレポートなど課題の内容、          ③実習後の報告会（セミナー）での報告および質疑応答内容、          以上3点を総合的にみて、学内の専攻内実習判定委員会にて、学習目標が達成できたと判断された場合に合格とします。実習前ガイダンス、および実習後の報告会（セミナー）には必ず出席してください。欠席の場合は、実習を見合わせることもあります。</p>
<p>準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p>	
<p>（予習）実習前までに、それまでに学んだ知識について整理しておいてください。          事者として、また社会人として身につけておくべき資質について考え、まとめておいてください。          （復習）実習での経験やセミナー発表で得た視点などをまとめ、今後に向けた課題を抽出し取り組んでください。</p> <p style="text-align: right;">実習を通して、医療従</p>	
<p>課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法</p>	
<p>・実習中に解らないことや疑問に思ったことは自ら調べまとめます。その内容は「デイリーノート」に記し、実習指導者からフィードバックをその都度受け、解決するよう努力します。デイリーノートは、実習後に学内教員に提出します。          ・実習で学んだことを「実習レポート」にまとめ、実習中に実習指導者からその内容について指導を受けます。実習指導者により認可されたレポートを、実習後に学内教員に提出します。          ・実習で学んだことを「実習後セミナー」で発表します。セミナー用にレジメを作成します。発表の場で教員からのフィードバックを受けます。</p>	
<p>教科書</p>	
<p>必要に応じ資料を配布します。</p>	
<p>参考図書</p>	
<p>関係成書すべて</p>	
<p>備考：履修者への要望</p>	
<p>・作業療法士になるための総合的な学習の場として、知識、技術、態度など多角的に能力を高められるように取り組んでください。          ・受け身的な態度ではなく積極的に指導者や職員に働きかけ、疑問を解決しましょう。          ・学内での学習内容を統合するような実習をしましょう。</p>	

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
解剖学 I	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
清島 大資					
実務経験のある教員					
清島大資：医学部解剖学教室に所属する教員が、正常構造をそれぞれの働きと関連させて系統的に理解してもらうため、人体の構造と機能に関して講義を行う。					
授業概要					
医療専門職を目指す者にとっては、人体の構造と機能に関して高度かつ正確な知識が必要とされる。すべての学習の前提となる人体構造の基本的概念・事項を習得し、人体の構造と機能を理解することで人の全体像をつかむ。本科目では、骨格系・筋系・末梢神経系を部位ごとに学習する。授業は、講義形式により実施し、予習・復習は、授業プリントによるアクティブラーニングを推奨する。					
学習到達目標					
知識・理解	①人体を構成する骨格系や筋系や末梢神経系の肉眼的ならびに組織学的な正常構造をそれぞれの働きと関連させて系統的に理解し、説明できる。(DP1)				
思考・判断 ・表現					
技能					
関心・意欲 ・態度					
授業形態					
講義	アクティブラーニング（授業プリント）と補足資料、スライドによる講義を中心に行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	清島	解剖学総論	解剖学とは、人体の構造、器官系、細胞と組織		
2	清島	組織学総論	上皮組織、結合組織、骨組織、軟骨組織、血液、筋組織、神経組織		
3	清島	骨格総論	骨の構造と発生、広義の関節、狭義の関節		
4	清島	筋学総論	骨格筋の構造・機能、神経、補助装置、筋の作用と運動		
5	清島	上肢の骨格	上肢帯と自由上肢の骨の名称と形態、関節		
6	清島	上肢の筋	上肢帯と上腕と前腕と手の筋		
7	清島	末梢神経 1	上肢の神経、頭頸部の神経		
8	清島	下肢の骨格	下肢帯と自由下肢の骨の名称と形態、関節		
9	清島	下肢の筋	下肢帯と大腿と下腿と足の筋		



10	清島	末梢神経 2	下肢の神経、体幹の神経					
11	清島	体幹の骨格	脊柱と胸郭を構成する骨の名称と形態、関節					
12	清島	体幹の筋	胸壁筋、腹壁筋、背筋、会陰筋、体幹の運動					
13	清島	頭蓋	頭蓋（神経頭蓋・顔面頭蓋）の骨の名称と形態、関節					
14	清島	頭頸部の筋	頭部の筋、頸部の筋、頭頸部の運動					
15	清島	発生学総論	人体の発生					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●				90	①
	小テスト		●				10	①
評価の 特記事項	点数が全体の6割以下の場合、再試験を行うことがある。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
シラバスに沿って講義を進めるので、その日の講義項目について予習をして講義に臨むこと（30分程度）。予習で理解しにくかったことを講義で解決するように意識して受講する。講義後は必ずその日の内容をまとめ、知識の整理、復習に努めること（30分程度）。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
試験終了後に解説を行うことでフィードバックする。								
教科書								
「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト」（医学書院）・「骨学のすゝめ」（南江堂）・「骨格筋の形と触察法」（大峰閣）・「機能解剖で斬る神経系疾患第2版」（メディカルプレス）								
参考図書								
「臨床解剖学サブノート」（愛知医科大学解剖学講座）								
備考：履修者への要望								
解剖学は器官系に分けて講義されるが、これらの器官系は互いに関連し合って機能し、生命活動に働いている。したがって学生は学習した事柄をばらばらに覚えるのではなく、自らがつなぎ合わせ、有機的に関連させて理解する努力を怠ってはならない。解剖学の学習では解剖学名を暗記しなくてはならないが、大切なことは人体の構造をその機能と関連させて理解することであり、解剖学名の暗記は必要最小限にとどめながら講義をする。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
解剖学Ⅱ	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
中野 隆					
実務経験のある教員					
中野 隆：医学部において、解剖学とくに臨床医学の理解に重要な臨床解剖学の教育と研究に携わってきた。リハビリテーション医学に必須の内容に的を絞った講義を行う。					
授業概要					
解剖学用語の単なる暗記ではなく、解剖学的知識をリハビリテーション医学の理解に応用できることを主眼とした講義を行う。					
学習到達目標					
知識・理解	①循環器系、内臓系等の正常構造と機能について、臨床医学とくに病態生理の理解に応用できる。(DP1)				
思考・判断 ・表現	②解剖学の知識を応用して、循環器および内臓疾患の病態を説明できる。(DP1)				
技能					
関心・意欲 ・態度	③循環器系、内臓系疾患のメカニズムについて、臨床解剖学的視点で考察できる。(DP1)				
授業形態					
講義	学生自らの思考過程を重視し、理解を深めるように講義を進める。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	中野	循環器系	心臓, 大循環		
2	中野	循環器系	小循環, リンパ系		
3	中野	消化器系	口腔, 食道		
4	中野	消化器系	胃, 小腸, 大腸		
5	中野	消化器系	肝臓, 門脈系		
6	中野	消化器系	胆路系, 膵臓		
7	中野	呼吸器系	鼻腔, 副鼻腔, 咽頭		
8	中野	呼吸器系	喉頭, 嚥下反射		
9	中野	呼吸器系	気管, 気管支, 肺		

10	中野	泌尿器系	腎臓					
11	中野	泌尿器系	尿管, 膀胱, 尿道, 排尿反射					
12	中野	男性生殖器系	精巣, 精巣上体, 副生殖腺					
13	中野	女性生殖器系	子宮, 卵巣, 卵管, 外陰部					
14	中野	感覚器	視覚器, 視覚伝導路					
15	中野	感覚器	平衡聴器, 皮膚					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●	●			90	①②
	受講態度					●	10	③
評価の 特記事項	全ての評価方法を合計した評点が60点未満の場合, 再試験を行う。受講態度が不良の場合は, 減点の対象とする。							
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間								
講義内容について教科書を用いて復習し, 解剖学あるいは他教科において学んだ知識を有機的に結び付けて理解を深める。								
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法								
試験内容について質問を受け付け, 必要に応じて解説する。								
教科書								
「臨床解剖学サブノート」(愛知医科大学解剖学講座), 「機能解剖で斬る神経系疾患第2版」(メディカルプレス), 「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト」(医学書院), 「骨学のすゝめ」(南江堂)								
参考図書								
備考: 履修者への要望								
知識は実際に使ってみなければ身に付かない。断片的な知識の暗記ではなく, 知識を自ら応用して問題を解決する学習姿勢が必須である。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
解剖学Ⅲ	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
中野 隆					
実務経験のある教員					
中野 隆：医学部において、解剖学とくに臨床医学の理解に重要な臨床解剖学の教育と研究に携わってきた。リハビリテーション医学に必須の内容に的を絞った講義を行う。					
授業概要					
生体の正常構造と機能を理解し、臨床医学とくにリハビリテーション医学において重要な中枢神経徴候に直結する解剖学的知識を学ぶ。					
学習到達目標					
知識・理解	①中枢神経系の正常構造と機能について、臨床医学とくに中枢神経徴候の理解に応用できる。(DP1)				
思考・判断 ・表現	②解剖学的知識を応用して、中枢神経徴候の説明ができる。(DP1)				
技能					
関心・意欲 ・態度	③中枢神経徴候のメカニズムについて、臨床解剖学的視点で自ら考察できる。(DP2)				
授業形態					
講義	学生自らの思考過程を重視し、理解を深めるように講義を進める。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	中野	神経系総論	中枢神経系と末梢神経系の概観、組織構造		
2	中野	中枢神経系総論	脳室系、髄膜、脳脊髄液		
3	中野	脊髄	脊髄と脊髄神経		
4	中野	脊髄	脊髄の構造		
5	中野	脳幹	神経核、脳幹網様体、中脳		
6	中野	脳幹	橋、延髄		
7	中野	小脳	小脳皮質、小脳髄質、小脳核、小脳の機能、小脳症状		
8	中野	間脳	視床、視床下部、下垂体、松果体、視床下核		
9	中野	大脳	大脳の外景、内景(大脳皮質、大脳髄質、大脳核、内包)		

10	中野	大脳	大脳皮質の機能局在					
11	中野	中枢神経系の脈管	中硬膜動脈, 静脈洞, 脳の動脈, 脊髄の動脈					
12	中野	伝導路	知覚性伝導路					
13	中野	伝導路	知覚性伝導路					
14	中野	伝導路	錐体路と錐体外路系					
15	中野	伝導路	錐体路と錐体外路系					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	筆記試験		●	●			90	①②
	受講態度					●	10	③
評価の 特記事項	全ての評価方法を合計した評点が60点未満の場合, 再試験を行う。受講態度が不良の場合は, 減点の対象とする。							
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間								
講義内容について教科書を用いて復習し, 解剖学あるいは他教科において学んだ知識を有機的に結び付けて理解する。								
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法								
試験内容について質問を受け付け, 必要に応じて解説する。								
教科書								
「臨床解剖学サブノート」(愛知医科大学解剖学講座), 「機能解剖で斬る神経系疾患第2版」(メディカルプレス), 「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト」(医学書院), 「骨学のすゝめ」(南江堂)								
参考図書								
備考: 履修者への要望								
知識は実際に使ってみなければ身に付かない。断片的な知識の暗記ではなく, 知識を自ら応用して問題を解決する学習姿勢が必須である。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
解剖学実習	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
山田 南欧美、外倉 由之、木山 博資、木村 菜穂子、松村 仁実、清水 一輝、渡邊 豊明、廣渡 洋史					
実務経験のある教員					
<p>実務経験のある教員</p>					
授業概要					
<p>人体の構造の理解は、解剖学成書による知識だけでは不十分で、構造を実際に三次元的に理解し、その触感、重さ、硬さなどを体験することによって知識として身に付くものである。本科目では、骨格の形態、筋肉の形態、その他人体の構造を実際に見学することによって解剖学的知識を深め、確実な知識とすることを目的とする。基本的には1年次前期に、骨格標本を使って骨学を中心に学び、1年生後期と2年次に集中講義形式で、解剖遺体の見学を行う。(詳細については、授業初回に案内する。)</p>					
学習到達目標					
知識・理解	<p>①骨格構造を三次元的に理解できる。(DP1、2)          ②筋の構造や走行、働きを三次元的に理解できる。(DP1、2)          ③人体の臓器・神経・血管系その他の構造、配置などを三次元的に理解できる。(DP1、2)</p>				
思考・判断 ・表現	<p>④骨格構造を三次元的に説明できる。(DP1、2)          ⑤筋の構造や走行、働きを三次元的に説明できる。(DP1、2)          ⑥人体の臓器・神経・血管系その他の構造、配置などを三次元的に説明できる。(DP1、2)</p>				
技能					
関心・意欲 ・態度	<p>⑦解剖学実習を通して命の尊さを実感できる。(DP3、4)</p>				
授業形態					
実習	<p>解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学ぶ知識と結び付けながら、骨格標本を使って実際の骨格の構造を三次元的に学ぶ。また、骨デッサンを行いながら構造のイメージ化を行う。基本的には骨標本を用いた実習形式を取るが、昨今の状況を鑑み、必要に応じて動画配信等の遠隔授業を展開する場合がある。その場合は、事前にその方法を通知する。          人体解剖遺体見学(解剖見学実習)を通して解剖学講義で学習した知識の確認および骨格構造・筋構造・人体の臓器・神経・血管系その他の構造を確認する。ただし、昨今の状況により解剖見学実習を実施できなかった場合、解剖見学実習に代わる課題を提示することがある。</p>				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	山田・外倉	解剖学を学ぶ意味と命の尊厳	医療者として解剖学を学ぶ上での心構えを学ぶ		
2	山田・外倉	骨格の基本構造と役割	骨格の基本構造と役割を学ぶ		
3	山田・外倉	頭部の骨格	頭部骨格の構造と役割を学ぶ		
4	山田・外倉	骨デッサン	頭部骨格のデッサンを行う		
5	山田・外倉	上肢帯、上肢の骨格	上肢帯、上肢の骨格の構造と役割を学ぶ		
6	山田・外倉	骨デッサン	上肢帯、上肢骨格のデッサンを行う		
7	山田・外倉	下肢の骨格	下肢骨格の構造と役割を学ぶ		
8	山田・外倉	骨デッサン	下肢骨格のデッサンを行う		

9	山田・外倉	脊柱・骨盤	脊柱、骨盤の構造と役割を学ぶ					
10	山田・外倉	骨デッサン	脊柱、骨盤のデッサンを行う					
11	山田・外倉	口頭試問	これまでに学んだ骨格構造に関する口頭試問を実施する					
12	木山・木村・山田・松村・渡邊・清水・外倉・廣渡	解剖見学実習	解剖見学実習を通して解剖学で学んだ知識を確認する					
13	木山・木村・山田・松村・渡邊・清水・外倉・廣渡	解剖見学実習	解剖見学実習を通して骨格構造を確認する					
14	木山・木村・山田・松村・渡邊・清水・外倉・廣渡	解剖見学実習	解剖見学実習を通して筋構造を確認する					
15	木山・木村・山田・松村・渡邊・清水・外倉・廣渡	解剖見学実習	解剖見学実習を通して人体の臓器・神経・血管系その他の構造を確認する					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●				40	①②③
	骨デッサン		●	●		●	20	①～⑦
	口頭試問		●	●		●	20	①～⑦
	レポート (1年次解剖見学実習)		●	●		●	10	①～⑦
レポート (2年次解剖見学実習)		●	●		●	10	①～⑦	
評価の 特記事項	<p>骨デッサンは、教員によるチェックを行い、最終的にスケッチブックを提出のうえ、評価を行う。口頭試問は、1年次に実施する。詳細な実施方法については、初回授業にて説明する。レポートは、解剖見学実習に行く際に作成し、提出のうえ、評価を行う。</p> <p>解剖見学実習は1年生後期と2年次に計2回実施する予定であり、それぞれの解剖見学実習の参加およびレポート提出を単位認定の必須条件とする。2年次の解剖見学実習は、1年次に実施する筆記試験・口頭試問・骨デッサンの合計点が6割を満たさない場合、参加を認めない。なお、別途開講される解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの成績不良者は解剖見学実習に参加できない場合がある。また、解剖見学実習に関するガイダンスの出席状況および解剖見学実習に関する課題等の提出状況によっては、解剖見学実習に参加できない場合がある。昨今の状況により、解剖見学実習を実施できない場合、代わりの課題を提示することがある。</p>							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
初回授業にて授業の進め方の詳細を提示するので、その進め方に沿った予習・復習を行うこと。（約2時間）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
骨デッサンについては、教員がチェックをし、フィードバックを行う。骨デッサン期間中、確認テストを実施する。口頭試問・筆記試験に関する疑問点・質問は随時受け付ける。解剖見学実習レポートのフィードバックについては、解剖見学実習ガイダンス時に説明する。								
教科書								
解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにて使用する教科書に準ずる。								
参考図書								
解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにて使用する参考図書に準ずる。								
備考：履修者への要望								
解剖学を含めて医学を学ぶ者は、その知識や技術が歴史的に多くの命の上に成り立っていることを自覚する必要がある。その一つとして、骨格標本とそれを提供してくれた故人に対して感謝の気持ちと、命に対する尊敬の意を持って受講することを義務とする。将来、人の命を預かる職域に就く者としての当然の心構えと態度、積極性を求める。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
解剖学実習	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
木村 菜穂子、山田 南欧美、松村 仁実、渡邊 豊明、清水 一輝、木山 博資、外倉 由之、廣渡 洋史、松田 裕美					
実務経験のある教員					
授業概要					
<p>人体の構造の理解は、解剖学成書による知識だけでは不十分で、構造を実際に三次元的に理解し、その触感、重さ、硬さなどを体験することによって知識として身に付くものである。本科目では、骨格の形態、筋肉の形態、その他人体の構造を実際に見学することによって解剖学的知識を深め、確実な知識とすることを目的とする。基本的には1年次前期に、骨格標本を使って骨学を中心に学び、1年生後期と2年次に集中講義形式で、解剖遺体の見学を行う。(詳細については、授業初回に案内する。)</p>					
学習到達目標					
知識・理解	①骨格構造を三次元的に理解できる。(DP1、2) ②筋の構造や走行、働きを三次元的に理解できる。(DP1、2) ③人体の臓器・神経・血管系その他の構造、配置などを三次元的に理解できる。(DP1、2)				
思考・判断 ・表現	④骨格構造を三次元的に説明できる。(DP1、2) ⑤筋の構造や走行、働きを三次元的に説明できる。(DP1、2) ⑥人体の臓器・神経・血管系その他の構造、配置などを三次元的に説明できる。(DP1、2)				
技能					
関心・意欲 ・態度	⑦解剖学実習を通して命の尊さを実感できる。(DP3、4)				
授業形態					
実習	<p>解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ知識と結び付けながら、骨格標本を使って実際の骨格の構造を三次元的に学ぶ。また、骨デッサンを行いながら構造のイメージ化を行う。基本的には骨標本を用いた実習形式を取るが、昨今の状況を鑑み、必要に応じて動画配信等の遠隔授業を展開する場合がある。その場合は、事前にその方法を通知する。</p> <p>人体解剖遺体見学(解剖見学実習)を通して解剖学講義で学習した知識の確認および骨格構造・筋構造・人体の臓器・神経・血管系その他の構造を確認する。ただし、昨今の状況により解剖見学実習を実施できなかった場合、解剖見学実習に代わる課題を提示することがある。</p>				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	山田・松田	解剖学を学ぶ意味と命の尊厳	医療者として解剖学を学ぶ上での心構えを学ぶ		
2	山田・松田	骨格の基本構造と役割	骨格の基本構造と役割を学ぶ		
3	山田・松田	頭部の骨格	頭部骨格の構造と役割を学ぶ		
4	山田・松田	骨デッサン	頭部骨格のデッサンを行う		
5	山田・松田	上肢帯、上肢の骨格	上肢帯、上肢の骨格の構造と役割を学ぶ		
6	山田・松田	骨デッサン	上肢帯、上肢骨格のデッサンを行う		
7	山田・松田	下肢の骨格	下肢骨格の構造と役割を学ぶ		
8	山田・松田	骨デッサン	下肢骨格のデッサンを行う		



9	山田・松田	脊柱・骨盤	脊柱、骨盤の構造と役割を学ぶ					
10	山田・松田	骨デッサン	脊柱、骨盤のデッサンを行う					
11	山田・松田	口頭試問	これまでに学んだ骨格構造に関する口頭試問を実施する					
12	木山・木村・山田 松村・渡邊・清水 外倉・廣渡	解剖見学実習	解剖見学実習を通して解剖学で学んだ知識を確認する					
13	木山・木村・山田 松村・渡邊・清水 外倉・廣渡	解剖見学実習	解剖見学実習を通して骨格構造を確認する					
14	木山・木村・山田 松村・渡邊・清水 外倉・廣渡	解剖見学実習	解剖見学実習を通して筋構造を確認する					
15	木山・木村・山田 松村・渡邊・清水 外倉・廣渡	解剖見学実習	解剖見学実習を通して人体の臓器・神経・血管系その他の構造を確認する					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法		●				40	①②③
	筆記試験		●	●		●	20	①⑦
	骨デッサン		●	●		●	20	①⑦
	口頭試問		●	●		●	20	①⑦
レポート		●	●		●	20	①⑦	
評価の特記事項		<p>骨デッサンは、教員によるチェックを行い、最終的にスケッチブックを提出のうえ、評価を行う。口頭試問は、1年前期最終授業内にて実施する。詳細な実施方法については、初回授業にて説明する。レポートは、解剖見学実習に行く際に作成し、提出のうえ、評価を行う。</p> <p>解剖見学実習は1年生後期と2年次に計2回実施する予定であり、それぞれの解剖見学実習の参加およびレポート提出を単位認定の必須条件とする。2年次の解剖見学実習は、1年次に実施する筆記試験・口頭試問・骨デッサンの合計点が6割を満たさない場合、参加を認めない。なお、別途開講される解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの成績不良者は解剖見学実習に参加できない場合がある。また、解剖見学実習に関するガイダンスの出席状況および解剖見学実習に関する課題等の提出状況によっては、解剖見学実習に参加できない場合がある。昨今の状況により、解剖見学実習を実施できない場合、代替りの課題を提示することがある。</p>						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
初回授業にて授業の進め方の詳細を提示するので、その進め方に沿った予習・復習を行うこと。（約2時間）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
骨デッサンについては、教員がチェックをし、フィードバックを行う。骨デッサン期間中、確認テストを実施する。口頭試問・筆記試験に関する疑問点・質問は随時受け付ける。解剖見学実習レポートのフィードバックについては、解剖見学実習ガイダンス時に説明する。								
教科書								
解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにて使用する教科書に準ずる。								
参考図書								
解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにて使用する参考図書に準ずる。								
備考：履修者への要望								
解剖学を含めて医学を学ぶ者は、その知識や技術が歴史的に多くの命の上に成り立っていることを自覚する必要がある。その一つとして、骨格標本とそれを提供してくれた故人に対して感謝の気持ちと、命に対する尊厳の意を持って受講することを義務とする。将来、人の命を預かる職域に就く者としての当然の心構えと態度、積極性を求める。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
生理学 I	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
宮津 真寿美					
実務経験のある教員					
授業概要					
<p>生理学とはどのような仕組みで私達の体が正常に機能しているのかを追求する学問である。神経、筋肉、心臓、肺、肝臓、腎臓を始めとして人体のさまざまな器官は、たくみに機能しており、それらの働きは驚くほど精妙に調節されている。この正常な仕組みが破たんすると、疾病になる。医療専門職を旨とするにあたって、体の正常な仕組みを学ぶことは非常に大事である。生理学 I では、動物性器官において、我々の体がどのように機能しているのかを学ぶ。</p>					
学習到達目標					
知識・理解	①動物性器官における各器官の特徴と機能が説明できる。(DP1)				
思考・判断 ・表現	②器官内、器官間の調節機能が説明できる。(DP1)				
技能					
関心・意欲 ・態度	③学修ポイントを理解し、予習として教科書の内容を理解することができ、授業後、復習することができる。(DP1、2、5)				
授業形態					
講義	自己学習(予習・復習) + リアルタイム スライド動画Meet授業				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	宮津	オリエンテーション 生理学とは	授業オリエンテーション、生理学とは、細胞・組織・器官、生体の機能、生体の特性(ホメオスタシス、刺激-興奮、刺激-適応) :教科書 第1章		
2	宮津	オリエンテーション 生理学とは	授業オリエンテーション、生理学とは、細胞・組織・器官、生体の機能、生体の特性(ホメオスタシス、刺激-興奮、刺激-適応) :教科書 第1章		
3	宮津	筋収縮	骨格筋、骨格筋の構造、収縮の仕組み :教科書 第11章		
4	宮津	筋収縮	収縮の仕組み :教科書 第11章		
5	宮津	筋収縮	心筋と平滑筋 :教科書 第11章		
6	宮津	神経系	神経系の分類、ニューロンの興奮 :教科書 第12章		
7	宮津	神経系	シナプス、グリア細胞とその機能 :教科書 第12章		
8	宮津	自律神経	末梢自律神経系の構成、自律神経系の特徴、自律神経系の伝達物質と受容体 :教科書 第13章		
9	宮津	自律神経	自律神経系による内臓支配、自律反射、脳幹・視床下部、概日リズム :教科書 第13章		

10	宮津	脳	ヒトの脳の全体像、大脳、記憶、言語、睡眠と覚醒、情動 ：教科書 第14章
11	宮津	感覚	感覚とは、視覚、聴覚、平衡感覚 ：教科書 第15章
12	宮津	感覚	体性感覚、内蔵感覚、味覚、臭覚 ：教科書 第15章
13	宮津	運動の調節	運動に関する脳部位、運動神経と運動単位、脊髄、脳幹 ：教科書 第16章
14	宮津	運動の調節、骨	大脳皮質、運動学習と自動運動（大脳基底核と小脳）、運動関連部位の接続 ：教科書 第16章 骨の構造、骨の成長とモデリング、骨のカルシウム代謝とリモデリング、関節 ：教科書 第17章
15	宮津	まとめ	授業のまとめ

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
		筆記試験	●	●			80	①②
		予習報告	●	●		●	20	①②③

評価の 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>予習報告（20%）は、基準を定めて評価する。</li> <li>すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施する。</li> </ul>
-------------	---

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

（予習）配布した予習ガイドを参考に、教科書を読み、内容を理解し、フォームで予習報告する。約2～6時間  
（復習）授業スライドを振り返り、理解する。学習成果を確認するため、先回授業に関する確認小テストを実施する。約2～6時間  
\*授業時間を含む

課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法

課題（試験、小テスト、予習）に対する疑問点や質問は、随時受け付ける。  
筆記試験は返却しないが、希望があれば研究室内での閲覧が可能である。

教科書

「やさしい生理学」南江堂

参考図書

「シンプル生理学」（南江堂）、「生理学テキスト」文光堂、「コスタンプ明解生理学」エルゼビア・ジャパン、「標準理学療法学・作業療法学 生理学」医学書院、「トートラ人体解剖生理学」丸善株式会社、「初めの一步のイラスト生理学」他、多数の生理学の成書が参考になる。

備考：履修者への要望

生理学の知識を基に、次の段階として、疾患学、治療学と進んでいく。つまり、生理学的知識は、理学療法・作業療法を学ぶ上での土台となる。その土台を堅固なものにするため、各自で予習復習を行い、確実な知識となるように努めてほしい。

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
生理学Ⅱ	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
宮津 真寿美					
実務経験のある教員					
授業概要					
<p>生理学とはどのような仕組みで私達の体が正常に機能しているのかを追求する学問である。神経、筋肉、心臓、肺、肝臓、腎臓を始めとして人体のさまざまな器官は、たくみに機能しており、それらの働きは驚くほど精妙に調節されている。この正常な仕組みが破たんすると、疾病になる。医療専門職を旨とするにあたって、体の正常な仕組みを学ぶことは非常に大事である。生理学Ⅱでは、植物性器官において、我々の体がどのように機能しているのかを学ぶ。</p>					
学習到達目標					
知識・理解	①植物性器官における各器官の特徴と機能が説明できる。(DP1)				
思考・判断 ・表現	②器管内、器官間の調節機能が説明できる。(DP1)				
技能					
関心・意欲 ・態度	③学修ポイントを理解し、予習として教科書の内容を理解することができ、授業後、復習することができる。(DP1、2、5)				
授業形態					
講義	自己学習(予習・復習)と、リアルタイム スライド動画Meet授業を組み合わせで行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	宮津	血液と体液	体液の区分と組成、血液の成分と血液量、血液細胞とその機能、骨髄、止血機構、血液型 :教科書 第2章		
2	宮津	循環	循環の概念、心臓の役割 :教科書 第3章		
3	宮津	循環	心電図、心臓の血液拍出の仕組み :教科書第3章		
4	宮津	循環	血管系の役割、動脈圧の調節 :教科書 第3章		
5	宮津	呼吸	呼吸器の構成、呼息と吸息、 :教科書 第4章		
6	宮津	呼吸	肺容量、肺胞換気と肺胞内ガス組成、血液によるガス運搬、血液のpH緩衝作用 :教科書 第4章		
7	宮津	呼吸	呼吸中枢、呼吸の化学的調節、低酸素症 :教科書 第4章		
8	宮津	消化と吸収	消化器系の構成、消化と吸収、消化管の微細構造、消化管壁の筋肉の働き、消化液分泌、神経とホルモンによる消化管機能の調節、消化器系の血液循環の特徴 :教科書 第5章		
9	宮津	消化と吸収	食物の流れの時間経過、口腔内消化、胃内消化、小腸内消化と吸収、大腸内消化と吸収、食欲の調節 :教科書 第5章		

10	宮津	尿の生成と排泄	腎の構造と機能、糸球体における濾過、尿細管における再吸収と分泌、尿の濃縮と希釈 ：教科書 第6章					
11	宮津	尿の生成と排泄	腎血流量とその調節、クリアランスによる腎機能の測定、腎における酸と塩基の調節、体液の調節、尿の組成と排尿 ：教科書 第6章					
12	宮津	内分泌	内分泌一般、内分泌器官とホルモンの作用 ：教科書 第9章					
13	宮津	代謝	エネルギーのバランス、代謝量、代謝量の測定 ：教科書 第7章					
14	宮津	体温	体温調節の基礎、内因性に体温レベルを決定する因子、運動時の体温調節 ：教科書 第8章					
15	宮津	まとめ	授業のまとめ					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●	●			80	①②
	予習報告		●	●		●	20	①②③
評価の 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>予習報告（20％）は、基準を定めて評価する。</li> <li>すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施する。</li> </ul>							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
<p>（予習）配布した予習ガイドを参考に、教科書を読み、内容を理解し、フォームで予習報告する。約2～6時間  （復習）授業スライドを振り返り、理解する。学習成果を確認するため、前回授業に関する確認小テストを実施する。約2～6時間  *授業時間を含む</p>								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
<p>課題（試験、小テスト、予習）に対する疑問点や質問は、随時受け付ける。  筆記試験は返却しないが、希望があれば研究室内での閲覧が可能である（成績開示後、1週間程度）。</p>								
教科書								
「やさしい生理学」南江堂								
参考図書								
「シンプル生理学」（南江堂）、「生理学テキスト」文光堂、「コスタンゾ明解生理学」エルゼビア・ジャパン、「標準理学療法学・作業療法学 生理学」医学書院、「トータル人体解剖生理学」丸善株式会社、「初めの一步のイラスト生理学」他、多数の生理学の成書が参考になる。								
備考：履修者への要望								
生理学の知識を基に、次の段階として、疾患学、治療学と進んでいく。つまり、生理学的知識は、理学療法・作業療法を学ぶ上での土台となる。その土台を堅固なものにするため、各自で予習復習を行い、確実な知識となるように努めてほしい。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
生理学実習	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	45時間
担当教員名					
宮津 真寿美、齊藤 誠、清水 一輝、松田 裕美、濱田 光佑、外倉 由之					
実務経験のある教員					
授業概要					
生理学実習では、生理学で学修した知識を実習によって再確認し、実習結果を解釈・考察する。具体的には、グループで、実習課題についての基礎的知識を再習得し、基本的な人体の反応を観察する実習課題などに取り組み、文献などを踏まえて、実習結果、考察をレポートとしてまとめる。さらに、最後に、実習課題の結果や考察の発表・討論を行う。これらを通し、正常な人体の構造や機能について改めて理解し、説明できることを目標としている。					
学習到達目標					
知識・理解	①実習課題に関する基本的知識が説明できる。(DP1)				
思考・判断 ・表現	②実習から得られた事実に対して、資料や文献を調査し、内容や結果を理解して考察し、要約して他人に説明できる。(DP1、2)				
技能					
関心・意欲 ・態度	③実習内容をわかりやすくまとめ、意見を主張でき、討論ができる。(DP1、2、5)				
授業形態					
実習	グループで、実習課題に取り組み、レポートとしてまとめる。また、実習課題に関する発表、討論を行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	オリエンテーション	コースの概要、実習課題①～⑩の説明、レポートの書き方		
2	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	実習	実習課題① (各グループで、実習課題をローテーションする。)		
3	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	実習	実習課題① (各グループで、実習課題をローテーションする。)		
4	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	実習	実習課題② (各グループで、実習課題をローテーションする。)		
5	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	実習	実習課題② (各グループで、実習課題をローテーションする。)		
6	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	実習	実習課題③ (各グループで、実習課題をローテーションする。)		
7	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	実習	実習課題③ (各グループで、実習課題をローテーションする。)		
8	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	実習	実習課題④ (各グループで、実習課題をローテーションする。)		
9	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	実習	実習課題④ (各グループで、実習課題をローテーションする。)		
10	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	実習	実習課題⑤ (各グループで、実習課題をローテーションする。)		
11	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	実習実習	実習課題⑤ (各グループで、実習課題をローテーションする。)		

12	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	実習	実習課題⑥（各グループで、実習課題をローテーションする。）					
13	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	実習	実習課題⑥（各グループで、実習課題をローテーションする。）					
14	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	実習	実習課題⑦（各グループで、実習課題をローテーションする。）					
15	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	実習	実習課題⑦（各グループで、実習課題をローテーションする。）					
16	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	実習	実習課題⑧（各グループで、実習課題をローテーションする。）					
17	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	実習	実習課題⑧（各グループで、実習課題をローテーションする。）					
18	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	実習	実習課題⑨（各グループで、実習課題をローテーションする。）					
19	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	実習	実習課題⑨（各グループで、実習課題をローテーションする。）					
20	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	実習	実習課題⑩（各グループで、実習課題をローテーションする。）					
21	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	実習	実習課題⑩（各グループで、実習課題をローテーションする。）					
22	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	発表	実習課題の発表と討論					
23	宮津、齊藤、清水 松田、濱田、外倉	発表	実習課題の発表と討論					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	事前学習レポート		●				20	①
	実習レポート		●	●		●	40	①②③
	発表		●	●		●	40	①②③
評価の 特記事項	レポート、発表ともに、グループで評価する。 レポート、発表の評価点は、授業で示す。 授業態度が悪い場合（正当な理由なしの欠席や遅刻を含む）、個人の点数を1～100点の間で減点する。 なお、合格点に満たない場合でも、再試験は実施しない。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
事前学習として、各課題ごとに1～3時間程度必要である。実習レポートの作成、発表準備は、授業時間内でできない分は授業時間外で行う。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
必要に応じて、レポート・発表内容に関して教員とディスカッションする。 質問や疑問は、連絡の上、授業時間外でも受け付ける。								
教科書								
なし。適宜資料を配布する。								
参考図書								
「やさしい生理学 南江堂」他多くの生理学の成書が参考になる。								
備考：履修者への要望								
グループで課題に取り組むため、協力して取り組み、情報共有するようにしてほしい。 グループメンバーに迷惑になるので、正当な理由なき欠席、遅刻は、厳禁である。 また、レポートの提出は期限を厳守すること。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
運動学総論	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
廣渡 洋史					
実務経験のある教員					
廣渡 洋史：医療機関で理学療法士として勤務した教員が、運動力学や運動学の理解に必要な基礎知識について講義する。					
授業概要					
本講義は理学療法学、作業療法学を学ぶ上で必要不可欠な専門用語を習得する。また、運動力学や運動学の理解に必要な基礎知識について解説する。具体的な内容は下記の通りだが、理学療法・作業療法国家試験出題基準 3. 運動学 A. 総論に準じた内容を扱う。					
学習到達目標					
知識・理解	①身体運動のしくみが説明できる。(DP1. DP2) ②骨、神経、筋、関節に関する基礎的な専門用語を正しく理解し、使用できる。(DP1. DP2)				
思考・判断 ・表現	③運動力学の基礎を把握し、単純な力学モデルであれば運動によって生じる力や重心位置などを求めることができる。(DP1. DP2)				
技能					
関心・意欲 ・態度					
授業形態					
講義	テキストを中心に講義を進めるが、一部資料配布とスライドを用いる。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	廣渡	オリエンテーション 運動にかかわる用語の理解	講義に関するオリエンテーションを行う。 運動にかかわる専門用語（運動方向）を理解する。教科書 P213-296から基本的用語を抜粋		
2	廣渡	運動にかかわる用語の理解	運動方向、面と軸など理学療法学、作業療法学を学ぶ上で必要となる運動学的用語を説明し、使用することができるようになる。教科書 P213-296から基本的用語を抜粋		
3	廣渡	生体力学の基礎 (運動法則、力の合成・分解)	運動法則、力の合成・分解などについて説明し、生体力学の基礎を理解する。 教科書 P19-46		
4	廣渡	生体力学の基礎 (モーメント、重心、滑車)	モーメント、重心、滑車などについて説明し、生体力学の基礎を理解する。 教科書 P19-46		
5	廣渡	生体力学の基礎 (関節運動とてこ)	関節運動とてこなどについて説明し、生体力学の基礎を理解する。 教科書 P19-46		
6	廣渡	生体力学の基礎 (仕事、まとめ)	仕事などについて説明し、生体力学の基礎を理解する。練習問題が解けるようになる。 教科書 P19-46		
7	廣渡	骨と関節の役割	骨と関節の役割を説明し、関節の構造や関節の種類を理解する。 教科書 P60-72		
8	廣渡	骨格筋の役割	骨格筋の役割について説明し、筋収縮、弛緩の基本的性質を理解する。 教科書 P72-88		
9	廣渡	骨格筋の役割	筋線維の種類、二関節筋、運動単位など筋の構造と機能について説明し、運動の種類によって筋の構造が異なることを理解する。教科書 P72-88		



10	廣渡	神経の役割	神経の役割、筋紡錘やゴルジ腱器官、反射などについて説明し、運動の中樞神経機構について理解する。教科書 P117-125					
11	廣渡	感覚器の構造と機能	感覚の性質・分類などについて説明し、感覚受容器の機能について理解する。教科書 P154-166					
12	廣渡	呼吸・循環	呼吸器、血液と循環などについて説明し、それぞれの機能について理解する。教科書 P167-212					
13	廣渡	姿勢と歩行	支持基底面や重心、歩行周期、歩行時の筋活動や重心移動について説明し、姿勢、歩行に関する専門用語などの基礎を理解する。教科書 P347-395					
14	廣渡	姿勢と歩行	支持基底面や重心、歩行周期、歩行時の筋活動や重心移動について説明し、姿勢、歩行に関する専門用語などの基礎を理解する。教科書 P347-395					
15	廣渡	総括	各授業のポイントの振り返り・復習をする。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●	●			80	①②③
	小テスト		●	●			20	①②③
評価の 特記事項	定期試験結果が60点に満たない場合、再試験の対象となる。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
事前学習：各講義項目のページを事前に目を通すこと 約30分 事後学習：講義後は復習をすること 約1時間								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
筆記試験は、本学に保管するので、事前に連絡の上、内容を確認することができる。								
教科書								
「基礎運動学 第6版補訂」 中村隆一 他著 医歯薬出版								
参考図書								
なし。必要に応じて資料を配布する。 運動力学に関しては動画を配信する。								
備考：履修者への要望								
本科目は1年の後期以降に学ぶ内容の基礎に当たる。積極的に受講、質問し、理解に努めること。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
運動学 I	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
渡邊 豊明					
実務経験のある教員					
授業概要					
<p>身体運動の仕組みを理解することは、理学療法士・作業療法士にとっては必須である。          本科目では顔面・頭部と上肢の運動について、生体力学・解剖学及び生理学と関連させ、自身の体を動かしながら体験的に理解する。顔面・頭部及び上肢に関して、部位ごとに分け「関節と靭帯の構造」、「筋と関節運動」の順に学び、臨床で必要となる「運動学的な特徴」に関する併せて学修する。授業は、専門科目の基礎を構築する上で、学修した内容を専門用語を用いて他者に説明することができることを目標とし、基本的に講義形式で進める。</p>					
学習到達目標					
知識・理解	①顔面・頭部及び上肢に関して、関節と靭帯の構造を理解し、専門用語を用いて説明することができる。(DP1) ②顔面・頭部及び上肢に関して、筋と関節運動の関連について理解し、専門用語を用いて説明することができる。(DP1) ③顔面・頭部及び上肢に関して、運動学的な特徴について理解し、専門用語を用いて説明することができる。(DP1)				
思考・判断 ・表現					
技能					
関心・意欲 ・態度					
授業形態					
講義	教科書とパワーポイント・模型等を用いた講義形式で進めるが、自身の体を動かしたり、グループワークで理解の確認を行いながら進める。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	渡邊	オリエンテーション 顔面・頭部の運動	科目のオリエンテーション 顔面・頭部について、関節と靭帯、筋と運動について学修する：教科書 4-5		
2	渡邊	上肢総論	上肢の構造、各部の名称再確認し、これから学修する内容とその目的を確認する 上肢を走行する神経・血管について学修する：教科書 4-2		
3	渡邊	上肢帯の運動(1) (上肢帯の関節と靭帯)	上肢帯の関節と靭帯の構造について学修する ：教科書 4-2-1)-(1)(2)		
4	渡邊	上肢帯の運動(2) (上肢帯の筋と運動)	上肢帯の筋と関節運動の関連や特徴について学修する ：教科書 4-2-1)-(3)		
5	渡邊	肩関節の運動(1) (肩の関節と靭帯)	肩関節の関節と靭帯の構造について学修する ：教科書 4-2-1)-(1)(2)		
6	渡邊	肩関節の運動(2) (肩の筋と運動)	肩関節の筋と関節運動の関連や特徴について学修する ：教科書 4-2-1)-(4)		
7	渡邊	肘関節の運動 (肘の関節と靭帯、筋と運動)	肘関節の関節と靭帯の構造及び筋と関節運動の関連や特徴について学修する ：教科書 4-2-2)-(1)(2)		
8	渡邊	前腕の運動 (前腕の関節と靭帯、筋と運動)	前腕の関節と靭帯の構造及び筋と関節運動の関連や特徴について学修する ：教科書 4-2-2)-(1)(2)		
9	渡邊	手関節の運動 (手の関節と靭帯、筋と運動)	手関節の関節と靭帯の構造及び筋と関節運動の関連や特徴について学修する ：教科書 4-2-3)-(1)(2)(3)(6)		

10	渡邊	CM関節の運動 (CM関節の靭帯、筋と運動)	CM関節の関節と靭帯の構造及び筋と関節運動の関連や特徴について学修する :教科書 4-2-3)-(1) (2) (3) (6)					
11	渡邊	手指の運動(1) (手指の関節と靭帯、筋と運動)	手指の関節と靭帯の構造及び筋と運動の関連や特徴について学修する :教科書 4-2-3)-(4) (5) (6)					
12	渡邊	手指の運動(2) (手指の伸展機構)	手指の伸展機構について、その構造と機能を学修する :教科書 4-2-3)-(5)					
13	渡邊	手指の運動(3) (手の機能と肢位)	手の機能(アーチ・把持動作パターン等)について自身の手を動かしながら、体験的に学修する :教科書 4-2-3)-(7) (8) (9)					
14	渡邊	手指の運動(4) (手の変形)	手の変形について、その機序を、指背腱膜の構造・筋の神経支配と関連づけて学修する :教科書 4-2-3)-(10)					
15	渡邊	まとめ (上肢各関節の関連と上肢機能)	これまでに学修した上肢の各関節の関連と上肢の機能や役割について再確認する 必要に応じて補足説明等を行う					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合(%)	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●				80	①②③
	小テスト		●				20	①②③
評価の 特記事項	毎回、授業の最初に小テストを実施する。 すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施する。							
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間								
事前学習:指定した教科書のページの予習(1時間)。 事後学習:講義後は、教科書を読み直すなどの復習(1時間)。小テストの対策(30分)。								
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法								
小テストは授業で返却する。筆記試験は研究室に保管しているので事前に連絡の上、内容を確認することができる。								
教科書								
「基礎運動学」中村隆一 他著 医歯薬出版 「筋骨格系のキネシオロジー」島田智明 監修 医歯薬出版								
参考図書								
「身体運動学 関節の制御機構と筋機能」市橋則明 編集 メジカルビュー社 「カバンディ・関節の生理学」荻島秀夫 監訳 医歯薬出版								
備考:履修者への要望								
授業中の質問、授業後のアンケートにて積極的な参加を要望する。また、分からない部分はそのままにすることなく、積極的に質問に来ること。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
運動学Ⅱ	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
濱田 光佑、臼井 晴信					
実務経験のある教員					
濱田 光佑、臼井 晴信：医療機関で理学療法士として勤務し、運動器疾患のリハビリテーションに従事していた教員が、解剖学、生理学に基づく身体運動についての講義を行う。					
授業概要					
運動は全ての動作や行為の基礎であり、その仕組みを理解することは理学療法士・作業療法士にとって必須事項である。本講義では下肢・体幹の構造や基本的な運動について学ぶ。生体力学・解剖学および生理学と関連させながら、下肢・体幹の運動に関与する骨・筋・靭帯のそれぞれの役割について学習する。そして、下肢・体幹の基本的な運動について他者に説明することができるよう学習する。					
学習到達目標					
知識・理解	①下肢・体幹における骨格・血管・神経・筋・靭帯を挙げるができる。(DP1、2) ②下肢・体幹における基本的な運動に関与する関節や筋・靭帯およびその役割について説明することができる。(DP1、2) ③下肢・体幹における各筋の走行・作用について説明することができる。(DP1、2)				
思考・判断 ・表現	④下肢・体幹の構造および基本的な運動を理解し、応用的に臨床的思考を表現することができる。(DP1、2、5)				
技能					
関心・意欲 ・態度	⑤授業で得た知識に基づき、自己理解、臨床的思考力を深め提出課題に対し意欲的に取り組む。(DP1、2、3、5)				
授業形態					
講義	教科書やスライドを用いた講義を中心とする。骨標本を用いた対面事業を実施する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	濱田	下肢の骨格、血管、神経 下肢帯と股関節の運動 (1) 関節と靭帯	下肢帯と下肢の骨格、血管、神経を学修する。骨盤と股関節および関与する靭帯について学修する。 (教科書①：pp. 246-250、教科書②：第12章)		
2	濱田	下肢帯と股関節の運動 (2) 股関節の動き	股関節の基本的な運動について学修する。 (教科書①：pp. 250-253、教科書②：第12章)		
3	濱田	下肢帯と股関節の運動 (3) 股関節の筋	股関節の運動に関与する筋について学修する。 (教科書①：pp. 252-256、教科書②：第12章)		
4	濱田	膝関節の運動 (1) 関節と靭帯	膝関節および関与する靭帯について学修する。 (教科書①：pp. 256-258、教科書②：第13章)		
5	濱田	膝関節の運動 (2) 膝関節の動き	膝関節の基本的な運動について学修する。 (教科書①：pp. 258-260、教科書②：第13章)		
6	濱田	膝関節の運動 (3) 膝関節の筋	膝関節の運動に関与する筋について学修する。 (教科書①：pp. 258-260、教科書②：第13章)		
7	濱田	足関節の運動 (1) 関節と靭帯 (2) 足の筋	足関節および関与する靭帯について学修する。足関節の運動に関与する筋について学修する。 (教科書①：pp. 260-266、教科書②：第14章)		
8	濱田	足関節の運動 (3) 足のアーチ (4) 足の変形	足のアーチおよび足の変形について学修する。 (教科書①：pp. 266-271、教科書②：第14章)		
9	濱田	脊柱の骨格	脊柱を構成する骨と関節、靭帯、神経、血管について学修する。 (教科書①：pp. 271-275、教科書②：第9、10章)		

10	濱田	頭部・頸椎の構造	頭部、頸椎の構造と運動、関わる筋について学修する。 (教科書①：pp. 275-283、教科書②：第9、10章)					
11	濱田	腰椎の運動	腰椎の構造と運動、関わる筋について学修する。 (教科書①：pp. 289-292、教科書②：第9、10章)					
12	濱田	下肢・脊椎の運動まとめ	下肢・体幹の構造・筋骨格、基本的な運動に復習し、課題に取り組む。					
13	白井	胸郭と胸椎の運動・呼吸に関わる運動	胸郭と胸椎の構造及び呼吸の運動と関わる筋について学修する。 (教科書①：pp. 283-289、教科書②pp. 286-294)					
14	白井	運動生理学	運動中の生体の変化について学修する。 (教科書①：pp. 327-332、教科書②pp. 286-294)					
15	濱田・白井	授業のまとめ	本講義で学んだ内容を整理し、課題に取り組む。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●				80	①②③
	提出課題			●		●	20	④⑤
評価の 特記事項	筆記試験、提出課題の全てを合わせて6割未満の学生に対して、再試験を実施する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
講義前に、講義計画に記載された教科書の該当範囲に目を通し、理解できなかったキーワードや興味を持ったキーワードを事前学習してください。そして、挙げたキーワードについて講義中に学んだことを、講義後にまとめてください（必要な時間：約60分）。提出課題として各章（下肢・体幹・運動生理）ごとに学修でまとめたレポートの提出を求めます。具体的な提出課題内容については、初回授業にて提示します。講義中の配布資料や学修でまとめたレポート、提出物等を合わせて、ポートフォリオを作成してください。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
課題（筆記試験、提出課題、ポートフォリオ）に対する疑問点や質問は、随時受け付けます。								
教科書								
①「基礎運動学 第6版補訂」中村隆一 他著 医歯薬出版 ②「筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版」PaulD. Andrew 有馬慶美 日高正巳 監訳 医歯薬出版								
参考図書								
「カバンディ・関節の生理学 原著第6版」萩島秀夫 監訳 医歯薬出版								
備考：履修者への要望								
本講義の内容は、今後リハビリテーションについて学ぶ中で全ての基礎になります。各部位の名称やその役割は必ず覚え、わからないことはその場で確認するようにしてください。また、グループワークでは積極的に骨標本に触れ、基本的な運動について他者にしっかり説明できるよう知識を整理してください。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
運動学実習	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
渡邊 豊明、外倉 由之					
実務経験のある教員					
渡邊豊明、外倉 由之：医療機関において作業療法士として勤務し、身体障害領域の作業療法の経験を有する教員が、運動学実習について講義を行う。					
授業概要					
作業療法士が関わることの多い、日常生活活動の一部を運動学的に分析し、運動学で学修した肢体の構造、人間の動きに関して理解を深めることを目的とする。本科目では、実習により、基本動作やADL動作についてグループで観察や測定、グループディスカッションを行い、その結果をレポートとしてまとめる。レポートを作成することにより、論理的思考や文章力を養い、作業療法士にとって必要な表現力を向上させることも目的である。					
学習到達目標					
知識・理解	①姿勢や動作を観察する際に着目すべき視点を理解できる。(DP1)				
思考・判断 ・表現	②観察したことを専門用語を用いて適切に表現することができる。(DP1) ③レポートの目的を理解し、他者に分かりやすいレポートを書くことができる。(DP1)				
技能	④運動学的視点で動作を観察し、分析することができる。(DP1)				
関心・意欲 ・態度	⑤課題の提出期限を守り、担当教員のフィードバックを受けることができる。(DP1) ⑥積極的に授業への参加・協力ができる。(DP1)				
授業形態					
実習	グループワークを中心に行う。適時、動画の撮影と分析を行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	外倉	オリエンテーション レポートの作成方法	レポートの作成方法について学習する		
2	渡邊	上肢帯および上肢	肩関節の運動を観察し、肩甲上腕リズムについて学習する ：教科書①pp. 98-115		
3	渡邊	肘・前腕	肘と前腕による日常生活動作について肩の可動域と共に理解する ：教科書①pp. 119-135		
4	外倉	姿勢（静的座位・立位姿勢）	座位・立位姿勢の評価 ：教科書①pp. 341-355		
5	外倉	運動連鎖とバランス	運動連鎖とバランスの評価を実施する ：教科書①pp. 320-328、356-362		
6	渡邊	寝返り・起き上がり	寝返り・起き上がり動作を観察し分析する ：教科書①pp. 460-474		
7	渡邊	立ち座り-起立着座動作	立ち座りの動作観察と分析する ：教科書①pp. 475-491		
8	外倉	歩行・杖歩行	歩行・杖歩行を観察し分析する ：教科書①pp. 365-382、519-526		
9	外倉	車いす座位と移動	車いす座位姿勢を評価し、移動の観察と動作を分析する ：教科書①pp. 427-436		

10	渡邊	手関節・手	手関節と手の構造を確認する。手関節と手の動きを観察し動作を分析する ：教科書①pp.144-168					
11	渡邊	運動学習	運動学習の定義を確認し、理論を理解する ：教科書①pp.60-82					
12	渡邊	発表前準備①	各班の担当内容について発表準備を行う					
13	渡邊	発表前準備②	各班の担当内容について発表準備を行う					
14	渡邊、外倉	発表①	各グループの発表と評価を行う					
15	渡邊・外倉	発表②	各グループの発表と評価を行う					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	レポート		●	●	●	●	50	①②③④⑤
	発表		●	●	●	●	30	①②③④⑤
	参加貢献度					●	20	⑥
評価の特記事項		レポート・発表はルーブリックで評価を行う。 参加貢献度は、積極的な行動については加点を、消極的な態度は授業時に注意を促し、改善されなければ減点とする。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
事前に教科書の指定範囲をよく読み、実習の目的・方法を理解する（30分程度）。 実習後は結果のまとめを速やかに行い、レポート作成にとりかかる（1時間程度）。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
レポートは、フィードバックコメントを記載し、講義の中で返却する。								
教科書								
①「PT・OT学生のための運動学テキスト」 小柳 磨毅, 西村 敦, 山下協子, 大西秀明 編 金原出版 (株) (2015年) ②「基礎運動学」 中村 隆一 他 著 医歯薬出版 (2003年)								
参考図書								
「解剖学・生理学・運動学に基づく動作分析」 奈良 勲, 木林 勉, 佐藤 香緒里, 清水 順市, 松川 寛二 編 医歯薬出版 (株) (2018年)								
備考：履修者への要望								
グループで実習するので、各自がグループ内の役割を遂行し、有意義な実習が行えるよう努めること。 レポートは提出期限を守って提出し、提出前に担当教員に質問に行く等、積極的に取り組むこと。 実習では、運動のしやすい服装で参加すること。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
人間発達学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
杉山 成司					
実務経験のある教員					
杉山成司：複数の大学、市民病院での実務および教育、研究の経験を有する					
授業概要					
<p>ヒトの生命は、誕生前の受胎時から始まり老いに終わる。人間発達学はこの広範な成長・成熟過程、変遷過程を学ぶ学問であり、医学的な基礎生理の変化に基づいて、各年齢段階における特徴的な病態を理解しなければならない。</p> <p>加えて、人それぞれの生活環境、社会環境に修飾された個人を考慮する必要があり、個性・特性に根差した医療を行う上で、身体・運動・心理・社会性を含めた発達学的な視点が欠かせない。</p>					
学習到達目標					
知識・理解	① 胎児期・新生児期の標準的発達を理解し、その特徴を説明できる。また、この時期の代表的障害について説明できる。(DP 1) ② 幼児期から思春期までの発達段階を理解し、この時期の代表的障害について説明できる。(DP 1) ③ 成年期以降から老年期にいたるまでの成熟段階を理解し、説明できる。また、発達学的評価について説明できる。(DP 1)				
思考・判断 ・表現					
技能					
関心・意欲 ・態度	④個人だけでなく、疾病とそれを取り巻く環境にも関心を払いながら、医療を考慮できる。(DP 1, 4)				
授業形態					
講義	プリントとスライドを中心に講義する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	杉山	総論および発達の診方	人の生理・運動・感覚機能の発達過程と遺伝・環境的要因		
2	杉山	胎児医学	妊娠時期と胎児発育、染色体異常や環境因子が胎児に及ぼす影響について		
3	杉山	奇形症候群	奇形症候群の要因と予後、予防対策		
4	杉山	新生児期の生理学的変化 (1)	出生前後の呼吸器系、循環器系の生理学的変化		
5	杉山	新生児期の生理学的変化 (2)	出生前後の生理学的変化について、ビリルビン代謝、血液学的観点から		
6	杉山	未熟児・新生児の障害	低酸素性脳症など、未熟児・新生児に特有な疾患と障害、予後について		
7	杉山	原始反射と発達	乳児期の成長、運動、認知、言語および社会的発達の特徴とその評価法 原始反射の臨床的意義について		
8	杉山	中間試験	講義1～7のまとめと中間試験（レポート）		
9	杉山	乳児期の成長と発達障害	乳児期の成長、発達の評価法とその障害および対策について		



10	杉山	乳児期にける神経、筋の発達	乳児期の神経系発達とその代表的神経疾患および先天性筋疾患について					
11	杉山	学童期の発達と障害	学童期の発達と自閉症を含めた発達性障害について					
12	杉山	小児期の事故と虐待	各年齢における小児期特有の事故、および虐待の実態と予防					
13	杉山	思春期の発達とその障害	二次性徴を含めた思春期の発達とその障害について					
14	杉山	老年期の問題点	老年期の身体的特徴と評価法					
15	杉山	認知症、廃用症候群	高齢者特有の認知症や骨折、廃用症候群などについて					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	中間試験 (レポート)		●				20	①②③
	期末試験 (筆記)		●				70	①②③
	平常の授業態度、参加度					●	10	④
評価の 特記事項	授業中の態度、質問なども考慮する。 すべての評価方法の合計点 (中間レポート20 + 期末筆記70 + 平常点10) が6割未満の場合、再試験を実施する。							
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間								
興味ある点や疑問点などは、自己学習の習慣を付け、少しでも馴染みのある課題が授業に上れば、関心、理解は持続的なものとなり、応用が可能となる。講義の予習、復習には30分～1時間ほど当てる。								
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法								
各授業開始時に簡単な復習を行う。								
教科書								
参考書として：標準理学療法学・作業療法学 人間発達学 (第2版) . 医学書院、2017								
参考図書								
本学図書館には発達学に関連する多くの書籍が所蔵されており、学習態勢は整っている。								
備考：履修者への要望								
復習の習慣をつけ、講義内容で疑問点や不明点があれば、積極的に自己学習あるいは質問する。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
一般臨床医学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	2単位	30時間
担当教員名					
長谷川 昇、杉山 成司					
実務経験のある教員					
授業概要					
<p>(長谷川) さらに、理学療法士・作業療法士は薬品(薬物療法)によって起こる生理的作用を把握し理学療法・作業療法を実施する必要があるため、関わりのある分野を中心に薬理について学修する。</p> <p>(杉山) 診療をする場合、患者が訴える一般的な症状を把握することから始まる。それ故、この症状をいかに病態生理学的に分析し理解していくかが、医療を進める上で鍵となる。また、医療では投薬が大きな役割を果たすが、「医食同源」と言われるように、日常的な栄養の知識もおおそかにできない。これらのテーマを焦点に講義する。</p>					
学習到達目標					
知識・理解	①多職種連携を有効に機能させるため、臨床の場で使用されている薬物の作用機序や相互作用を理解し、薬物療法における有害事象、服薬過誤について指摘することができる。(DP1, DP2) ②患者を診る上での病態の分析と状態把握の基本を理解し、臨床的意義について述べることができる。(DP1, DP2)				
思考・判断 ・表現	③多職種連携を有効に機能させるため、薬物の効果をアセスメントし、副作用などについて予測することができる。(DP5) ④病態分析に基づいて治療方針を立て、今後の経過の推測ができる。(DP5)				
技能					
関心・意欲 ・態度					
授業形態					
講義	(長谷川) 課題解決型の講義を行い、答えを作成するために必要な事項について教科書を用いて指摘する。 (杉山) スライド、プリントを中心に講義する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	長谷川	医薬品の取扱い	医薬品の分類、医薬品の名称、医薬品の安全管理		
2	長谷川	薬物動態(吸収・分布・代謝・排泄)	薬物の体内動態、財形の特徴と吸収過程、相互作用		
3	長谷川	薬の作用機序、ライフステージごとの問題点	薬の作用点(受容体、チャネル、酵素、シナプス、ポンプ) 小児、新生児、高齢者、妊婦への投与上の問題点、コンプライアンスとアドヒアランス		
4	長谷川	主な薬物の作用と副作用 1. 循環器疾患治療薬、抗炎症薬	心不全治療薬、利尿薬、降圧剤、不整脈治療薬、狭心症治療薬、抗血栓薬、アレルギーと炎症薬(ステロイド性、非ステロイド性鎮痛薬)		
5	長谷川	主な薬物の作用と副作用 2. 神経系疾患の治療薬	向精神薬(抗うつ薬、睡眠薬、抗パーキンソン病薬)		
6	長谷川	主な薬物の作用と副作用 3. 運動器疾患の治療薬	骨粗鬆症治療薬、筋弛緩薬、抗リウマチ薬		
7	長谷川	主な薬物の作用と副作用 4. 代謝性疾患の治療薬	糖尿病治療薬		
8	長谷川	主な薬物の作用と副作用 5. がんの薬物治療	抗悪性腫瘍薬、麻薬		
9	長谷川	主な薬物の作用と副作用 6. 感染症の薬物療法	抗菌薬		

10	杉山	症候学（1）	全身状態、発熱、皮膚症状と臨床的意義					
11	杉山	症候学（2）	消化器症状、腹痛などの臨床的意義					
12	杉山	症候学（3）	意識障害、呼吸器症状、尿異常などの臨床的意義					
13	杉山	水・電解質	脱水、電解質異常、酸塩基平衡障害					
14	杉山	栄養	栄養摂取の基本と各栄養素障害および摂食障害					
15	杉山	プラセボ	臨床的意義					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（%）	到達目標
	（長谷川）小テスト		●	●			20	①③
	（長谷川）筆記試験		●	●			40	①③
	（杉山）筆記試験		●	●			40	①②④
評価の 特記事項	すべての評価方法を合計（長谷川+杉山）し、6割に満たない場合、再試験の対象とします。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
<p>（長谷川）あらかじめ提示されたレジュメに記載された事項について関連する教科書のページを予習しておく（30分程度）。前回の講義内容の復習をする（30分程度）。</p> <p>（杉山）前もって次回授業のプリントを配布する。予習、復習は各30分程度行う。</p>								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
<p>（長谷川）毎回の授業の中での質問事項はリアクションペーパーとして提出し次回の講義で解説する。</p> <p>（杉山）授業開始時に、前回講義の復習を行う。</p>								
教科書								
<p>（長谷川）スラスラわかる薬のメカニズム、鈴木正彦 監修、サイオ出版、2019年</p> <p>（杉山）標準理学療法学・作業療法学 内科学（第4版）、前田真治 編集、医学書院、2020年</p>								
参考図書								
<p>（長谷川）今日の治療薬 解説と便覧 2020、浦部 正雄 等編集、南江堂、2020年</p> <p>（杉山）大学図書に関連蔵書多数あり。活用して下さい。</p>								
備考：履修者への要望								
（長谷川・杉山）正常な人体の構造と機能を理解しておくこと。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
公衆衛生学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	15時間
担当教員名					
石川 清					
実務経験のある教員					
石川 清：名古屋市立大学病院、名古屋第二赤十字病院にて麻酔・集中治療医として長年に亘って臨床現場で診療に当たってきた経験から本授業についての講義を実施する。また、大学教員、病院管理者の立場からも、本授業で扱われる内容について講義する。					
授業概要					
<p>新型コロナウイルス感染症、少子高齢化、地球温暖化、生活習慣病等々、我々の身近な健康に関する問題は、全て公衆衛生学で取り上げられるテーマである。すなわち、公衆衛生とは、「みんなの健康」のことであり、公衆衛生学とは、「みんなの健康」を守るために、組織化された地域社会の努力によって、疾病予防、寿命延長、身体的・精神的健康の増進を図る学問である。その具体的な内容としては、環境衛生、感染症対策、衛生教育、保健医療制度、社会保障制度等がある。臨床医学が個人を対象としているのに対し、公衆衛生は集団を対象としている点が大きく異なる。日常的な医療活動の基盤となる医療制度やシステムの維持・改善等も公衆衛生の対象となる。公衆衛生は狭い意味での保健活動だけでなく、医療活動の展開にとっても基盤となるものである。</p> <p>公衆衛生学は、将来、OT、PTとして臨床の現場で働くものにとっては必須の科目と言える。本授業では、国際レベル、国レベル、並びに地域における様々な健康課題を、生物学的な視点だけでなく、社会や環境との視点から俯瞰的に理解するばかりでなく、集団の健康を維持・改善するための制度や施策の概要についても修得する。</p>					
学習到達目標					
知識・理解	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主たる保健統計（人口、出生、死亡統計など）を説明できる。（DP1）</li> <li>2. 疾病予防と健康管理について説明できる。（DP1）</li> <li>3. 主な疾病についてその予防法について説明できる。（DP1）</li> <li>4. 環境保健（環境汚染、環境問題）について説明できる。（DP1）</li> <li>5. 保健行政（母子保健、学校保健、産業保健、高齢者保険）について説明できる。（DP1）</li> <li>6. わが国の保健医療福祉制度について説明できる。（DP1）</li> <li>7. われわれを取り巻く健康課題の現状について説明できる。（DP1）</li> </ol>				
思考・判断 ・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身近な公衆衛生問題に対して何ができるか考えることができる。（DP3）</li> </ol>				
技能					
関心・意欲 ・態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日々世の中で起こっている公衆衛生に関する問題に関心を持つことができる。（DP1）（DP3）</li> <li>2. それらの問題に医療人として自分事して取り組むことができる。（DP1）（DP3）</li> </ol>				
授業形態					
講義	毎回、パワーポイントによるスライドとプリントを用いて講義する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	石川	はじめに。担当教員の自己紹介。公衆衛生とは？	担当教員の自己紹介。医療人としての心構え、医療人に求められる資質について学ぶ。医療人として必要な公衆衛生の知識、公衆衛生と健康の概念について学ぶ。		
2	石川	保健統計と疫学の基礎、疫病予防と健康管理	人口、出生、死亡統計など、公衆衛生の基本である疫学（人間集団における疾病の分布とその発生原因を研究する学問）の基礎について学ぶ。予防医学、健康管理、健康増進、健康日本21などについて学ぶ。		
3	石川	主な疾病の予防-感染症	感染症の予防対策一般、予防接種、最近の感染症事情などについて学ぶ。		
4	石川	主な疾病の予防-内部疾患	がん、メタボリック症候群、心疾患などの予防対策について学ぶ。		
5	石川	環境保健	環境汚染、物理的環境因子、化学的環境因子、環境問題などについて学ぶ。		
6	石川	地域保健と保健行政、保健行政の各論（1）	地域保健活動、保健行政の全般について学ぶ。母子保健、学校保健などについて学ぶ。		

7	石川	保健行政の各論（2）	産業保健などについて学ぶ。 高齢者保健、精神保健などについて学ぶ					
8	石川	保健医療福祉と関係法規、まとめ	保健医療福祉制度と関係法規などについて学ぶ。 まとめ。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（%）	到達目標
	評価方法							
	毎回の振り返りレポート		●	●			40	①②
	本試験		●	●			60	①②
評価の 特記事項	合計で60%に満たない場合は、再試験対象とする。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
予習として教科書にざっと目を通しておく（30分） 復習として毎回振り返りのレポートを提出（60分）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
振り返りのレポートは講義の際に返却する。								
教科書								
「シンプル衛生公衆衛生学」 鈴木庄亮（監修）（南江堂）								
参考図書								
備考：履修者への要望								
本授業（本教科書）で学ぶことは、日頃の時事問題で取り上げられることが多く、将来、医療人として社会に出た時、最低限必要になる知識ばかりです。 医療人としての道を選んだ初心を忘れずに、医療人として必要な公衆衛生学についての知識を習得してください。 また日頃から社会人、組織人、医療人としての自覚をもって行動してください。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
臨床心理学	リハビリテーション学科 作業療法専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
金子 幾之輔					
実務経験のある教員					
日本カウンセリング学会認定カウンセラー・スーパーバイザー、臨床発達心理士、学校心理士としてカウンセリングの実務経験を有し、その関連科目である本授業においてカウンセリング理論・技法の体験学習やグループワーク等を遂行することによって、臨床心理学の基礎的な理論や実践的知識・技能に関する学修を促進する。					
授業概要					
臨床心理学とは、心の問題に対して心理学的な見地からどのように対処するかを研究し、支援活動を実践していくための学問である。本科目では、心の障害を有する人に対するのみならず、理学療法士・作業療法士自身の健康管理の観点からも心理臨床活動のあり方を考察する。また、講義内容に応じた体験学習やグループワーク等を遂行したりするなどし、臨床心理学の基礎的な理論および実践的知識・技能を修得して、心の障害を有する人に適切な対応ができるようになることを目指す。					
学習到達目標					
知識・理解	①臨床心理学に関する基礎的な理論を説明できる。(DP1) ②臨床心理学の実践的知識・技能を心の障害を有する人や自分自身に適用することができる。(DP1)				
思考・判断 ・表現					
技能					
関心・意欲 ・態度					
授業形態					
講義	自作の資料に基づいて平易に解説するとともに、体験学習やグループワークも導入する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	金子	臨床心理学とは何か	臨床心理学の内容・方法・歴史等について概観し、臨床心理学の概念や特徴を把握する。		
2	金子	不適応行動	欲求と欲求不満のメカニズムを説明し、不適応行動について学修する。		
3	金子	心の障害の特徴と対応 (1)統合失調症 (2)気分障害	統合失調症、うつ病や双極性などの気分障害の特徴、対応の留意点について学修する。		
4	金子	心の障害の特徴と対応 (3)不安障害 (4)適応障害	不安を主因とする不安障害やストレス因による適応障害の特徴と対応の留意点について学修する。		
5	金子	心の障害の特徴と対応 (5)パーソナリティ障害 (6)認知症	パーソナリティ障害や認知症の特徴や対応の留意点について学修する。		
6	金子	心の障害の特徴と対応 (7)発達障害	自閉スペクトラム症などの発達障害の特徴や対応の留意点について学修する。		
7	金子	ストレスの本質と原因および 対処法	日常生活上のストレス事例を通じて、ストレスの本質と原因、その対処法について学修する。		
8	金子	心のアセスメント (1)意義 過程 種類	心理アセスメントの意義、過程、種類について学修する。		
9	金子	心のアセスメント (2)臨床心理学的面接	面接法の特徴、留意点について学修する。		

10	金子	心のアセスメント (3)行動観察	観察法の特徴、留意点について学修する。					
11	金子	心のアセスメント (4)心理検査	心理検査の種類と代表的な心理検査について学修する。集団TAT等による自己分析を実施。 (体験学習)					
12	金子	カウンセリングとは何か	カウンセリングの考え方、基礎技法について学修する。役割演技によるカウンセリング技法の基本的訓練の実施。(グループワーク)					
13	金子	各種心理療法 (1)精神分析療法 (2)来談者中心療法	精神分析療法と来談者中心療法の理論的背景と技法について学修する。					
14	金子	各種心理療法 (3)行動療法 (4)遊戯療法	行動療法と遊戯療法の理論的背景と技法について学修する。					
15	金子	理学療法士と作業療法士の健康管理、総括	理学療法士と作業療法士の健康管理の一方法としてストレス・コントロール法の一つである「自律訓練法」を実施する。(体験学習)					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	レポート試験		●				85	①②
	振り返り度		●				15	①②
評価の 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート試験は、最終試験のみとする。</li> <li>・振り返り度は、毎回の授業の終わりにリフレクション(省察・振り返り：ミニツペーパーの導入)を行い評価する。</li> </ul> 以上2つの評価点を総合して評価する。なお、合格点に満たない場合でも、再試験は実施しない。							
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間								
○事前学習：臨床心理学辞典や参考文献を用いて、毎回の授業で扱う内容について調べておくこと。(1時間程度) ○事後学習：授業で扱った内容を自分なりにまとめるなどの復習をすること。(1時間程度) また、臨床心理学の実践的知識・技能を修得するために体験学習や実習場面等で熱心にその技法の訓練に取り組むこと。								
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法								
課題(レポート、振り返り)に関する質問は適宜受け付ける。								
教科書								
授業に必要な自作の資料を配布する。								
参考図書								
講義の中で適宜紹介する。								
備考：履修者への要望								
臨床心理学の実践的知識・技能を向上させるために体験学習や実習場面のみならず、日常生活上においても積極的にその技法を訓練することを期待する。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
内科学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
杉山 成司					
実務経験のある教員					
杉山成司：複数の大学、市民病院で内科学の実務および教育、研究の経験を有する					
授業概要					
高齢化は一段と進み、在宅・地域リハビリテーションへの社会的ニーズは不可欠のものとなり、それに対する適確な医療知識や技能習得が求められる。内科学は疾病の成因・病態を考える上で基本骨格をなすものであり、解剖学や生理・生化学などの基礎医学を土台にした臨床内科学への深い理解を目的とする。					
学習到達目標					
知識・理解	① 医療人として患者（と家族）に対する関心と敬意を持つことを身に付けることができる。(DP 1, 2, 5, 6) ② 基礎的医学知識に根ざした各疾患への診療法、対処法を修得することができる。(DP 1, 2, 5, 6) ③ 高齢化社会における疾病構造の変化を理解し、それに対応するリハビリテーション学を議論できる。(DP 1, 2, 5, 6)				
思考・判断 ・表現					
技能					
関心・意欲 ・態度	④ 関連する最近の話題を提供し、その意義、関心について議論できる。(DP 1, 2, 5, 6)				
授業形態					
講義	スライド、プリント中心の講義				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	杉山	総論	問診、診察法、検査、診断の進め方（1、2章）		
2	杉山	症候学	主な症候について（3章）		
3	杉山	循環器系疾患－総論	循環器系疾患の生理と徴候（4章）		
4	杉山	循環器系疾患－各論（1）	高血圧、虚血性心疾患、不整脈、心不全など（4章）		
5	杉山	循環器系疾患－各論（2）	脈管系疾患、心臓リハビリテーション（4章）		
6	杉山	呼吸器系疾患－総論	呼吸器系の解剖と生理機能（5章）		
7	杉山	呼吸器系疾患－各論	閉塞性・拘束性肺疾患、肺炎、肺癌など（5章）		
8	杉山	中間のまとめ	1～8回の講義のまとめ		
9	杉山	消化管および肝・胆・膵疾患	肝・胆道系を含めた消化器系の解剖と機能、および代表的疾患（6、7章）		



10	杉山	代謝疾患	メタボリック症候群、糖尿病など (9章)					
11	杉山	内分泌疾患	内分泌腺の種類・機能と代表的ホルモン異常症 (10章)					
12	杉山	血液・造血器疾患	血液成分と機能、および代表的血液疾患 (8章)					
13	杉山	腎・泌尿器疾患	腎疾患の病態生理とその代表的疾患 (11章)					
14	杉山	免疫疾患、アレルギー疾患	免疫系の基礎知識とその代表的疾患 (12章)					
15	杉山	感染症	代表的な感染症とその予防対策、日和見感染など (13章)					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	中間試験 (筆記)		●				50	①②③
	期末試験 (筆記)		●				40	①②③
	平常の授業態度、参加度					●	10	④
評価の 特記事項	中間および期末試験 (筆記) (40+50点) プラス平常点 (10点) 評価の合計点が6割未満の場合、再試験を実施。							
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間								
<p>現代はマスコミなどから医学情報が豊富に流れ、直ぐに役立つ実践的内容も少なくない。理学療法士、作業療法士をめざす者は、日頃からこれらの医療情報に関心を持つことが、日常医療を行う上で大きく役立つ。また、疑問点を持てばテキストや参考書などで確認してみるなど、自己学習の習慣を身に付ける。</p> <p>また、各講義の予習、復習を30分～1時間程度行う。</p>								
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法								
各講義のはじめに復習コーナーを設ける。								
教科書								
標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 内科学 (第4版)。前田真治 (編)。医学書院。2020								
参考図書								
多数の関連書籍を当大学図書館に所蔵。積極的な活用を望む。								
備考：履修者への要望								
患者ケアをより充実させるためには、内科学講義にとどまらず、医療に関する社会の動向にも注視し、より親身な幅広い診療を目指す気構えを持つ。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
整形外科学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	2単位	60時間
担当教員名					
種田 陽一					
実務経験のある教員における科目					
種田陽一：現役の整形外科医が整形外科学を講義する					
授業概要					
整形外科が扱う疾患は人体の運動に関わる骨・軟骨・筋・神経などの運動器の疾患である。運動器疾患は多岐にわたり、小児から高齢者まで、体幹から四肢に及び、脊椎、脊髄、関節、末梢神経、手・足の障害などが挙げられる。講義では全身の各運動器疾患について、臨床実習で必要となる病態、症状、診断、治療、リハビリテーションについて理解する。					
学習到達目標					
知識・理解	①主な整形外科疾患、外傷について病因、病態、治療法、リハビリテーションを説明できる。(DP1, DP2)				
思考・判断 ・表現	②病名と患者情報、重症度などから、その疾患の治療と予後を予測し説明することができる。(DP1, DP2, DP3, DP4)				
技能	③関節可動域、上肢長、下肢長、四肢周囲径、四肢・体幹の筋力測定の方法を説明できる。(DP1, DP4)				
関心・意欲 ・態度	④医師やリハビリテーションスタッフとの討議に参加し意見を述べるができる。(DP2, DP4, DP5)				
授業形態					
講義	コロナのためオンラインにてスライドを用いて講義する。板書ができないので前日に講義内容をまとめた講義ノートを送る。これをプリントアウトし、重要と思われる部分に各自マーカーペンで着色し、板書のかわりとする。最後に国試問題を供覧する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	種田	運動器の構造と機能(1)	骨、軟骨、関節の構造と機能		
2	種田	運動器の構造と機能(2)	筋、脊髄、末梢神経の構造と機能		
3	種田	整形外科に必要な測定法	関節可動域、脚長、周囲径、筋力など		
4	種田	関節可動域異常、形態異常	強直、拘縮、奇形、変形(火傷を含む)		
5	種田	整形外科に必要な検査法	画像診断総論(X線、造影、CT、MRI、シンチ)筋電図、腱反射、血液検査など		
6	種田	画像診断法各論	骨、関節、脊椎のX線読影法(単純XP、CT、MRなど)		
7	種田	整形外科疾患の保存的治療	薬物治療、注射療法、装具療法、牽引療法、リハビリなど		
8	種田	整形外科疾患の外科的治療	植皮、骨の手術、関節の手術、脊椎の手術、末梢神経の手術		
9	種田	整形外科的外傷(1)	プライマリーケア、骨折総論		

10	種田	整形外科的外傷(2)	上肢の骨折(橈骨、尺骨、上腕骨、手根骨、指骨)
11	種田	整形外科的外傷(3)	下肢の骨折(大腿骨、脛骨、腓骨、足根骨、趾骨)
12	種田	整形外科的外傷(4)	体幹・脊椎の骨折、脱臼総論・各論
13	種田	整形外科的感染症	骨髄炎、関節炎、脊椎炎
14	種田	骨軟部腫瘍	総論、骨肉腫、軟骨肉腫、Ewing肉腫、転移性癌など
15	種田	小児疾患(1)	発育性股関節形成不全、内反足、骨端症など
16	種田	小児疾患(2)	骨系統疾患、二分脊椎
17	種田	中間まとめ	これまでの学習成果の確認
18	種田	関節リウマチと関連疾患	関節リウマチ、強直性脊椎炎、膠原病、骨粗鬆症など
19	種田	変形性関節症	総論、変形性股関節症、変形性膝関節症、大腿骨頭壊死、シャルコー関節
20	種田	上肢の慢性疾患	肩、肘、手関節、手の慢性疾患
21	種田	下肢の慢性疾患	股関節、膝関節、足関節、足の慢性疾患
22	種田	脊椎疾患	椎間板ヘルニア、後縦靭帯骨化症、側弯症、脊柱管狭窄症など
23	種田	脊髄損傷	損傷形態、Frankelの分類、ASIA分類、高位診断、自律神経過反射など
24	種田	末梢神経疾患	Seddonの分類、腕神経叢麻痺、絞扼神経障害、胸郭出口症候群など
25	種田	神経疾患・筋疾患	筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、多発性硬化症、脊髄小脳変性症
26	種田	切断、義肢、装具	切断法、義足、義手、装具治療など
27	種田	スポーツ整形外科(1)	上肢のスポーツ障害(野球肘、腱板損傷、SLAP損傷、TFCC損傷)
28	種田	スポーツ整形外科(2)	大腿のスポーツ障害(股関節脱臼、肉離れ、膝靭帯損傷、鷲足炎、脛骨疲労骨折)
29	種田	スポーツ整形外科(3)	下腿のスポーツ障害(疲労骨折、シンスプリント、テニスレッグ、足関節捻挫)
30	種田	スポーツ整形外科(4)	頭頸部、体幹のスポーツ障害(頭部外傷、頸部外傷、腹筋損傷、腰椎分離症)

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	筆記試験	●	●				90
受講態度					●	10	④
評価の 特記事項	筆記試験と受講態度の合計が60%以上で合格とする。再試験は60%に達しなかった場合に実施する。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
運動器の病的状態を理解するためには解剖学（特に局所解剖）の知識が不可欠である。予め講義予定部位の解剖を予習しておくこと。約1時間							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
フィードバックとして試験問題の解説と重要事項の復習の時間を設ける予定である。							
教科書							
『病気がみえる VOL.11』 運動器・整形外科. 医療情報科学研究会編、メディックメディア 2017							
参考図書							
『標準整形外科学 第14版』井樋栄二、医学書院 2020							
備考：履修者への要望							
講義中の私語は禁止。年々難しくなる国家試験を突破するためには日々の学習が大切である。学習の効果を上げるためには見る、聞く、書くの3つの方法の併用が有用とされる。講義中には講義内容の理解に努め、板書をノートすると良いがオンラインでは困難なので、前日に送られてくる講義ノートに講義で重要と思われる部分に各自マーカーペンで着色することが進められる。復習では教科書と講義ノートを見て学習すると効率上がる。記憶するためには同じことを数回やる必要がある。							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
神経症候学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	2単位	60時間
担当教員名					
勝野 雅央、橋詰 淳、藤岡 裕介、横井 聡、川畑 和也、山田 晋一郎、仁紫 了爾					
実務経験のある教員における科目					
勝野 雅央、橋詰 淳、藤岡 裕介、横井 聡、川畑 和也、山田 晋一郎、仁紫 了爾 上記教員は、医療機関および大学に所属し医師としての実務経験を有する。					
授業概要					
神経内科を学ぶ基礎として総論の部が設けられている。解剖、生理、薬理、遺伝、免疫である。症候論の部では意識、高次脳、脳神経、運動、感覚、自律神経、反射を扱う。検査技術では画像、電気生理など。さて本論としての神経疾患各論では脳血管、変性疾患、脱髄、末梢神経、筋疾患、脳腫瘍、脊髄、感染疾患、先天異常、脳性麻痺、認知症と続く。具体的な病名としては脳出血、脳梗塞、脳腫瘍、頭部外傷、髄膜（脳）炎、エイズ脳症、クロイツ・ヤコブ病、パーキンソン病、ハンチントン病、脳性麻痺、アルツハイマー型、血管性認知症、レビー小体型認知症、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギランバレー症候群等を学ぶ。					
学習到達目標					
知識・理解	①神経系を構成する細胞と神経系の区分を説明できる。(DP1) ②脳の変性部位と病名を対応させて分類できる。(DP1)				
思考・判断 ・表現	③脳血管の走行から出血の部位別症候を予測できる。(DP1)				
技能					
関心・意欲 ・態度					
授業形態					
講義	クラス形式の講義、もしくはウェビナー形式の講義				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	横井	総論：神経解剖学の基礎	中枢神経が大脳、脳幹、小脳、脊髄に分かれることを理解する。また、12対の脳神経の位置関係を覚える。末梢神経の要素（ニューロン）は細胞体、樹状突起、軸索突起のこと、運動系と感覚系の基本回路を学ぶ。		
2	横井	総論：神経生理学の基礎	神経繊維の有髄/無髄、直径、伝導速度、二つの分類法（A, B, C vs I, II, III, IV）。ニューロンに起こる電位には伝導法則に従う活動電位と局所電流に終わるシナプス電位のあること。		
3	横井	総論：神経薬理学の基礎	神経疾患に用いられる薬剤について概説し、その作用の基本を理解する。		
4	横井	総論：分子遺伝学と神経免疫学の基礎	遺伝子を構成単位であるヌクレオチドの塩基、糖、りん酸の三つの要素を確認する。そのまた三つの集まりが一つのアミノ酸を決定する。また、神経免疫関連の疾患を例を用いて学びその基本を理解する。		
5	勝野	総論：神経系の発達と加齢	人間発達学での乳幼児の反射の発達について復習し、併せて加齢による機能変化を学ぶ。		
6	勝野	神経診断学：病歴 意識障害	一般的な病歴の取り方。神経系の系統的な診察。意識障害のグレード。除皮質硬直、除脳硬直、などについて理解する。		
7	川畑	神経診断学：高次脳機能 I	言語中枢と優位脳。失行の種類と左右差など、具体的例を用いて高次脳機能の基本を理解するI。		
8	川畑	神経診断学：高次脳機能 II	言語中枢と優位脳。失行の種類と左右差など、具体的例を用いて高次脳機能の基本を理解するII。		
9	藤岡	神経診断学：脳神経	I：嗅神経～XII：舌下神経まで、具体例を用いながら、それぞれの機能を理解する。		

10	藤岡	神経診断学：運動系	上位運動ニューロンと下位運動ニューロンから構成される錐体路（皮質脊髄路）や、運動をコントロールする錐体外路や小脳系回路について、具体例を用いながら理解する。
11	勝野	神経診断学：感覚系	体性感覚系の信号について、感覚の種類とその上行経路について、具体例を交えて理解する。
12	勝野	神経診断学：画像診断・電気生理など	X線CT・MRIなどの画像診断、表面筋電図・針筋電図等の電気生理学的検査について学ぶ
13	橋詰	脳血管障害：脳出血、くも膜下出血 I	脳血管障害の臨床病型について学ぶ。脳出血、くも膜下出血、脳梗塞などを違いを理解する。脳梗塞はさらに血栓性、塞栓性、血行力学性に分類できることを理解する。
14	橋詰	脳血管障害：脳出血、くも膜下出血 II	脳血管障害の臨床病型について学ぶ。脳出血、くも膜下出血、脳梗塞などを違いを理解する。脳梗塞はさらに血栓性、塞栓性、血行力学性に分類できることを理解する。
15	橋詰	脳血管障害：脳梗塞 I	脳梗塞の発生機序による分類。脳梗塞の臨床病型による分類。脳梗塞の血管別の症候の基本を理解する
16	橋詰	脳血管障害：脳梗塞 II	脳梗塞の画像所見、現在用いられている治療について、脳梗塞の臨床病型別の再発予防薬について理解する。
17	橋詰	変性疾患：大脳基底核障害 I a	大脳基底核障害を呈する疾患の代表として、パーキンソン病を学ぶ。パーキンソン病の主要徴候と治療方法について理解する。
18	橋詰	変性疾患：大脳基底核障害 I b	大脳基底核障害を呈する疾患の代表として、パーキンソン病を学ぶ。パーキンソン病の主要徴候と治療方法について理解する。
19	藤岡	変性疾患：大脳基底核障害 II	ハンチントン病を中心に不随意運動を示す疾患について学ぶ。まず、CAGトリプレット異常伸長と表現促進現象について理解する。その他にアテトーゼ、ジストニア、バリスムなど、代表的な不随意運動にふれる。
20	藤岡	変性疾患：脊髄小脳変性症	脊髄小脳変性症の疾患概念・主要徴候を理解する。非遺伝性のもので遺伝性のもので分類できることを理解し、具体例を交えて学ぶ。
21	仁紫	変性疾患：運動ニューロン疾患	運動ニューロン疾患の概念と具体例について学ぶ。代表例として筋萎縮性側索硬化症を知り、最新の治療法について理解する。
22	仁紫	脱髄疾患	脱髄とは何か？中枢内の脱髄疾患の代表である多発性硬化症を例に用いて学ぶ。類縁疾患の多くは自己免疫疾患であることについて理解する。
23	仁紫	末梢神経障害	急性発症の末梢性脱髄疾患の代表例であるギランバレー症候群、遺伝性末梢神経障害であるシャルコー・マリー・トゥース病などを中心に、末梢神経疾患について理解する。
24	仁紫	筋疾患・神経筋結合部疾患	進行性筋ジストロフィー、筋強直性ジストロフィー、重症筋無力症などを扱い、筋疾患・神経筋接合部疾患の基礎を学ぶ。
25	山田	脳腫瘍・脊髄疾患	変形性脊椎症、椎間板ヘルニア、脊管狭窄症について、まずは脊髄解剖を復習しながら疾患の概要を理解する。脊髄病変の高位診断の重要性を理解する
26	山田	感染性疾患	脳の伝染病を髄膜炎、脳炎、神経梅毒に分けて学ぶ。プリオン、ウイルス、真菌、細菌、原虫を区別する。急性、亜急性、慢性の経過を区別する。
27	山田	先天異常・脳性麻痺・代謝疾患	先天異常は単遺伝子疾患、染色体異常、多因子遺伝疾患、環境/外因によるものに分ける。脳性麻痺には痙直型、アテトーゼ型の2大分類に加え、固縮型、失調型、振戦型、無緊張型がある。代謝疾患で神経学的に重要なのは糖尿病、甲状腺疾患、膠原病、神経ペーチェット病。
28	山田	外傷・自律神経疾患・機能的疾患	頭部外傷は頭蓋損傷、局所脳損傷、びまん性脳損傷に分類される。びまん性脳損傷は新しい概念で重要。自律神経疾患として独立する疾患は純粋自律神経不全症くらいか。症状名としては古くから知られた、緊張性瞳孔、ホルネル症候群、起立性低血圧、アディー症候群など。
29	川畑	認知症疾患：総論	アルツハイマー型認知症の脳の構造変化と生化学機序を学ぶ、認知症の症状を中核症状と周辺症状に分けて学ぶ、診断基準について学ぶ

30	川畑	認知症疾患：各論	アルツハイマー病の次に有病割合が高いレビー小体型認知症や脳血管性認知症について学ぶ。その他、認知症を現れる疾患に進行性核上性麻痺、皮質基底核変性症、ハンチントン病、特発性正常圧水頭症についても理解を深める				
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	筆記試験	●	●			90	①②③
	レポート	●	●			10	①②③
評価の 特記事項	すべての評価方法を合計し、6割に満たない場合、再試験の対象とします。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
シラバスは2回/週ごとに、教科書の約20ページの範囲に相当。毎週、最低1時間は教科書を読んで来る。							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
試験の正解は配布する予定です。							
教科書							
「神経内科学テキスト」 編集：江藤文夫/飯島節 （南江堂）							
参考図書							
「リハビリテーションのための神経内科学」 安藤 一也・杉村 公也（医歯薬出版） 「標準神経病学」水野 三邦 監修 （医学書院）							
備考：履修者への要望							
話の内容は実践的ですが基本的なことが主体になります。該当する教科書部分をよく復習してもらえるとよいと思います。							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
精神医学	リハビリテーション学科 作業療法専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
内藤 顕人					
実務経験のある教員					
内藤 顕人：精神科の臨床経験が豊富で、精神神経学会や麻酔科・内科学会で実績のある医師が、精神科について講義をする。					
授業概要					
多くの映像を観て楽しく精神医学を学び、今後に向けて作業療法や理学療法への意欲の向上を図る。授業や映像を見て、長期的な理解と国試対策も兼ねて行っていく。					
学習到達目標					
知識・理解	①精神症状を理解し、そこから各種疾患について説明することができ、国家試験に向けての知識をつけることができる。(DP1)				
思考・判断 ・表現	②精神疾患を学び、患者の心を踏まえて、理学療法や作業療法の実践のあり方を考えることができる。(DP4)				
技能					
関心・意欲 ・態度	③予習や復習を十分に行い、質問など積極的に授業に取り組むことができる。(DP2)				
授業形態					
講義	動画や映像・関連映画を流して教科書に沿って、分かりやすく説明したい。 パワーポイントを併用して講義を行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	内藤	精神科医学概論、気分障害、統合失調症	精神医学の定義や概要、歴史にふれ、うつ病や躁うつ病について理解し、統合失調症の疫学・症状・病型などを学ぶ。精神科についての入り口を感じ取っていただく。		
2	内藤	精神科医学概論、気分障害、統合失調症	異常な精神現象の理解、統合失調症		
3	内藤	認知症・不眠・ベンゾジアゼピン依存症など	認知症の種類、不眠を理解する。		
4	内藤	認知症・不眠・ベンゾジアゼピン依存症など	気分障害など		
5	内藤	症状性・物質性依存、てんかん、アルコール依存症・せん妄、脳器質性	アルコールなど左記内容の理解。コンサルテーションの理解。		
6	内藤	症状性・物質性依存、てんかん、アルコール依存症・せん妄、脳器質性	アルコール性障害など		
7	内藤	アルコール性障害など	アルコール性障害など 内容の理解		
8	内藤	神経性障害・パーソナリティ障害・神経性無食欲症	不安障害、身体表現性障害		
9	内藤	発達障害・精神保健、福祉、メンタルヘルス、精神科リハビリテーション	精神科と理学・作業療法との関連事項や重要性を理解していただく。		



10	内藤	発達障害・精神保健、福祉、メンタルヘルス、精神科リハビリテーション	心理・社会療法と地域ケア					
11	内藤	精神疾患関連映画	関連映画 統合失調症					
12	内藤	精神疾患関連映画	関連映画 統合失調症					
13	内藤	精神疾患関連映画	関連映画 その他					
14	内藤	精神疾患関連映画	関連映画 その他					
15	内藤	総まとめ	テスト対策。国家試験対策。総まとめ。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●	●			95	①②
	参加貢献度					●	5	③
評価の 特記事項	筆記試験の点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
教科書をひと通り読んでおくが良い。復習は必ずお願いいたします。（1時間程度）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
随時質問を受け入れております。								
教科書								
「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学」上野武治 編（医学書院）								
参考図書								
授業でご紹介いたします。								
備考：履修者への要望								
ご不明点は何でもご質問ください。テスト問題にも記入欄作りますので、遠慮せずをお願い致します。また、国家試験対策も行なっていくため、質問など積極的に授業の取り組みをお願いいたします。試験後も復習行い、国家試験の類似問題も解いておくが良いです。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
小児科学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
杉山 成司					
実務経験のある教員					
杉山成司：複数の大学、市民病院で小児科学の実務および教育、研究の経験を有する					
授業概要					
先天異常や発達障害、運動機能障害などを持つ子どもの支援には、理学療法や作業療法は不可欠な医療であり、大きな威力を発揮する。そのためには、患児、患者一人ひとりに見合った適切かつ細やかなケアが求められる。本講義では、出生前期から新生児、乳幼児、学童、思春期へとつながる継続性のある小児医学一般を習得、併せて疾病の背景や家族を含めた援助について理解を深める。					
学習到達目標					
知識・理解	① 小児疾患の特徴を説明できる。(DP 1, 2, 3, 4, 5, 6) ② 出生前から思春期に至る成長、発達を理解する。(DP 1, 2, 3, 4, 5, 6) ③ 各発達段階での代表的疾患について説明できる。(DP 1, 2, 3, 4, 5, 6) ④ 小児予防医学、保健医学の重要性を説明できる。(DP 1, 2, 3, 4, 5, 6) ⑤ 家族を含めた疾病を有する子どもへの支援について議論できる。(DP 1, 2, 3, 4, 5, 6)				
思考・判断 ・表現					
技能					
関心・意欲 ・態度	⑥ 講義に加え関連するトピックスなどを提供し、話題の意義、関心を議論できる。(DP 2, 3)				
授業形態					
講義	プリント、スライドによる講義が中心				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	杉山	小児科学序論	小児および小児疾患の特徴、小児の診療法		
2	杉山	成長と発達、小児保健	成長・発達とその障害、我が国の主な小児統計資料		
3	杉山	先天異常、遺伝病	出生前医学、先天異常、遺伝カウンセリング		
4	杉山	新生児・未熟児学	新生児・未熟児の生理と特有の疾患、脳性麻痺		
5	杉山	小児栄養、水・電解質	小児の栄養とその障害、水・電解質異常		
6	杉山	小児感染症（1）	小児の細菌性感染症		
7	杉山	小児感染症（2）	小児のウイルス性感染症、予防接種		
8	杉山	免疫・アレルギー疾患	自己免疫疾患、喘息、アトピー性皮膚炎		
9	杉山	循環器疾患	先天性心疾患（チアノーゼ型、非チアノーゼ型）		

10	杉山	呼吸器疾患	上気道・下気道感染症、日和見感染症、院内感染					
11	杉山	内分泌・代謝疾患	下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患、糖尿病					
12	杉山	消化器系疾患	下痢・嘔吐を来たす疾患、肝・胆道系疾患					
13	杉山	血液疾患	貧血、血小板減少症、白血病					
14	杉山	腎・泌尿器系疾患	腎炎、ネフローゼ、尿路感染症					
15	杉山	神経・筋疾患	中枢・末梢神経疾患、先天性ミオパチー、筋ジストロフィー症					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●				90	①～⑤
	授業参加度					●	10	⑥
評価の 特記事項	すべての評価の合計点が6割未満の場合、再試験を実施する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
日頃から「子ども」の医療に関する報道は多く、意識的に関心を持つよう心掛けて、現場での診療、支援に役立たせる。 講義に関する予習、復習を毎回30分～1時間ほど行う。 事前に次回授業のためのプリントを配布し、予習の補助とする。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
試験後、個別に点数開示や質問等に対応する。								
教科書								
標準理学療法学・作業療法学：専門基礎分野 小児科学(第5版)．富田 豊 編集， 医学書院，2018								
参考図書								
図書館内には多数の小児科疾患関連蔵書がある。活用すべし。								
備考：履修者への要望								
不明な点は労を惜まず、教科書や他の医学書などを参考にして、自身での理解に務める。自己学習の能力を高める姿勢は、問題発見にもつながり将来大きな力となる。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
医療安全学・救急医学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	15時間
担当教員名					
石川 清、宮津 真寿美、松村 仁実、山田 南欧美、横山 剛、濱田 光佑、松田 裕美					
実務経験のある教員					
石川 清：医療安全については、名古屋市立大学病院および名古屋第二赤十字病院勤務時代に医師として臨床の現場で経験したことを講義する。救急医療については、名古屋第二赤十字病院勤務時代に救命救急センター長として長年救急医療の業務に従事した経験を講義する。災害医療については、同じく赤十字病院勤務時代に国内外の大災害の救援活動歴あり【阪神淡路大震災救援(1995)、イラン南東部地震救援活動(2003)、スマトラ島沖地震津波災害救援活動(2005)、東日本大震災救援活動(2011)、ネパール地震救援視察(2015)】また、赤十字病院の災害訓練等の活動に長年にわたって従事した経験を講義する。					
授業概要					
この授業では医療スタッフに求められる危機管理、特に、医療安全、救急医療、災害医療について学ぶ。 【医療安全学】すべての医療施設に求められる最も重要なテーマは『患者安全と医療の質向上』である。医療スタッフとして患者安全の重要性を理解するとともに、それを守るための対処法について学ぶ。医療の現場で最も起こりやすい医療事故について学ぶ。さらには、患者安全を守るために医療施設で取られている具体的な対応策についても学ぶ。 【救急医学】医療人として必要な応急処置法や心肺蘇生法について学ぶ。特に、リハビリスタッフとして必要となる緊急時の判断及びその救急対応、およびリスク管理について学ぶ。特に緊急時の判断としてバイタルサインの重要性について学ぶ。さらに、リハビリスタッフに求められる救急医療、災害医療、さらに、大災害時の果たすべき役割等について学ぶ。					
学習到達目標					
知識・理解	①医療の現場で起こりうる医療事故の原因、予防、対策について説明できる。(DP3,6) ②患者の急変について状況、対応について説明できる。(DP3,6) ③医療スタッフに求められる災害医療について説明できる。(DP3,6)				
思考・判断 ・表現	④医療現場で起こりうる危険予知について考えることができる。(DP3,6)				
技能	⑤バイタルサインを測定できる。(DP3,6) ⑥応急処置法を実施できる。(DP3,6) ⑦心肺蘇生法を実施できる。(DP3,6)				
関心・意欲 ・態度	⑧医療の現場で起こりうる医療事故に関心を持つことができる。(DP3,6) ⑨リハビリスタッフとしてこれからの新たな領域としての災害医療に関心を持つことができる。(DP3,6)				
授業形態					
講義	スライドとプリントを用いた講義、バイタルサインの見方の実技、心肺蘇生法の映像、災害医療の映像				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	石川	1年次：医療における有害事象、医療安全	インシデントとアクシデント、医療事故、医療過誤などについて学習する。医療施設で最も起こりやすい医療事故（患者誤認、転倒転落、コミュニケーションエラーなどについて学習する。		
2	石川	1年次：医療安全対策	各医療施設で実施されている医療事故を予防する対策について学習する。		
3	石川	1年次：リハビリのリスク管理	リハビリテーション実施時のリスク管理、緊急時の判断などについて学ぶ。		
4	石川	1年次：バイタルサイン	バイタルサインの見方について学ぶ。		
5	石川	1年次：応急処置法・心肺蘇生法	医療人として必要な応急処置法・心肺蘇生法BLS (Basic Life Support) について学ぶ。心肺蘇生法BLS (Basic Life Support) については映像を用いて学ぶ。		
6	石川	1年次：災害医療	災害医療、トリアージ、防災訓練などについて学ぶ。		
7～8	石川・宮津・松村・山田・横山・松田・濱田	2年次：心肺蘇生法	心肺蘇生法BLS (Basic Life Support) について実際に実技で学ぶ。		

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法						
	筆記試験	●	●		●	70	①②③④⑧⑨
	レポート (1年次)	●	●		●	20	①②③④⑧⑨
	レポート (2年次)			●		10	⑤⑥⑦
評価の 特記事項	筆記試験は第1～6回の授業内容 (1年次) で実施し、6割に達しなかった場合に再試験を実施する。 レポートは毎回の授業で課し、記載内容を評価する。 最終評価は各評価方法の合計点数で評価し、2年次に行う。						
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間							
1回の講義について30分程度の予習を行うこと。各講義の中で重要なテーマについては、振り返りを行うために1時間程度の時間をかけてレポートの作成をもって復習すること。							
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法							
提出したレポートについては授業の中で返却する。 筆記試験は採点後に返却する。							
教科書							
特に使用しない							
参考図書							
医療安全のキホン (秀和システム)、多職種連携で支える災害医療 (医学書院)、リハビリテーションリスク管理ケーススタディ (MEDICAL VIEW)、写真でわかる急変時の看護アドバンス (インターメディカ)、医療安全学 (篠原出版新社) 災害リハビリテーション標準テキスト (医歯薬出版株式会社)							
備考: 履修者への要望							
医療人としての道を選んだ初心を忘れずに、医療人として必要な医療安全学・救急医学についての知識を習得してください。社会人、組織人、医療人として将来、社会に貢献できる人材になれるように自覚をもって本授業を受講して下さい。							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
医療安全学・救急医学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年、2学年	必修	1単位	15時間
担当教員名					
石川 清、宮津 真寿美、山田 南欧美、横山 剛、松村 仁実、瀨田 光佑、松田 裕美					
実務経験のある教員					
石川 清：救急医療については赤十字病院勤務時代に救命救急センター長として長年救急医療の業務に従事した。災害医療については同じく赤十字病院勤務時代に国内外の大災害の救援活動あり【阪神淡路大震災救援（1995）、イラン南東部地震救援活動（2003）、スマトラ島沖地震津波災害救援活動（2005）、東日本大震災救援活動（2011）、ネパール地震救援視察（2015）】また、赤十字病院の災害訓練等の活動に長年にわたって従事した。					
授業概要					
この授業では医療スタッフに求められる危機管理、特に、医療安全、救急医療、災害医療について学ぶ。 【医療安全学】すべての医療施設に求められる最も重要なテーマは『患者安全と医療の質向上』である。医療スタッフとして患者安全の重要性を理解するとともに、それを守るための対処法について学ぶ。医療の現場で最も起こりやすい医療事故について学ぶ。さらには、患者安全を守るために医療施設で取られている具体的な対応策についても学ぶ。 【救急医学】医療人として必要な応急処置法や心肺蘇生法について学ぶ。特に、リハビリスタッフとして必要となる緊急時の判断及びその救急対応、およびリスク管理について学ぶ。さらに、リハビリスタッフに求められる救急医療、災害医療、さらに、大災害時の果たすべき役割等について学ぶ。					
学習到達目標					
知識・理解	①医療の現場で起こりうる医療事故の原因、予防、対策について説明できる。（DP3,6） ②患者の急変について状況、対応について説明できる。（DP3,6） ③医療スタッフに求められる災害医療について説明できる。（DP3,6）				
思考・判断 ・表現	④医療現場で起こりうる危険予知について考えることができる。（DP3,6）				
技能	⑤バイタルサインを測定できる。（DP3,6） ⑥応急処置法を実施できる。（DP3,6） ⑦心肺蘇生法を実施できる。（DP3,6）				
関心・意欲 ・態度	⑧医療の現場で起こりうる医療事故に関心を持つことができる。（DP3,6） ⑨リハビリスタッフとしてこれからの新たな領域としての災害医療に関心を持つことができる。（DP3,6）				
授業形態					
講義	スライドとプリントを用いた講義、バイタルサインの見方の実技、心肺蘇生法の映像、災害医療の映像				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	石川	1年次：医療における有害事象、医療安全	インシデントとアクシデント、医療事故、医療過誤などについて学習する。医療施設で最も起こりやすい医療事故（患者誤認、転倒転落、コミュニケーションエラーなどについて学習する。		
2	石川	1年次：医療安全対策	各医療施設で実施されている医療事故を予防する対策について学習する。		
3	石川	1年次：リハビリのリスク管理	リハビリテーション実施時のリスク管理、緊急時の判断などについて学ぶ。		
4	石川	1年次：バイタルサイン	バイタルサインの見方について学ぶ。		
5	石川	1年次：応急処置法・心肺蘇生法	医療人として必要な応急処置法・心肺蘇生法BLS（Basic Life Support）について学ぶ。心肺蘇生法BLS（Basic Life Support）については映像を用いて学ぶ。		
6	石川	1年次：災害医療	災害医療、トリアージ、防災訓練などについて学ぶ。		
7～8	石川・宮津・松村・山田・横山	2年次：心肺蘇生法	心肺蘇生法BLS（Basic Life Support）について実際に実技で学ぶ。		

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法						
	筆記試験	●	●		●	70	①②③④⑧⑨
	レポート (1年次)	●	●		●	20	①②③④⑧⑨
	レポート (2年次)			●		10	⑤⑥⑦
評価の 特記事項	筆記試験は第1～6回の授業内容 (1年次) で実施し、6割に達しなかった場合に再試験を実施する。 レポートは毎回の授業で課し、記載内容を4段階 (良い3点、普通2点、悪い1点、未提出0点) で評価する。 最終評価は各評価方法の合計点数で評価し、2年次に行う。						
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間							
1回の講義について1時間程度の予習を行うこと。各講義の中で重要なテーマについては2時間程度の時間をかけてレポートの作成をもって復習すること。							
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法							
提出したレポートについては授業の中で返却する。 筆記試験は採点后に返却する。							
教科書							
特に使用しない							
参考図書							
医療安全のキホン (秀和システム)、多職種連携で支える災害医療 (医学書院)、リハビリテーションリスク管理ケーススタディ (MEDICAL VIEW)、写真でわかる急変時の看護アドバンス (インターメディカ)、医療安全学 (篠原出版新社)							
備考: 履修者への要望							
医療人としての道を選んだ初心を忘れずに、医療人として必要な医療安全学・救急医学についての知識を習得してください。社会人、組織人、医療人として将来、社会に貢献できる人材になれるように自覚をもって本授業を受講して下さい。							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数			
画像診断学	リハビリテーション学科 作業療法専攻	2学年	必修	1単位	15時間			
担当教員名								
種田 陽一								
実務経験のある教員								
種田陽一：現役の整形外科医が整形外科疾患、脳・脊髄疾患、内臓疾患の各種画像診断法を講義する								
授業概要								
チーム医療に参加した時に困らないために、各種疾患の理解のための画像診断について理解する。単純X線像、CT、MRIを中心に、脳疾患、脊髄疾患、関節疾患、外傷、胸部疾患、内臓疾患などの画像を理解し、積極的にチーム医療に参加できることを目的とする。								
学習到達目標								
知識・理解	①主な整形外科疾患、外傷、脳・脊髄疾患の画像所見を述べることができる。(DP1, DP2)							
思考・判断 ・表現	②病名と現病歴、重症度などから、適切な画像診断方法の選択を説明することができる。(DP1, DP2, DP4)							
技能	③実際の単純X線像、CT画像、MRI画像を見て異常部位を指摘することができる。(DP1, DP2)							
関心・意欲 ・態度	④医師やリハビリテーションスタッフとの討議に参加し意見を述べることができる。(DP2, DP6)							
授業形態								
講義	講義：教科書に沿って教科書の画像を用いて講義する。最後に国試問題を供覧する。							
授 業 計 画								
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容					
1	種田	各種画像診断法	単純X線、CT、MRI、超音波、核医学検査などの撮像法の原理					
2	種田	画像解剖学	骨・関節、脳、脊髄、胸部、腹部の正常単純X線像、CT像、MRI像の読影					
3	種田	脳疾患	頭蓋内出血、各種脳疾患のCT、MRI診断					
4	種田	脊椎・脊髄疾患	各種脊椎・脊髄疾患の単純X線、CT、MRI診断					
5	種田	四肢、体幹の骨折	脊椎の骨折、上肢の骨折、下肢の骨折、体幹の骨折の画像診断					
6	種田	骨・関節疾患	肩関節疾患、膝関節疾患、股関節疾患、小児整形疾患、骨腫瘍の画像診断					
7	種田	内臓疾患	胸部疾患、消化器疾患、泌尿生殖器疾患、動脈疾患の画像診断					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●	●	●		90	①②③
	受講態度					●	10	④



<p>評価の特記事項</p>	<p>筆記試験と受講態度の合計が6割で合格とする。再試験は6割に達しなかった場合に実施する。</p>
<p>準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p>	
<p>病的状態の画像を理解するためには正常な解剖（特に局所解剖）の知識が不可欠である。予め講義予定部位の解剖を予習してくる。約1時間</p>	
<p>課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法</p>	
<p>フィードバックとして試験問題の解説の時間を設ける予定である。</p>	
<p>教科書</p>	
<p>『PT, OTのための画像診断マニュアル』 百島祐貴 医学教育出版 社 2015</p>	
<p>参考図書</p>	
<p>『標準整形外科学 第14版』井樋栄二、医学書院 2020</p>	
<p>備考：履修者への要望</p>	
<p>講義中の私語は禁止。年々難しくなる国家試験を突破するためには日々の学習が大切である。学習の効果を上げるためには見る、聞く、書くの3つの方法の併用が有用とされる。講義中には講義内容の理解に努め、板書の要点をノートすると良いが、教科書に直接マーカーペンで色をつける方法もある。教科書に沿って講義をするので教科書を必ず持ってくる様に。</p>	

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
健康科学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
鳥居 昭久、高橋 圭					
実務経験のある教員					
<p>鳥居昭久： 健康増進指導やトレーニング指導、また介護予防活動の実績のある教員が、健康についての概論および実践について指導する</p> <p>高橋 圭：医療機関で管理栄養士として勤務経験を有した教員が、栄養と健康および運動(療法)の関わり、栄養の役割、食事の選択等を講義し、栄養に関する基礎的な知識を授業で教授する。</p>					
授業概要					
<p>理学療法士・作業療法士の主たる業務対象となるのが疾病治療や障害克服ではあるが、近年その役割は予防医学の分野にも求められている。予防医学の原点にあるのが“健康”の概念である。</p> <p>本科目では、講義形式に加え、一部グループによる演習を取り入れながら、健康の定義、健康に関わる社会的、医学的問題と、健康の維持・増進、疾病・障害予防についての基本的事項を学び、理学療法・作業療法と直接的にかかわる体力論、トレーニング論や、その手段の一つとして様々に応用されている運動について考察する。また、いわゆる生活習慣病やスポーツ外傷・障害の予防のために必要な運動のみならず、食事(栄養)の基礎についても学び、健康について多角的に理解する。この授業を通して、健康増進のための取り組みについての理解を深め、実践できる能力を身に付ける。</p>					
学習到達目標					
知識・理解	①健康についての基本的概念について説明することができる。(DP1) ②予防医学と健康増進についての基本的事項について説明することができる。(DP1)				
思考・判断 ・表現	③健康に関する諸問題について多角的に考え、自分の意見を説明することができる。(DP1)				
技能	④健康増進のための運動療法の基本的な方法について指導することができる。(DP1)				
関心・意欲 ・態度	⑤講義指定内容以外で、健康に関する様々な情報を収集し、自主的に考察することができる。(DP2、DP4)				
授業形態					
講義	座学の講義に加えて実技も行います。また、グループによるフィールドワークを含めた課外活動をする場合もあります。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1~3	鳥居	健康を知る ライフスキルを知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入(この講義で何を学ぶか?)</li> <li>・健康の定義、生活習慣病、健康政策ほかについて学ぶ</li> <li>・運動(スポーツ)とメンタルヘルスの関連を学ぶ</li> <li>・健康にかかわる社会的問題について学ぶ</li> <li>・アダプテッドスポーツについて学ぶ</li> </ul>		
4~6	鳥居	身体を知る エクササイズを知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体格、体型について学ぶ</li> <li>・身体と心身のメカニズム</li> <li>・体力測定、身体計測、簡易姿勢分析</li> <li>・様々な運動と身体反応</li> </ul>		
7~8	鳥居	動き・スポーツ行動を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力論、トレーニング論、運動生理学を学ぶ</li> <li>・健康づくりのためのエクササイズを学ぶ</li> <li>・エクササイズ、トレーニングの実験を体験する</li> </ul>		
9~10	鳥居	健康にかかわる諸問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ障害</li> <li>・疾病予防、障害予防と健康づくり</li> </ul>		
11~12	高橋	健康と栄養	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養で出来ること・出来ないことについて学ぶ</li> <li>・栄養素の役割、食事による健康障害について学ぶ</li> <li>・栄養管理の必要性・方法について学ぶ</li> </ul>		
13~15	鳥居	健康のためのエクササイズ (実技)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレッチングの実際</li> <li>・パワーの評価の実際</li> <li>・様々なトレーニング 他</li> </ul>		

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法						
	課題レポート	●	●	●	●	30	①②③④⑤
	知識確認テスト（筆記試験）	●	●	●		70	①②③④
評価の 特記事項	<p>講義内で指定した課題レポート（30%）と、最終試験における知識確認テスト（鳥居分50%、高橋分20%）で評価します。  実技などを含めて積極的な取り組みを求めます。授業態度によっては、減点する場合があります。  正当な理由が無い欠席の場合には、1回につき合計点の10%を減点します。  課題レポートが提出されない場合には、0点扱いになります。  知識確認テストが6割未満の場合には、再試験を実施します。  鳥居分、高橋分両方の試験に合格した場合のみ、単位認定とします。</p>						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
<p>健康に関する事項について、各成書やインターネットなどを用いて情報を収集することを予習および復習に含めます。  毎回の講義テーマに関係した事項についての関連学習をしてください。（1時間程度）  また、この科目は、解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、解剖学Ⅲ、生理学Ⅰ、生理学Ⅱの知識が必要です。これらの科目内容を事前に必ず復習しておいてください。（1時間程度）</p>							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
<p>レポートに関しては返却時に、レポートにコメントを貼付します。  知識確認テストについては、後日、全体へのフィードバック時間を設定します。</p>							
教科書							
「実習で学ぶ健康・運動・スポーツの科学」（九州大学健康・スポーツ科学研究会：大修館書店）							
参考図書							
健康、保健にかかわる成書、雑誌等							
備考：履修者への要望							
<p>現代社会において、理学療法士や作業療法士は、地域社会において1次予防活動に対しても積極的に関わるニーズが高まっています。  健康に対する意識を持ち、関係する知識の修得とともに、対象者に直接指導ができるようにすることを目指しましょう。</p>							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
リハビリテーション概論	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
加藤 真弓					
実務経験のある教員					
加藤 真弓：医療機関や介護保険分野で理学療法士としての勤務経験のある教員が、リハビリテーションの概念、理念、定義などを講義を通して必要な知識を教授する。					
授業概要					
リハビリテーションの概念・理念・定義を理解した上で、日本における医学的リハビリテーションの展開を理学療法士、作業療法士の視点から学ぶ。基本的内容としては、リハビリテーションの概念、健康の概念、障害の概念、人間の発達、リハビリテーション過程、リハビリテーションチーム、ADL、QOLなどについて学習する。					
学習到達目標					
知識・理解	①リハビリテーションについて、その理念、歴史、内容について理解し、説明することができる。(DP1) ②リハビリテーションの対象となる障害について、ICFの概念に基づいて理解し、説明することができる。(DP1)				
思考・判断 ・表現	③これから学ぶ理学療法学および作業療法学がリハビリテーションの中でどの様な位置付けになっているかを理解し、それぞれの役割を説明することができる。(DP1)				
技能					
関心・意欲 ・態度	④リハビリテーション、医療、介護、予防、理学療法、作業療法、高齢者、障がい者等に関するニュースや記事を読み、自身の意見を述べることができる。また、他者とディスカッションができる。(DP2, 3)				
授業形態					
講義	基本的に教科書を中心とした講義形式である。グループ内発表・ディスカッションも行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	加藤	リハビリテーションと健康の概念	リハビリテーションの概念・理念・定義、健康と障害の概念を学ぶ		
2	加藤	リハビリテーションと健康の概念	リハビリテーションの概念・理念・定義、健康と障害の概念を学ぶ		
3	加藤	障害の理解	ICFの概念に基づいて、具体的な事例から障害の概念を考える		
4	加藤	障害の理解	ICFの概念に基づいて、具体的な事例から障害の概念を考える		
5	加藤	障害の心理的、社会的視点	障害の心理的、社会的側面を学ぶ		
6	加藤	障害の心理的、社会的視点	障害の心理的、社会的側面を学ぶ		
7	加藤	リハビリテーション過程と諸段階	リハビリテーションの過程と諸段階を学ぶ		
8	加藤	リハビリテーション過程と諸段階	リハビリテーションの過程と諸段階を学ぶ		
9	加藤	リハビリテーションチーム	リハビリテーション専門職種と役割、チームアプローチについて学ぶ		

10	加藤	リハビリテーションチーム	リハビリテーション専門職種と役割、チームアプローチについて学ぶ					
11	加藤	ADL、QOL、義肢装具	ADL、QOL、義肢装具について学ぶ					
12	加藤	ADL、QOL、義肢装具	ADL、QOL、義肢装具について学ぶ					
13	加藤	地域、高齢者とリハビリテーション	地域リハビリテーションおよび高齢者・健康対策を学ぶ					
14	加藤	地域、高齢者とリハビリテーション	地域リハビリテーションおよび高齢者・健康対策を学ぶ					
15	加藤	医療福祉制度、関係法規	医療福祉制度、関係法規を学ぶ					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●	●			60	①②③
	小テスト		●	●			20	①②③
	ポートフォリオ		●	●		●	20	①②③④
評価の 特記事項	<p>無断欠席・遅刻や受講態度が悪い場合には、科目試験結果から10%減点します。  小テストは2回実施します。ポートフォリオは、本科目の学習成果物として指定期日に提出すること。未提出の場合は0点、遅延や内容不十分の場合は減点します。  すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施します。</p>							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
<p>次回の学習範囲を読み、書かれている内容を整理することを予習課題として課します。ニュースや新聞記事などでリハビリテーション、医療、介護などに関する情報を収集し、スクラップにし、それらの記事に対する自身の意見等をまとめる。また、他者に紹介しディスカッションする準備を行う。(1～1.5時間程度)</p>								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
レポート返却時にコメントする、または、共通事項について授業内で全体にフィードバックする。								
教科書								
「リハビリテーション概論」上好昭孝・田島文博 編著 永井書店								
参考図書								
関係成書								
備考：履修者への要望								
これから理学療法士、作業療法士を目指す者としての心構えをしっかりとった受講態度を求めます。								

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数	
リハビリテーション倫理		リハビリテーション学科 作業療法学専攻	3学年	必修	2単位	15時間	
担当教員名							
鳥居 昭久							
実務経験のある教員							
鳥居 昭久：医療倫理やリハビリテーションなどについての指導実績のある教員が医療現場における倫理的問題について解説する							
授業概要							
ここでは、1年次に学習した内容を基にして卒業後の臨床に向けて必要な事項を学習する。理学療法士や作業療法士は、リハビリテーションを実施する中で様々な倫理的側面について考える必要がある。単に施設内でのリハビリテーションの担い手として収まるのではなく、全人間的な視点で対象者を見つめることができる能力を身につけた医療人をめざしたい。そこで、これまで学習した理学療法、作業療法の知識や、臨床実習での体験の上に、医療や福祉における様々な倫理的問題を検討し、それをどの様に解釈するか、また、その問題解決のために、医療や福祉はどうあるべきかを考えることがこの講義の目的となる。							
学習到達目標							
知識・理解	①リハビリテーションを取り巻く医療や福祉の中での倫理的な問題点を具体的に検証し、それに対する自分の見解を確立し、客観的な表現で説明することができる。(DP1, DP2)						
思考・判断・表現	②倫理的な思考の基に、医療における倫理的な諸問題について説明ができる。(DP1, DP2)						
技能	③リハビリテーションを取り巻く医療や福祉の現場において、倫理的側面を考慮した態度で実務的支援ができる。(DP4, DP5)						
関心・意欲・態度	④リハビリテーションを取り巻く医療や福祉の現場において、倫理的配慮について関心を持ち、それを考慮した態度で支援できる。(DP4, DP5)						
授業形態							
講義	講義を含めたグループワーク形式のアクティブ・ラーニングを実施する						
授 業 計 画							
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容				
1~2	鳥居	臨床倫理	臨床実習で体験したことを整理して倫理的問題について考える□ 臨床実習で体験したことを整理して倫理的問題についてディスカッションする その上で、医療人として必要な倫理的態度について検討する				
3~4	鳥居	(3年次) 医療倫理規定および関係法規	医療関係業種の倫理規定について学ぶ□ 医療関係法規について学ぶ				
5~6	鳥居	(3年次) 社会問題と医療倫理	社会における医療倫理問題事例について考える				
7~8	鳥居	(3年次) のぞましいセラピスト像	理学療法士、作業療法士として命や死に対してどの様な態度であるべきかを考える□ 卒業後に医療人としての目標を整理する				
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	課題レポート	●	●	●	●	100	①②③④
評価の 特記事項	この科目は3年次までに前半の受講をした者が受講可能です。 1年次および3年次の講義を受講した上で、最終的な評価判定を行う。 2021年度3年生は、最終判定は3年次最終の課題レポート(100%)で評価する 受講態度によって最終評価から減点することがある。真摯な受講態度、積極的な受講態度を求める。 なお、すべての評価方法の合計点数に満たない場合でも、再試験は実施しない。						

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
予習、復習含めて、講義内容の課題は、専門書のみならず、多くの情報媒体を利用して知識を深める必要がある。また、新聞報道など、医療倫理的な最新情報も積極的に取り入れる必要がある。多彩な情報を集めて学習を進める。（1時間程度）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法
講義の中でディスカッション時間を設けるので、その際にフィードバックを行う。
教科書
使用しない(必要に応じて資料を配布します)
参考図書
医療倫理関連成書
備考：履修者への要望
医療人として生命倫理についての正しい知識と、それに基づいた態度をもって臨床現場に臨むことは必要最低限の条件です。この講義では、先ず積極的に知ろうとする態度と、他者の意見を多角的、客観的に分析し、自らの行動変容に繋がる学習成果を得られることを期待しております。

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
リハビリテーション社会論		リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名						
石川 清、木村 菜穂子、横山 剛、松村 仁実、宮津 真寿美、山田 南欧美、濱田 光佑、松田 裕美						
実務経験のある教員						
石川 清：災害医療については赤十字病院勤務時代に国内外の大災害の救援活動歴あり【阪神淡路大震災救援（1995）、イラン南東部地震救援活動（2003）、スマトラ島沖地震津波災害救援活動（2005）、東日本大震災救援活動（2011）、ネパール地震救援視察（2015）】また、赤十字病院の災害訓練等の活動に長年にわたって従事した。						
授業概要						
<p>本科目は、社会環境や社会制度、自然環境との関係を意識し、リハビリテーション専門職として社会や自然環境との関係について、講義を中心にオムニバス形式にて学修する。</p> <p>木村担当：様々な社会保障制度の中でリハビリ職が従事する場合の留意点や、地域包括ケアシステム構築の中でリハビリ職に求められることを学ぶ。</p> <p>石川担当：この授業では、医療スタッフに求められる災害医療についての知識、実技について学ぶ。1年次にはグループワーク（読み物による過去の災害の追体験）として災害エスノグラフィを学ぶ。2年次には、毎年実施されている清須市総合防災訓練に参加することによって、実技を通して医療スタッフに求められる災害医療、大規模災害時に果たすべき役割等について学ぶ。この事前学習として座学で災害医療の概要、災害の3T（トリアージ、トランスポート、トリートメント）の中のトリアージ、応急処置について学ぶ。また、実技で傷病者搬送の仕方、三角巾の使い方、トリアージの仕方等について学ぶ。</p> <p>横山担当：障害者の就労支援の仕組みとリハビリ職の役割について学ぶ。</p>						
学習到達目標						
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>①大規模災害時に起こる医療に関する問題を説明できる。＜DP3, 6＞</li> <li>②医療スタッフに求められる災害医療について説明できる。＜DP3, 6＞</li> <li>③理学療法士・作業療法士の業務に関連する主な社会福祉制度を説明できる。＜DP1, 2＞</li> <li>④障害者雇用の現状を説明できる。＜DP1, 2＞</li> <li>⑤障害者雇用の政策について説明できる。＜DP1, 2＞</li> <li>⑥障害者雇用の支援について説明できる＜DP1, 2＞</li> </ul>					
思考・判断 ・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦災害現場で起こりうる医療問題を考えることができる。＜DP3, 6＞</li> <li>⑧地域包括ケアシステムを理解し、システムの中での理学療法士・作業療法士の役割を考えることができる。＜DP3, 6＞</li> </ul>					
技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑨災害時の応急処置を実施できる。＜DP3, 6＞</li> <li>⑩災害時の患者搬送ができる。＜DP3, 6＞</li> <li>⑪災害時のトリアージを実施できる。＜DP3, 6＞</li> </ul>					
関心・意欲 ・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑫リハビリスタッフとしてこれからの新たな領域としての災害医療に関心を持つ。＜DP3, 6＞</li> <li>⑬自身の職業意識を高める＜DP3＞</li> </ul>					
授業形態						
講義	<p>石川担当：座学はスライドとプリントを用いた講義、実技は赤十字スタッフ及び本学教員による実技指導、清須市職員及び救急隊員等による実技指導</p> <p>木村担当：講義</p> <p>横山担当：講義およびグループによるディスカッション</p>					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1～2	木村	1年次：社会福祉制度	日本の社会福祉制度の変遷 高齢者・障害者を取りまく社会福祉制度			
3～4	木村	1年次：地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムの概要 地域包括ケアシステムの中での理学療法士・作業療法士の業務			
5	石川・宮津・松村・山田・ 横山・松田・濱田	1年次：災害医療実技（災害エスノ グラフィ）	グループワーク（読み物による過去の災害の追体験）			
6～10	横山	1年次：障害者の就労支援の仕組み とリハビリ職の役割	障害者の雇用の現状について（講義とグループワーク） 障害者の雇用の政策について（講義とグループワーク） リハビリテーション専門職に求められている役割			
11	石川・宮津・松村・山田・ 横山・松田・濱田	2年次：災害医療講義	清須市総合防災訓練のための事前学習として、座学で災害医療の概要、災害の3T（トリアージ、トランスポート、トリートメント）の中のトリアージ、応急処置、バイタルサインの見方等について学ぶ。			



12～15	石川・宮津・松村・山田・ 横山・松田・濱田	2年次：災害医療実技	清須市総合防災訓練のための事前学習として、実技で傷病者搬送の仕方、三角巾の使い方、トリアージの仕方等について学ぶ。(12、13回) 毎年定期的に行われている清須市総合防災訓練(9月第1土曜日)に参加して、応急処置、トリアージ等の災害医療救護活動を学ぶ。(14、15回)				
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合(%)	到達目標
	評価方法						
	レポート(石川担当)	●	●	●	●	20	①②⑦⑨⑩⑪⑫
	筆記試験(木村担当)	●	●			25	③⑧
	筆記試験(横山担当)	●				25	④⑤⑥
	参加貢献度(横山担当)				●	10	⑬
レポート(石川担当)2年生	●	●	●	●	20	①②⑦⑨⑩⑪⑫	
評価の 特記事項	<p>石川担当：座学・実技についてはレポートによって評価する。 木村担当：筆記試験によって評価する。ただし、無断欠席・受講態度不良者は、筆記試験点数から10%減ずる。 横山担当：筆記試験及び授業への参加貢献度によって評価する。</p> <p>※それぞれの分野で基準点(得点率60%)を満たすことを、単位認定の条件とします。これに満たない場合は、分野ごとに再レポート、再試験を行うことがあります。</p>						
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間							
<p>石川担当：座学の講義についてはレポートを作成する(1回につき1時間程度)、実技については、事前勉強及びレポート作成に各1時間程度学習する。 木村担当：講義内で配布した資料等をまとめる。講義中に理解が不十分な点を解決する。課題がある場合は実施する(1回につき1時間程度)。 横山担当：講義内でパワーポイント資料を配布しグループディスカッションするので、課題を持ち帰り学習する(1回につき1時間程度)。</p>							
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法							
<p>石川担当：提出したレポートについては授業の中で返却してフィードバックをする。 木村担当：筆記試験の答えは返却しないが、希望者には個別に開示する(事前連絡必要)。 横山担当：筆記試験は希望者に開示します。</p>							
教科書							
<p>石川担当：特に使用しない。 木村担当：特に使用しない。 横山担当：特に使用しない。</p>							
参考図書							
<p>石川担当：多職種連携で支える災害医療(医学書院)、写真でわかる急変時の看護アドバンス(インターメディカ) 木村担当：特になし。 横山担当：特になし。</p>							
備考：履修者への要望							
<p>石川：座学実技を通して、これからのリハビリのプロとして大規模災害時に活躍できる資質を身に付けてください。 木村：講義中心となるが、積極的参加を望む。懸命に学ぼうとする他者を妨げるような行為(講義中の私語等)は厳禁とする。 横山：障害者雇用の現状を知り、医療職・リハビリテーション専門職に求められていることについて、説明できるようになってください。</p>							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
リハビリテーション社会論	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年、2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
石川 清、木村 菜穂子、横山 剛、宮津 真寿美、松村 仁実、山田 南欧美、濱田 光佑、松田 裕美					
実務経験のある教員					
石川 清：災害医療については赤十字病院勤務時代に国内外の大災害の救援活動歴あり【阪神淡路大震災救援（1995）、イラン南東部地震救援活動（2003）、スマトラ島沖地震津波災害救援活動（2005）、東日本大震災救援活動（2011）、ネパール地震救援視察（2015）】また、赤十字病院の災害訓練等の活動に長年にわたって従事した。					
授業概要					
<p>本科目は、社会環境や社会制度、自然環境との関係を意識し、リハビリテーション専門職として社会や自然環境との関係について、講義を中心にオムニバス形式にて学修する。</p> <p>木村担当：様々な社会保障制度の中でリハビリ職が従事する場合の留意点や、地域包括ケアシステム構築の中でリハビリ職に求められることを学ぶ。</p> <p>石川担当：この授業では、医療スタッフに求められる災害医療についての知識、実技について学ぶ。1年次にはグループワーク（読み物による過去の災害の追体験）として災害エスノグラフィーを学ぶ。2年次には、毎年実施されている清須市総合防災訓練に参加することによって、実技を通して医療スタッフに求められる災害医療、大規模災害時に果たすべき役割等について学ぶ。この事前学習として座学で災害医療の概要、災害の3T（トリアージ、トランスポート、トリートメント）の中のトリアージ、応急処置について学ぶ。また、実技で傷病者搬送の仕方、三角巾の使い方、トリアージの仕方等について学ぶ。</p> <p>横山担当：障害者の就労支援の仕組みとリハビリ職の役割について学ぶ。</p>					
学習到達目標					
知識・理解	①大規模災害時に起こる医療に関する問題を説明できる。＜DP3, 6＞ ②医療スタッフに求められる災害医療について説明できる。＜DP3, 6＞ ③理学療法士・作業療法士の業務に関連する主な社会福祉制度を説明できる。＜DP1, 2＞ ④障害者雇用の現状を説明できる。＜DP1, 2＞ ⑤障害者雇用の政策について説明できる。＜DP1, 2＞ ⑥障害者雇用の支援について説明できる＜DP1, 2＞				
思考・判断 ・表現	⑦災害現場で起こりうる医療問題を考えることができる。＜DP3, 6＞ ⑧地域包括ケアシステムを理解し、システムの中での理学療法士・作業療法士の役割を考えることができる。＜DP3, 6＞				
技能	⑨災害時の応急処置を実施できる。＜DP3, 6＞ ⑩災害時の患者搬送ができる。＜DP3, 6＞ ⑪災害時のトリアージを実施できる。＜DP3, 6＞				
関心・意欲 ・態度	⑫リハビリスタッフとしてこれからの新たな領域としての災害医療に関心を持つ。＜DP3, 6＞ ⑬自身の職業意識を高める＜DP3＞				
授業形態					
講義	石川担当：座学はスライドとプリントを用いた講義、実技は赤十字スタッフ及び本学教員による実技指導、清須市職員及び救急隊員等による実技指導 木村担当：講義 横山担当：講義およびグループによるディスカッション				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1～2	木村	1年次：社会福祉制度	日本の社会福祉制度の変遷 高齢者・障害者をとりまく社会福祉制度		
3～4	木村	1年次：地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムの概要 地域包括ケアシステムの中での理学療法士・作業療法士の業務		
5	石川・宮津・松村・山田・ 横山・松田・濱田	1年次：災害医療実技（災害エスノ グラフィー）	グループワーク（読み物による過去の災害の追体験）		
6～10	横山	1年次：障害者の就労支援の仕組み とリハビリ職の役割	障害者の雇用の現状について（講義とグループワーク） 障害者の雇用の政策について（講義とグループワーク） リハビリテーション専門職に求められている役割		
11	石川・宮津・松村・山田・ 横山・松田・濱田	2年次：災害医療講義	清須市総合防災訓練のための事前学習として、座学で災害医療の概要、災害の3T（トリアージ、トランスポート、トリートメント）の中のトリアージ、応急処置、バイタルサインの見方等について学ぶ。		

12～15	石川・宮津・松村・山田・ 横山・松田・濱田	2年次：災害医療実技	清須市総合防災訓練のための事前学習として、実技で傷病者搬送の仕方、三角巾の使い方、トリアージの仕方等について学ぶ。(12、13回) 毎年定期的に行われている清須市総合防災訓練(9月第1土曜日)に参加して、応急処置、トリアージ等の災害医療救護活動を学ぶ。(14、15回)					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合(%)	到達目標
	評価方法							
	筆記試験(木村担当)		●	●			25	③⑧
	筆記試験(横山担当)		●				25	④⑤⑥
	参加貢献度(横山担当)					●	10	⑬
	レポート(石川担当)2年生		●	●	●	●	20	①②⑦⑨⑩⑪⑫
評価の 特記事項	石川担当：座学・実技についてはレポートによって評価する。 木村担当：筆記試験及び授業への参加貢献度によって評価する。 横山担当：筆記試験及び授業への参加貢献度によって評価する。 基準点に満たない場合は、再レポート、再試験を行います。							
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間								
石川担当：座学の講義についてはレポートを作成する(1回につき1時間程度)、実技については、事前勉強及びレポート作成に各1時間程度学習する。 木村担当：講義内で配布した資料等をまとめる。講義中に理解が不十分な点を解決する。課題がある場合は実施する(1回につき1時間程度)。 横山担当：講義内でパワーポイント資料を配布しグループディスカッションするので、課題を持ち帰り学習する(1回につき1時間程度)。								
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法								
石川担当：提出したレポートについては授業の中で返却してフィードバックをする。 木村担当：筆記試験の答案は返却しないが、希望者には個別に開示する(事前連絡必要)。 横山担当：筆記試験は希望者に開示します。								
教科書								
石川担当：特に使用しない。 木村担当：特に使用しない。 横山担当：特に使用しない。								
参考図書								
石川担当：多職種連携で支える災害医療(医学書院)、写真でわかる急変時の看護アド バンス(インターメディカ) 木村担当：特になし。 横山担当：特になし。								
備考：履修者への要望								
石川：座学実技を通して、これからのリハビリのプロとして大規模災害時に活躍できる資質を身に付けてください。 木村：講義中心となるが、積極的参加を望む。懸命に学ぼうとする他者を妨げるような行為(講義中の私語等)は厳禁とする。 横山：障害者雇用の現状を知り、医療職・リハビリテーション専門職に求められていることについて、説明できるようになってください。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
社会福祉学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
伊藤 正明					
実務経験のある教員					
伊藤正明：高齢者福祉施設、NPO法人でソーシャルワーカーとして勤務経験(13年)のある教員が、社会福祉の価値・社会保障の知識・対人援助技術について講義する。					
授業概要					
社会福祉の理念(目標)は、だれもが住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けることができる社会を作ることである。それには、福祉の専門職だけでなく、保健・医療等の専門職、ボランティア等の地域の住民がともに問題解決にあたることが求められる。 本科目では、地域で暮らす人々の生活課題とその解決のためのネットワークの形成を取り上げ、社会福祉についての概念・歴史・制度・課題について学び理解する。授業にはグループでの演習も取り入れる。					
学習到達目標					
知識・理解	①社会福祉を取り巻く環境を生活者としての視点で説明できる。(DP1) ②社会保障の仕組みが説明できる。(DP1,2)				
思考・判断 ・表現	③演習課題について言語化して表現すること、他者の意見を聴きともに考えることの意味について説明できる。(DP3,5)				
技能	④社会福祉の歴史をふまえた対象者理解について述べるができる。(DP4)				
関心・意欲 ・態度	⑤福祉マインドを意識して演習と課題に取り組むことができる。(DP4,6)				
授業形態					
講義	講義形式を中心にしながら、必要に応じDVDの視聴、グループワーク、演習形式で講義を行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	伊藤	社会福祉って何?	オリエンテーション、社会福祉の考え方		
2	伊藤	社会福祉援助技術演習①	基本的コミュニケーションとして「聴くこと」について演習		
3	伊藤	社会福祉の基本的動向	社会福祉を取り巻く環境を「生活者」としての視点から見る、「貧困」とは		
4	伊藤	社会福祉の担い手	社会福祉専門職とインフォーマルな社会福祉の担い手、地域福祉を支える機関・団体		
5	伊藤	児童家庭福祉	児童福祉の基本理念とその変遷、児童福祉関連法の概要、児童虐待に関する対策		
6	伊藤	低所得者福祉	所得保障と生活保護		
7	伊藤	社会福祉の仕組み	社会福祉を支える行政、社会福祉サービスの利用の仕組み		
8	伊藤	高齢者福祉	高齢者福祉の動向と介護保険制度について概観する		
9	伊藤	社会福祉援助技術演習②	多職種連携の実際、社会福祉施設相談員へのインタビュー		

10	伊藤	社会保障①	年金保険制度、労働保険制度、社会保障制度の動向					
11	伊藤	社会保障②	医療保険の仕組み、医療ソーシャルワーカーとは					
12	伊藤	障害者福祉	障害とは何か？障害者の歴史、障害者福祉の動向、障害者関連各法の概要について					
13	伊藤	利用者保護制度	利用者保護の背景、成年後見制度、日常生活自立支援事業など					
14	伊藤	地域福祉	地域福祉の意義、地域福祉活動の内容					
15	伊藤	社会福祉の歴史	社会福祉の歴史を概観する					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●	●	●	●	70	①②④⑤
	レポート		●	●	●		10	①③④
	ふり返しシートと小テスト		●	●		●	20	②③⑤
評価の特記事項		<p>講義終了時に「ふりかえりシート」を作成し提出することで講義内容の理解度の確認をする。  「レポート」(10%)と「ふりかえりシートと小テスト」(20%)の内容およびレポート試験(70%)で評価する。  再試験は、すべての評価方法の合計点数が60点に達しなかった場合に実施する。</p>						
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間								
<p>【復習】各講義の配布レジュメを振り返り、適宜実施する「小テスト」を解答できるように準備する(1時間程度)。また、新聞等で現在の社会の動向を把握し、社会問題としてどのような問題が注目されているのかを理解する(例：認知症高齢者の生活問題、障害者の置かれている現状からノーマライゼーションについて考えるなど)。</p>								
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法								
<p>試験の返却方法は、講義の中で指示します。  課題(試験、小テスト、レポート課題)に対する疑問点や質問は随時受け付けます。</p>								
教科書								
必要に応じて資料を配布する。								
参考図書								
授業中に随時紹介する。								
備考：履修者への要望								
復習を中心に、日常の中の出来事や気になるニュースがどのように社会福祉と関わっているのかを考えるよう努めてほしい。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
障がい者スポーツ概論	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
鳥居 昭久、加藤 真弓					
実務経験のある教員					
鳥居：パラリンピックなど障がい者スポーツの現場での活動実績のある教員が障がい者スポーツ全般について講義をする					
授業概要					
障がい者スポーツの歴史、社会的背景またその内容についての概要を理解する。障がい者が社会参加できる手段としての障がい者スポーツの理解を深め、理学療法士、作業療法士の知識の上に、どのような関わりができるかを知ることが目標となる。また、障がい者スポーツ現場に参加し、多くの障がい者スポーツの愛好者と交流するとともに、障がい者スポーツにおける様々な工夫を体験し、理学療法士、作業療法士の視点から理解を深める。					
学習到達目標					
知識・理解	①障がい者スポーツについての基礎事項を説明できる (DP1)				
思考・判断 ・表現	②障害を有する人がスポーツを行う時に必要なことを工夫し実践できる (DP2, DP4, DP5)				
技能	③障害を有する人がスポーツを行う際の指導において、適正にサポートできる (DP4, DP5)				
関心・意欲 ・態度	④障害を有する人がどのようなスポーツが可能かを積極的に考え、適切な態度で支援できる (DP3, DP4, DP5)				
授業形態					
講義	座学による講義と、実技を踏まえたグループワークを行う。また、公共の障がい者スポーツイベントにボランティアとして参加する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1~2	鳥居	障がい者スポーツ総論	障がい者スポーツの意義と基本理念について学ぶ□ 障がい者スポーツにおけるボランティアについて学ぶ		
3	鳥居	障害の理解	心身の障害について学ぶ		
4~6	鳥居	障がい者スポーツ科学と日本障がい者スポーツ協会公認指導者資格制度	障がい者スポーツにおける心理の特徴について学ぶ□ 体力やトレーニングについて学ぶ□ スポーツと栄養の基礎について学ぶ 資格認定制度について学ぶ		
7	鳥居	障がい者スポーツイベント	全国障がい者スポーツ大会の概要、パラリンピックなど障がい者スポーツ競技大会について学ぶ		
8	鳥居	スポーツ外傷、障害の予防	障がい者スポーツにおけるスポーツ外傷や障害の発生メカニズムと指導上の注意点について学ぶ		
9~14	鳥居・加藤	障害に応じたスポーツの工夫	障がい者スポーツのルールを理解し、審判などの実務を学ぶ (サウンドテーブルテニス (STT)、ボッチャ、フライングディスクなど)。これらの競技における障害に応じたスポーツ活動の工夫点について学ぶ。その上で、既存のスポーツにおいて障がい者が取り進む場合に必要不可欠な工夫点を競技毎、障害毎に検証し、実際に自分たちで実践してみる。		
15	鳥居・加藤	まとめ	これまで学んできたことについての振り返りを行い、障がい者スポーツにおいて理学療法士や作業療法士が果たせる役割についてディスカッションを行う。それを通して、今後の学ぶべき専門性を明らかにする。		

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法						
	知識確認テスト（筆記試験）	●	●	●		50	①②③
	障がい者スポーツイベント参加レポート	●	●	●	●	50	①②③④
評価の特記事項	<p>知識確認テスト(50%)と障がい者スポーツイベントへの参加報告レポート(活動レポート)(50%)で評価する。 尚、審判資格等障がい者スポーツ関連講習会の受講・資格取得した場合には、前述の評価項目の30%を補てんすることができる。 演習、実技を中心に実施しますので、授業時間内の取り組みによっては、減点することもあります。 すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施する。</p>						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
<p>各講義内容について、テキストを十分に予習・復習しておいて下さい。（30分程度） 学内講義だけでなく、障がい者スポーツイベント（競技会・練習会など）への参加を指定回数義務とします（活動レポートを作成します）。対象となる障がい者スポーツイベントについては、別途案内します。障がい者スポーツ現場での活動に積極的に参加することで、実践的に障がい者スポーツについて学修して下さい。</p>							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
基本的に、課題提出後の講義においてフィードバックをします。最終講義において、全体のフィードバックをします。							
教科書							
日本障がい者スポーツ協会編集「障がいのあるひとのスポーツ指導教本（初級・中級）2020年改訂キニエム対応」ぎょうせい							
参考図書							
スポーツ医学関連成書、スポーツ生理学関連成書、スポーツ指導関連成書など							
備考：履修者への要望							
<p>この科目の受講により、日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導員資格（初級）の登録申請ができます。また、開講期間中の障がい者スポーツ競技に関する審判員などの資格取得も可能です。 障がい者スポーツの現場で活動するための知識や技術を得るためには、積極的で、真摯な受講態度で臨み、是非とも障害を有する人たちの支援につながるような学びをしてください。</p>							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
作業治療学理論	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	15時間
担当教員名					
横山 剛					
実務経験のある教員					
授業概要					
本科目では、作業療法実践の意味と根拠を示す各種理論や関連した枠組みについて理解する。授業はテキストを用いて学修する他、興味のある理論の学習、成果発表で構成する。作業療法や作業療法に関連した各種理論や枠組みをテキストから学修する。					
学習到達目標					
知識・理解	①作業療法の様々な理論について、その特徴や見方を述べることができる。(DP1)				
思考・判断 ・表現	②作業療法における、理論の必要性と意義を説明できる。(DP2) ③理論と作業療法の実践とのつながりについて説明できる。(DP5) ④作業療法の独自性について、学んだ知識を用いて、自らの意見を述べるができる。(DP2)				
技能					
関心・意欲 ・態度	⑤グループワークにおいて、自らの役割を果たし協調することができる。(DP5)				
授業形態					
講義	講義に加えてグループワークを実施し、アクティブラーニングの形式で進める				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	横山	作業療法の理論の概観	作業療法の理論の構成およびその内容について学ぶ。(第1、3章)		
2	横山	理論と実践1	作業療法理論、実践モデルを学ぶ。(第2章) グループで理論を選択して、その内容について理解し、報告を行う準備をする。		
3	横山	理論と実践2	作業療法理論、実践モデルを学ぶ。(第2章) グループで理論を選択して、その内容について理解し、報告を行う準備をする。		
4	横山	理論と実践3	作業療法理論、実践モデルを学ぶ。(第2章) グループで理論を選択して、その内容について理解し、報告を行う準備をする。		
5	横山	理論と実践4	作業療法理論、実践モデルを学ぶ。(第2章) グループで理論を選択して、その内容について理解し、報告を行う準備をする。		
6	横山	理論と実践5	作業療法理論、実践モデルを学ぶ。(第2章) グループで理論を選択して、その内容について理解し、報告を行う準備をする。		
7	横山	理論と実践6	各理論をグループごとに発表する。		
8	横山	まとめ	授業の総括		



観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	筆記試験	●	●				40
レポート			●			40	②③
参加貢献度					●	20	⑤
評価の 特記事項	再試験は筆記試験・レポート・参加貢献度の合計点が6割に満たない場合実施する。 再試験は筆記試験のみ行い、その際レポート・参加貢献度の点をそのまま加点する。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
予習：教科書の該当箇所をよく読み理解を深めてください。講義で課題に出された内容については、各自でもグループでも調べて次回の講義に参加して下さい。（約1時間） 復習：授業の内容を復習し、グループ報告の後は、他のグループの報告内容の理解に勤めてください。（約1時間）							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
グループ学習の報告については講義の中でフィードバックします。筆記試験は、希望者に開示します。							
教科書							
「5W1Hでわかりやすく学べる 作業療法理論の教科書」小川真寛・他編、メジカルビュー社							
参考図書							
適宜紹介します。							
備考：履修者への要望							
作業療法の枠組みを理論的にしっかりと学び、作業の効果的な介入計画と実施、そして説明ができる作業療法士を目指しましょう。							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
臨床運動学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	15時間
担当教員名					
加藤 真夕美					
実務経験のある教員					
加藤 真夕美：医療機関、介護老人保健施設、保健センター、通所介護事業所において作業療法士として勤務し、身体障害領域及び老年期領域の作業療法の経験を有する教員が、疾患別動作特性についての講義を行う。					
授業概要					
様々な疾患によって引き起こされる機能障害により、人の動作には変化が生じる。その変化とは、疾患ごとにどのような特徴があるのか、またなぜ生じるのかを運動学的に分析する手法を理解することを本科目の目的とする。同時に、それらの動作の変化に対してどのような作業療法的アプローチが可能かを、講義及び模擬実践を通して習得する。本科目では日常生活活動（ADL）に関わる作業療法のうち、起居・移動動作に焦点を当てて講義する。					
学習到達目標					
知識・理解	①疾患や加齢により生じる動作方法の変化についてなぜそのような動作になるのか、運動学で学習した知識を基に理解することができる。（DP1）				
思考・判断 ・表現	②①を他者に説明することができる。（DP1） ③多様な動作分析の視点を挙げることができる。（DP1, 5）				
技能	④動作をモトスコピーを用いて記録し、層ごとの特徴を簡潔な文章で記述できる。（DP1, 5）				
関心・意欲 ・態度	⑤提出物を遅滞なく、内容の不足なく確実に提出することができる。（DP3）				
授業形態					
講義	講義を主体とするが、理解を深めるために模擬体験やレポート作成など、能動的な学習を促す演習を多く併用する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	加藤	基礎運動学の復習 動作分析の手法	基礎運動学の復習とその臨床への応用を学ぶ。また、動作分析の基礎をモトスコピーの実践を通して学ぶ。（第1章A～C、第2章Ⅰ～Ⅱ）		
2	加藤	動作分析の視点 移乗介助の基礎	OTに必要な動作分析の視点を学ぶ。また、第1回目で復習した運動学的知識を応用し、移乗介助のポイントを学ぶ。（第1章D）		
3	加藤	片麻痺の動作特性と活動支援① 静 止姿勢保持、起居動作	片麻痺の動作特性（静止姿勢保持、起居動作）について、その特徴と活動支援時のポイントを学ぶ。（第3章Ⅰ）		
4	加藤	片麻痺の動作特性と活動支援② 歩 行、段差昇降	片麻痺の動作特性（歩行、段差昇降）について、その特徴と活動支援時のポイントを学ぶ。（第3章Ⅰ）		
5	加藤	パーキンソニズム、高齢者の動作特 性と活動支援	パーキンソニズムおよび高齢者の動作特性（静止姿勢保持、起居動作）について、その特徴と活動支援時のポイントを学ぶ。（第3章Ⅵ、Ⅹ）		
6	加藤	脊髄損傷の動作特性と活動支援	脊髄損傷の動作特性（静止姿勢保持、起居動作）について、その特徴と活動支援時のポイントを学ぶ。（第3章Ⅱ～Ⅳ）		
7	加藤	運動学的知識の移動動作支援技術へ の応用	第2回で学んだ移乗介助のポイントを活かし、種々の模擬患者に対して移乗介助の体験を行う。またその場面を観察し、モトスコピーを用いて動作分析を行う。（第2章Ⅲ）		
8	加藤	講義のまとめ	授業の総括を行う。		

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法						
	筆記試験	●	●			80	①②③
	レポート			●	●	20	④⑤
評価の 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>再試験は、筆記試験得点が6割未満の場合に実施する。</li> <li>筆記試験得点が6割以上かつ、すべてのレポートが提出された場合に、単位を認定する。</li> <li>レポートは、課題ごとに評点を定めたルーブリックを用いて評価する。評点は課題ごとに提示する。</li> <li>レポートは、提出の遅滞や内容の不足があった場合に減点する。内容によっては再提出を求める。</li> </ul>						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回提示される次回の予習プリントを、教科書を熟読した上で自習学習する。（各回30分）</li> <li>授業当日観察した動作を、モトスコピーを用いて分析する。予習したことと当日の授業で学んだことを踏まえ、分析結果を考察する。（授業内）</li> <li>一連のレポートは、次回の授業で提出する。授業を欠席した場合、該当回分の課題レポートは後日提出する。</li> </ul>							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートは、コメントを記入するなどしてフィードバックする。</li> <li>筆記試験は、答案を返却する。答案を取りに来た学生に対し、個別に口頭でフィードバックを行う。</li> </ul>							
教科書							
「標準理学療法学 臨床動作分析」高橋 正明 他 医学書院							
参考図書							
「基礎運動学」 中村隆一他 医歯薬出版 「ベッドサイドの神経の診かた」 田崎義昭 南山堂							
備考：履修者への要望							
<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回実技を取り入れます。動きやすい服装で臨んで下さい。</li> <li>動画の撮影できる機器（デジタルビデオカメラやスマートフォン）を持っている学生は、持参して下さい。</li> <li>臨床における対象者の動作観察の視点を養い、動作変更の理由を考えるために必要な知識を身につけます。</li> <li>受け身的ではなく、自身の身体を教材に積極的に様々なことを考え、学び取って下さい。</li> <li>運動学や解剖学、身体障害領域の講義と関連付けて行うため、関連科目を含めた予習、復習を行うことを求めます。</li> </ul>							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
基礎作業学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
松田 裕美					
実務経験のある教員					
松田 裕美：医療施設等において、作業を用いた作業療法を実施した経験を有する教員が、個々の作業のもつ特性や自由度について講義し、疾患や発達段階に合わせて作業を提供できる知識を授業で教授する。					
授業概要					
本科目は、作業療法の治療的要素である作業についての基礎的な知識を修得する。基礎作業学の概略、作業の分類、治療的要素としての作業とその遂行に及ぼす要因、作業を行う主体である人について、運動機能、心理機能、ライフステージなどと関連付けて学修する。また、作業分析の方法、および人と作業そしてそれを取り巻く環境との相互作用に関する理論についても学修する。授業は、講義を主体とするが、理解を深めるために随時演習を用いる。					
学習到達目標					
知識・理解	①作業療法における作業の範囲と分類を述べることができる。(DP1)				
思考・判断 ・表現	②作業遂行に影響を与える種々の要因を挙げ、説明することができる。(DP1) ③作業遂行に関する理論の概要を説明することができる。(DP1)				
技能	④授業内で取り上げる作業分析の目的を理解し、課題を仕上げるができる。(DP1)				
関心・意欲 ・態度	⑤課題遂行に当たってグループメンバーと討議することができる。(DP5) ⑥授業の予習復習アンケートなど提出物を期限内に遂行できる(DP3)				
授業形態					
講義	教科書を元に講義形式で行う。一部、理解を深めるために演習を取り入れる。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	松田	オリエンテーション	シラバス、科目試験等の説明 作業療法、作業のイメージ調査 これまでの作業の経験についてグループワーク(自己紹介を含めて)		
2	松田	作業療法における「作業」とは？	オリエンテーションでの各自の作業体験等を踏まえ、作業療法における「作業」について理解する。		
3	松田	ひとの一生と作業①	乳児期～青年期までの発達と作業について学ぶ		
4	松田	ひとの一生と作業②	成人期～超高齢期までの発達と作業について学ぶ		
5	松田	脳と作業 学習と作業 コミュニケーションと作業	りんごの絵を描いてみよう 学習と作業の関係について学ぶ コミュニケーションとは？コミュニケーションの種類について学ぶ		
6	松田	作業の知①	事例を基に作業の持つ目的性、具体性、投影性について知る		
7	松田	作業の知②	事例を基に作業の持つ意味性、能動性、身体性について知る		
8	松田	作業の知③	事例を基に作業の持つ操作性、没我性、共有性について知る		
9	松田	作業を用いたコミュニケーションとは？	実際の作業活動を用いてコミュニケーションの種類や取り方を感じる		

10	松田	作業の自由度について	実際に作業活動を体験し、作業の自由度について理解する
11	松田	作業分析① 作業分析の目的、工程の分け方	作業分析が必要な理由について、実習で行った作業(革細工、陶芸)を通して、工程の分け方について学習する。グループにて、各工程ごとに行った作業を具体的に記載する。
12	松田	作業分析② 工程分け、内容分析	作業の各工程で身体運動、可塑性、実際に実習した時の気分、難しかった点、初めて行う人への伝え方などについて分析していく。
13	松田	作業分析③ 工程分け、内容分析	作業の各工程で身体運動、可塑性、実際に実習した時の気分、難しかった点、初めて行う人への伝え方などについて分析していく。
14	松田	作業分析④ 作業の違いによる比較	各作業の作業分析結果を基に相違点について考える。また、以前に学習した治療的応用も踏まえ総合的に理解する。
15	松田	作業分析⑤ 作業の段階づけの仕方	同じ作業工程の難易度を操作するための視点を学ぶ。各作業分析の結果を治療的応用も踏まえ総合的に理解する。

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●	●			70	①②③
	レポート				●	●	20	④⑤⑥
	参加貢献度					●	10	⑥

評価の特記事項	再試験は筆記試験・レポート・参加貢献度の合計点が6割に達しなかった場合、実施する。 再試験は筆記試験のみ行い、その際レポート・参加貢献度の点はそのまま加点する。
---------	---

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：教科書の目次、該当ページを熟読する（1時間程度）。予習課題が出題された場合は期限内に遂行する。なお予習課題が期限内に提出できない場合は参加貢献度を減点する。  
復習：随時提示されるレポート課題を提出する。授業時間内に提出ができない場合は自宅に持ち帰り仕上げる。なお、レポートが期限内に提出できない場合はレポート得点を減点する。復習課題が出題された場合は期限内に遂行する。なお復習課題が期限内に提出できない場合は参加貢献度を減点する。

課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法

- ・レポートは、コメントを記入するなどしてフィードバックする。
- ・筆記試験は、希望者に個別に口頭でフィードバックを行う。
- ・予習復習課題での質問事項等は授業内でフィードバックする。

教科書

ひとと作業・作業活動 新版・作業の知をとき技を育む 三輪書店

参考図書

第3版作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業学 メジカルビュー社

備考：履修者への要望

まず、学修の手引きのカリキュラムマップを見てみましょう。本科目は「基礎作業療法学」というグループに位置付けられています。作業療法を学ぶ上での土台となる科目の一つと言えるでしょう。  
グループワークでは自分から発言することはもちろんですが、他者の発言を聴き自身の理解や知識の幅を広げていきましょう。

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
基礎作業学実習	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	2単位	60時間
担当教員名					
森下 章生、後藤 秀樹、松田 裕美					
実務経験のある教員における科目					
松田裕美：医療機関で作業療法士として勤務経験のある教員が、実際の現場で使用していた作業やその方法を用い、作業療法における作業（アクティビティ）の 用い方を理解することを目標に実習する。					
授業概要					
<p>本科目は、基礎作業学で学んだ内容をもとに実際に作業を行う。籐細工、スポーツ(ポッチャ)、革細工、陶芸において、それぞれの作業の手順を理解と作業分析 通して、作業療法における作業の位置づけを理解する。また、実習の中で教えあうことを通し、指導法について学修し、リハビリへの応用を考察する。基礎作業 学で学んだ内容をもとに、実際に作業を行い、その内容を分析する。作業の体験と分析により、作業療法における作業の位置づけを理解する。</p> <p>&lt;籐細工&gt;この作業を通して作業療法でのアクティビティの使用法のバリエーションを増やす。 &lt;スポーツ(ポッチャ)&gt;机上作業以外の作業分析について学ぶ &lt;作業の教え合い&gt; 臨床での患者への教示を想定し、学生間で学びを深める &lt;革細工&gt;革細工の基本的な技法（スタンピングなど）の習得。作品を制作し革の特性を知りリハビリへの応用と理解を深める &lt;陶芸&gt;土練り・電動ろくろ・手びねりの技法を学び、器を制作する</p>					
学習到達目標					
知識・理解	①各作業の材料の用途について正確に説明できる。<DP1> ②各作業の道具の用途について正確に説明できる。<DP1> ③作業時の注意点を説明できる。<DP1>				
思考・判断 ・表現					
技能	④各作業の材料の正確に使用できる。<DP1> ⑤各作業の道具を正確に使用できる。<DP1> ⑥作業時の注意点に基づき作業ができる。<DP1>				
関心・意欲 ・態度	⑦各作業を自身の作業として行い、利用できるアクティビティのバリエーションを増やすとともに、臨床での応用を考えることができる。<DP2,3 >				
授業形態					
実習	<籐細工>講義を交えながら実習 <スポーツ(ポッチャ)>講義を交えながら実習 <作業の教え合い>講義を交えながら実習 <革細工>講義を交えながら実習 <陶芸>講義を交えながら実習				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1～2	松田	<籐細工> 道具、材料の特性について学ぶ 作品づくりの用途を構想する	講義：籐の特性、籐を扱う道具、組み立ての工程、治療としての応用について講義する。		
3～8	松田	<籐細工> 籐細工の基本的な作成の仕方を学習 し、自身の作品に応用する	実習：用途に応じた籐細工の作成を製作する。		
9～10	松田	作業の教え合い：準備	自身の得意な作業、経験のある作業を他の学生に教示するため、必要な物品や工程、援助 の仕方について計画を立てる。		
11～16	松田	作業の教え合い	自身の得意な作業、経験のある作業を他の学生に教示する。教示を受けた学生は教示内容 について「作業時間」「作業内容」「作業工程の自由度」「作業工程の段階付け」「作業 の教示の仕方」について評価する。		
17～18	松田	<スポーツ(ポッチャ)>	実際にポッチャを行う。机上作業以外の作業についてその段階づけや自由度、作業分析に ついて考察する。		
19	森下	革素材の基礎を学ぶ	素材の特性、可塑性などの特性を知る 革の花の制作		
20	森下	スタンピング、拭き染め	基本的技法の習得1 コインケースの制作		

21	森下	金具付け・かがり・仕上げ	革細工の仕上げの習得 コインケースの制作
22	森下	カービング、アンティーク染め	基本的技法の習得2 キーケースの制作
23	森下	金具付け・仕上げ	色々な金具の使用 キーケースの制作
24	森下	まとめ、技法の応用	小物の制作 可塑性だけで作れる革の動物を製作し素材の応用を学ぶ
25	後藤	土練り	原土を知り土づくりの工程を理解する
26	後藤	電動ろくろ	電動ろくろを使って器を作る
27	後藤	手びねり	手びねりの技法を使って器を作る
28	後藤	釉薬	釉薬の性質について学ぶ
29	後藤	窯、焼成	窯や焼成について学ぶ
30	後藤	まとめ	これまでの実技の復習

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
		筆記試験	●				80	①②③
		レポート	●		●	●	10	①②③④⑤⑥⑦
		参加貢献度			●	●	10	④⑤⑥⑦

評価の 特記事項	<p>(籐細工、ポッチャ) 授業への参加貢献度(授業の振り返り、質問等を含む) (10%) 作業の教え合い評価 (10%)、筆記試験 (20%)  ※授業の振り返りが未提出の場合、参加貢献度を減点します。作業の教え合い評価も未提出の場合未提出者の評価得点を減点します。  (革細工)制作物の完成度(技能の習熟度)・授業態度・試験(革細工の知識の確認)の総合点(30%)  (陶芸)作品の完成度、授業態度、試験の総合点(30%)  すべての評価方法を合計し、基準点に満たない場合は再試験を行います。</p>
-------------	--

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

(籐細工) 予習: 籐細工で作製するものの用途を考えておく。次回授業時までに作業工程を確認してください。(1回講義につき30分程度)  
(革細工) 予習: 特にありません。復習: 教科書を読み返し、道具や技法、材料の名前を再確認してください。(30分程度)  
(陶芸) 事前に何をやるか指定した場合は、そのデザインを考えておいてください(1時間程度)

課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法

(籐細工、スポーツ) 籐細工に関しては授業貢献度、作業の教え合い評価、筆記試験で成績を判定します。実習は紙細工に変更して発表会の後、作品は返却します。  
(革細工) ペーパーテスト実施します。教科書持ち込み可。全問記入が採点条件(採点時に間違ったか所を指摘し返却します。)  
(陶芸) ペーパーテストを実施します。作品は焼成後返却します。

教科書

(籐細工、スポーツ) 授業中にプリントを配布する  
(革細工) 「はじめての革モノづくり」 森下雅代著 美術出版社  
(陶芸) 授業で資料を配布します

参考図書

授業の中で紹介する

備考：履修者への要望

(籐細工) これまでに籐細工を行ったことがない方がほとんどかと思えます。初めて行う作業に対する自身の感情や感覚を忘れないでください。  
(スポーツ) スポーツは得意な人も苦手な人もいますが、身体を動かすことでの気分の変化や感覚を分析しましょう。  
作業をすることの意味や治療として用いることの意味を説明できるセラピストになってください。  
(革細工) 綿100%の布 (10cm角程度) 20枚、新聞紙の用意。染料で手が汚れるのが嫌な学生はゴムの手袋 (薄いもの) を持参の事。  
(陶芸) 技法に沿って制作を行い、道具の名称、持ち方、使い方などを理解する。



授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
作業療法評価法	リハビリテーション学科 作業療法専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
清水 一輝					
実務経験のある教員					
清水一輝：作業療法士として勤務し、身体障害領域・老年期障害領域の作業療法の経験を有する教員が、作業療法評価の概要について講義する					
授業概要					
<p>本科目では、作業療法のプロセス（情報収集、評価、問題点と利点の抽出、目標の設定、治療計画の立案、再評価、効果判定）と作業療法評価の意義目的について説明できることを目的に、主に講義形式で実施する。          記録や報告の意義についても学修し、作業療法の診療録についての基本的な知識を習得する。身体障害・精神障害・老年期・発達の各領域に共通する作業療法評価の基礎について学び、各領域特有の評価についても学ぶ。さらに、身体障害作業療法実習で実施する、バイタルサイン、関節可動域測定、徒手筋力検査法の各検査測定の手順や目的について学ぶ。</p>					
学習到達目標					
知識・理解	①作業の特性を踏まえて作業療法の評価について論じることができる (DP1) ②作業療法の実践過程 (OTPF) について説明できる (DP1) ③作業プロフィールとその評価方法について説明できる (DP1) ④作業療法の領域を列挙することができる (DP1) ⑤作業機能障害について説明できる (DP1) ⑥身体機能、精神機能、発達過程、高齢期機能それぞれの評価の特徴について比較して説明できる (DP1) ⑦作業療法における目標設定の意義や方法について説明できる (DP1) ⑧面接評価の目的や方法について説明できる (DP1) ⑨COPM、ADOCの目的や実施方法を比較し説明できる (DP1) ⑩観察評価の目的や方法について説明できる (DP1)				
思考・判断・表現	⑪講義ノートで学びを整理し、理解できた内容や疑問点について説明できる (DP1, 2, 5)				
技能	⑫作業療法、作業療法評価についてスライド等を用いて他者に伝えることができる (DP2, 3)				
関心・意欲・態度	⑬グループワークに積極的に参加し、講義の理解を深めるような議論ができる (DP2, 3, 5, 6)				
授業形態					
講義	教科書、配布資料による講義を主に行う。評価の演習やグループでの学習、小テスト、コメントシートを利用する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	清水	作業療法評価とは	授業の進め方、評価基準に関するオリエンテーション 「評価」「作業」の意味を知り、作業療法における評価とは何かを学ぶ 教科書p3-7		
2	清水	作業療法の実践過程について	作業療法の実践の枠組みである、OTPFについて学ぶ		
3	清水	作業プロフィール評価	作業プロフィールの評価について学び模擬実践を通して理解を深める		
4	清水	作業療法の領域について	作業療法士が評価するべき領域とその側面について学ぶ		
5	清水	作業機能障害について	作業機能障害（作業疎外、作業剥奪、作業不均衡、作業周縁化）について学び、具体例を通して理解を深める		
6	清水	各領域の評価の特徴	身体障害、精神障害、老年期障害、発達障害それぞれの領域の特徴を知り、共通点とその違いを理解する		

7	清水	作業療法における面接とは	面接の目的や面接時の環境への配慮、非言語的コミュニケーションについて学ぶ
8	清水	COPM、ADOCについて	面接の手段であるCOPM、ADOCについて学ぶ
9	清水	作業療法における観察とは	観察の目的や観察のバイアスについて学ぶ
10	清水	目標設定について	作業療法における目標設定の意義、目標設定の手順について学ぶ
11	清水	作業療法評価について①：グループ 討論	作業療法についてグループで議論しながら理解を深める
12	清水	作業療法評価について②：資料収集	作業療法について説明するための資料（文献や書籍など）を収集する
13	清水	作業療法評価について③：知識の統 合	作業療法についての知識を整理し統合する
14	清水	作業療法評価について④：発表準備	作業療法について発表するための資料作成等を行う
15	清水	作業療法評価について⑤：グループ 発表と意見交換	作業療法についてグループごとに発表し議論する

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	筆記試験	●				70	①②③④⑤⑥⑦ ⑧⑨⑩
	グループ発表			●	●	10	⑫⑬
	ポートフォリオ	●	●		●	20	①②③④⑤⑥⑦ ⑧⑨⑩⑪⑬

評価の 特記事項	すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施する。 グループ発表、ポートフォリオはそれぞれルーブリックを用いて評価する。 ポートフォリオには毎回の講義資料、課題、文献、自己学習の記録など講義に関連する全ての資料を含める。
-------------	--

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に教科書の該当箇所を学習する（1時間程度）  
講義の中で取り組んだ課題について復習しながら疑問点を整理・学習し、ポートフォリオにまとめる（1時間）

課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法

筆記試験結果は研究室内で内容を確認できます。発表、ポートフォリオの評価基準は事前に通知します。

教科書

「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3班」 能登真一、山口昇 他 編 医学書院

参考図書

「作業療法学全書」第2巻 「基礎作業学」 澤田雄二編 協同医書出版社 その他、授業中に適宜資料を配布します

備考：履修者への要望

皆さんが目指す作業療法士は、常に自己研鑽が必要です。この講義の中で、知識を与えられるだけでなく、自ら学ぶ姿勢が身につけられるようにグループでの学習や小テスト、講義ノートのまとめに取り組んでください。

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
作業療法評価法実習Ⅰ		リハビリテーション学科 作業療法専攻	1学年	必修	1単位	45時間
担当教員名						
渡邊 豊明、加藤 真夕美、清水 一輝、外倉 由之、松田 裕美						
実務経験のある教員						
<p>渡邊 豊明：医療機関、介護老人保健施設、通所介護事業所において作業療法士として勤務し、身体障害領域の作業療法の経験を有する。  加藤真夕美：医療機関、介護老人保健施設、保健センター、通所介護事業所において作業療法士として勤務し、身体障害領域の作業療法の経験を有する。  清水一輝：医療機関、介護老人保健施設、通所リハビリテーション事業所において作業療法士として勤務し、身体障害領域の作業療法の経験を有する。  外倉 由之：医療機関、介護老人保健施設、通所介護事業所において作業療法士として勤務し、身体障害領域の作業療法の経験を有する。  上記の教員が作業療法に必要な評価法の実技指導を行う。</p>						
授業概要						
<p>本科目では、実習を行うことにより、作業療法で用いられる基本的な評価技術の習得を目的とする。身体障害領域で主に用いられる、バイタルサイン、関節可動域、筋力などの実施方法、記録方法とその結果の解釈の仕方について実習を通して身につける。それに加え、骨・関節・筋等の器官を体表から触察し、触察技術を学ぶ。また触察技術が作業療法場面でどのように用いられるのかについて理解を深める。</p>						
学習到達目標						
知識・理解	①検査の目的、手順、注意点を説明できる。(DP1) ②骨指標の名称、触察可能な部位を説明できる。(DP1) ③筋の起始、停止、神経支配、作用について説明できる。(DP1)					
思考・判断 ・表現	④状況に応じて、姿勢を修正することができる。(DP1)					
技能	⑤検査を、正確・迅速・丁寧に実施できる。(DP1) ⑥決められた形式で、検査結果を記録できる。(DP1) ⑦対象者に対して不快にならない触察を実施できる。(DP1, 3, 4) ⑧視診・触察した筋や骨を皮膚に投影することができる。(DP1)					
関心・意欲 ・態度	⑨大きく明瞭な声で検査の目的や内容を説明することができる。(DP1) ⑩明るく、柔らかい表情で対応することができる。(DP1)					
授業形態						
実習	実習では、動画撮影によるフィードバック、グループディスカッションによる討議などを用いて進めて行く。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	清水・外倉	作業療法における触察とは 肩甲骨周囲の筋	触察技術の基本用語を理解する。以下の部位の触察を行う。 鎖骨、肩甲骨、烏口突起、肩峰、三角筋、大円筋			
2	清水・外倉	上腕部の筋	以下の部位の触察を行う。 大結節、小結節、上腕二頭筋、烏口腕筋、大胸筋、上腕三頭筋			
3	清水・外倉	前腕の筋①	以下の部位の触察を行う。 内側上顆、外側上顆、円回内筋、橈側手根屈筋、腕橈骨筋、尺側手根屈筋			
4	清水・外倉	前腕の筋②、手の筋	以下の部位の触察を行う。 手根骨、中手骨、長短橈側手根伸筋、尺側手根伸筋、総指伸筋、短母指外転筋、短母指屈筋			
5	清水・外倉	体幹の筋	以下の部位の触察を行う。 脊柱(棘突起)、腸骨稜(上後腸骨棘)、僧帽筋、菱形筋、広背筋、肩甲挙筋			
6	清水・外倉	大腿部の筋	以下の部位の触察を行う。 上前腸骨棘、大転子、大殿筋、中臀筋、大腿直筋、大腿筋膜張筋			
7	清水・外倉	下肢の筋	以下の部位の触察を行う。 坐骨結節、内側・外側上顆、大腿二頭筋、半腱/半膜様筋、前脛骨筋、下腿三頭筋			

8	渡邊・加藤	バイタルサインの測定	脈拍、血圧、呼吸の測定を実施：教科書①pp56-58					
9	渡邊・加藤	関節可動域測定 (ROM) 上肢①	肩甲帯、肩の可動域測定：教科書①pp82-83					
10	渡邊・加藤	可動域測定 (ROM) 上肢②	肘、前腕、手、手指の可動域測定：教科書①pp83-84					
11	渡邊・加藤	関節可動域測定 (ROM) 下肢①	股、膝の可動域測定：教科書①pp84-85					
12	渡邊・加藤	関節可動域測定 (ROM) 下肢②	足、足部の可動域測定：教科書①pp85-86					
13	渡邊・加藤	関節可動域測定 (ROM) 体幹	頸部、胸腰部、その他の検査法：教科書①pp86-88					
14	渡邊・加藤	関節可動域測定 (ROM) まとめ	検査の目的説明から検査の実施、記録までの基本実践。体位をできるだけ変えない応用実践。：教科書①pp72-95					
15	渡邊・加藤	徒手筋力検査 (MMT) 上肢①	肩甲骨外転と上方回旋、挙上、内転、下制と内転、内転と下方回旋、下制：教科書②pp82-108					
16	渡邊・加藤	徒手筋力検査 (MMT) 上肢②	肩関節屈曲、伸展、外転、水平外転、水平内転、外旋、内旋：教科書②pp109-139					
17	渡邊・加藤	徒手筋力検査 (MMT) 上肢③	肘関節屈曲、伸展、前腕回外、回内、手関節屈曲、伸展：教科書②pp140-166					
18	渡邊・加藤	徒手筋力検査 (MMT) 手指	指の中手指節 (MP) 関節屈曲～対立運動 (母指を小指へ)：教科書②pp167-203					
19	渡邊・加藤	徒手筋力検査 (MMT) 下肢①	股関節屈曲、屈曲・外転および膝関節屈曲位での外旋、伸展、外転、屈曲位からの外転、内転：教科書②pp206-234					
20	渡邊・加藤	徒手筋力検査 (MMT) 下肢②	股関節外旋、内旋、膝関節屈曲、伸展、足関節底屈、背屈ならびに内がえし、足の内がえし、足の背屈位を伴う外がえし：教科書②pp235-269					
21	渡邊・加藤	徒手筋力検査 (MMT) 頭・頸部、体幹	頭部伸展～体幹回旋：教科書②pp22-65					
22	渡邊・加藤	徒手筋力検査 (MMT) まとめ	検査の目的説明から検査の実施、記録までの基本実践。体位をできるだけ変えない応用実践。：教科書②pp22-269					
23	渡邊・加藤・清水・松田	総括 (まとめ)	各検査の臨床応用と注意点、まとめ					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	実技試験		●	●	●	●	70	①④⑤⑥⑨⑩
	小テスト：触察技術		●				10	②③
	実技試験：触察技術		●		●		20	②③⑦⑧
評価の 特記事項	ROM、MMTの実技試験は事前にルーブリックを提示し、合格点はそれぞれ8割以上とする。合格点に達しない場合は、再試験を実施する。触察技術については毎回の小テストと実技試験を実施する。実技試験の合格点は6割とする。合格点に達しない場合は再試験を実施する。なお、触察技術のための基礎知識として事前課題の提出期限が守れない場合は実技試験得点から5点を減点する。							

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>予習：ROMは、教科書①にて基本軸、移動軸、注意点を事前学習（1時間）、MMTは、教科書②にて筋の起始、停止、神経支配、作用を事前学習（1時間）          触察技術については、解剖学実習の時間に書いた骨デッサンを見直し、骨の部分名称を再確認する。また筋の起始や停止、作用、神経支配を覚える（1時間）          復習：実技の定着を深めるため、復習（1時間）</p>
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法
<p>実技試験は、試験終了時に即時フィードバックを実施する。</p>
教科書
<p>①「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学」第3版 能登真一他 編 医学書院（2017年）          ②「新・徒手筋力検査法」原著第10版 津山直一他 訳 協同医書出版社（2014年）          ③「骨格筋の形と触察法」改訂第2版 河上 敬介他 編 大峰閣（2013）</p>
参考図書
<p>特になし</p>
備考：履修者への要望
<p>筋の触診、視診、可動域を正確に測定するために、半袖、半ズボンの服装で授業の受講を望みます。          触察技術では指定の水着で受講して頂きます。学生同士でお互いの皮膚に直接触れることになるため、手指は清潔な状態を保つよう心掛けてください。</p>

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
作業療法評価法実習Ⅱ	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	45時間
担当教員名					
横山 剛、松田 裕美					
実務経験のある教員					
横山 剛・松田 裕美：医療機関で作業療法士として勤務経験のある教員の指導のもと、作業療法評価の中の面接を実施できるようになることを目標に、教員が演じる面接の風景から考察することを教授する。					
授業概要					
本科目は、作業療法評価として必要な情報にはどんなものがあるか、また評価はどのように進めていくのかなどについて、面接を中心に実施し、部分的に実際に他者を評価し、スーパーバイズを受けながら探索していく実習形式を主体に進める。 カール・ロジャースのカウンセリング技法から共感的理解、自己一致、無条件の肯定的関心について学んでいく。					
学習到達目標					
知識・理解	①ICFに照らして他者理解のため必要な情報を説明できる。＜DP1,2＞ ②必要な情報を得るための方法を説明できる。＜DP1＞				
思考・判断 ・表現	③自身が他者の何を理解しようとしているか説明できる。＜DP1,2＞				
技能					
関心・意欲 ・態度	④得られた情報を作業療法の視点から解釈することができる。＜DP2,3＞				
授業形態					
実習	講義・実習 講義をして実習をする形で行う。教員の面接の風景を見て考察してみる。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	横山	作業療法の評価プロセス	評価プロセスを確認する		
2	横山	作業療法の評価とは？	評価の意味を確認する		
3	横山	コミュニケーションと作業療法	コミュニケーションの種類		
4	横山	対話について	患者との実際のやり取りから対話について考える		
5	横山・松田	絵描き歌の演習	音声情報でどこまでわかるか体験する		
6	横山・松田	面接について	質問の仕方の工夫、ジョハリの窓		
7	横山・松田	面接について	情報の変容の演習（伝言ゲーム）		
8	横山・松田	面接について	情報の変容の演習（伝言ゲーム）		
9	横山・松田	面接について	心理療法		

10	横山・松田	面接について	カウンセリング（共感的理解、自己一致、無条件の肯定的関心について）
11	横山・松田	面接実習	作業療法評価プロセスにおけるポイント
12	横山・松田	面接実習	対話録の説明
13	横山・松田	面接実習	教員が演じる面接風景を観察する
14	横山・松田	面接実習	結果をまとめる
15～22	横山・松田	面接実習	教員からのフィードバック
23	横山・松田	ペア学生の分かち合い	評価した内容についてペア学生が分かち合いの作業をする

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	評価方法						
	レポート	●	●		●	70	①②③④
	参加貢献度				●	30	④

評価の特記事項	レポート（70％）、参加態度・貢献度（30％）で評価する。基準点（60点）に満たない場合は、個別にレポートの指導をします。
---------	---

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・配布プリントから面接の特徴について考える。（30分程度）
- ・教員の演じる面接の風景から考察する。（1時間程度）

課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法

授業の振り返りの内容について次回授業時にフィードバックする。

教科書

授業中にプリントを配布する。

参考図書

適宜紹介する。

備考：履修者への要望

本授業は、知識を暗記するための授業ではなく、作業療法の評価とはどんなものであるのかを自ら疑問を持ち探求していく授業である。つまり、主体的な実習参加が求められる。この授業で疑問や感想を多く持つことで、作業療法専門科目の授業をより意欲的に受けられるようになって欲しいと願う。自身の確かな学習の感覚を養って欲しい。

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
身体障害作業評価学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
加藤 真夕美					
実務経験のある教員					
加藤真夕美：医療機関、介護老人保健施設、保健センター、通所介護事業所において作業療法士として勤務し、身体障害領域の作業療法の経験を有する教員が、身体障害領域で主に用いられる評価の基礎知識についての講義を行う。					
授業概要					
本科目は、身体障害領域において主に対象とする心身機能・身体構造の分類、障害の種類、障害の神経学的解釈の仕方、代表的な評価方法についての知識を修得することを目的とする。授業は講義形式で実施し、バイタルサイン、意識レベル、機能形態計測、関節可動域、筋力、反射、筋緊張、知覚、協調性、バランス、上肢機能などを講義の範囲とする。また、身体障害領域の作業療法に必要な医用画像評価の基礎知識についても学習する。					
学習到達目標					
知識・理解	①身体障害領域における評価の意義を説明できる。(DP1) ②各心身機能/身体構造の分類・障害の種類を挙げ、説明することができる。(DP1) ③各心身機能/身体構造、および活動/参加に対する代表的な評価方法を挙げることができる。(DP1) ④作業療法に必要な医用画像の種類や特性、および画像の評価方法を説明することができる。(DP1)				
思考・判断 ・表現	⑤各心身機能/身体構造を作業療法士が評価することの意義を説明することができる。(DP1,5) ⑥各心身機能/身体構造の障害によって活動/参加にどのような影響が生じるのかを、各自の生活に照らし合わせて考察できる。(DP1,5)				
技能					
関心・意欲 ・態度	⑦提出物を、期限内に遅れることなく、また内容が不足することなく確実に提出することができる。(DP3)				
授業形態					
講義	資料を用いた知識伝達型の講義を中心に、アクティブラーニング（復習課題・小テスト・ポートフォリオ）を組み合わせで行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	加藤	オリエンテーション	主な対象疾患、病期、作業療法評価の意義と視点など、身体障害領域作業療法の概要を学ぶ。(第1章)		
2	加藤	生理機能の評価 摂食・嚥下機能、排泄機能の評価	生理機能および摂食・嚥下機能、排泄機能に関する基礎知識とその障害の種類や評価法について学ぶ。また、それらをOTが評価することの意義を学ぶ。(第2章－II, XII, X III)		
3	加藤	骨・関節の機能と構造の評価	骨・関節の機能と構造について、その障害の種類や評価法について学ぶ。また、それらをOTが評価することの意義を学ぶ。(第2章－III, IV)		
4	加藤	筋の機能と構造の評価	筋の機能と構造について、その障害の種類や評価法について学ぶ。また、それらをOTが評価することの意義を学ぶ。(第2章－V)		
5	加藤	知覚機能の評価①	上行性伝導路と知覚機能の関連を、解剖学の復習を通して学ぶ。(第2章－VI)		
6	加藤	知覚機能の評価②	体性知覚・特殊知覚に関する基礎知識とその障害の種類や評価法について学ぶ。また、それらをOTが評価することの意義を学ぶ。(第2章－VI, XI)		
7	加藤	運動機能の評価①	下行性伝導路と運動機能の関連を、解剖学の復習を通して学ぶ。(第2章－VII, IX)		
8	加藤	運動機能の評価②	筋緊張・反射機能に関する基礎知識とその障害の種類や評価法について学ぶ。また、それらをOTが評価することの意義を学ぶ。(第2章－VII, IX)		



9	加藤	運動機能の評価③	運動麻痺に関する基礎知識とその障害の種類や評価法について学ぶ。また、それらをOTが評価することの意義を学ぶ。(第3章-I)
10	加藤	運動機能の評価④	協調性・不随意運動に関する基礎知識とその障害の種類や評価法について学ぶ。また、それらをOTが評価することの意義を学ぶ。(第2章-IX~X)
11	加藤	運動機能の評価⑤ 上肢操作性の評価	姿勢反射、バランス、上肢操作性に関する基礎知識とその障害の種類や評価法について学ぶ。また、それらをOTが評価することの意義を学ぶ。(第2章-VIII, XIV)
12	加藤	発話・構音機能の評価 精神機能の評価	発話・構音機能および精神機能に関する基礎知識とその障害の種類や評価法について学ぶ。また、それらをOTが評価することの意義を学ぶ。(第3章)
13	加藤	医用画像評価の基礎知識①	作業療法実践において必要なX線、MRI、CTなどの画像の基礎知識について学ぶ。
14	加藤	医用画像評価の基礎知識②	脳や運動器の正常画像の読み取り方や作業療法実践での活用方法について学ぶ。
15	加藤	総括	これまでの復習とまとめを行う。

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●	●			70	①②③④⑤⑥
	小テスト		●				10	①②③④
	レポート		●	●		●	10	①②③④⑤⑥⑦
	ポートフォリオ					●	10	⑦

評価の特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>再試験は、筆記試験得点が6割未満の場合に実施する。</li> <li>筆記試験得点が6割以上かつ、すべてのレポートとポートフォリオが提出された場合に、単位を認定する。</li> <li>小テストがある日に欠席した場合には、その分の小テスト得点は、未受験として零点とする。</li> <li>レポート、ポートフォリオは、課題ごとに評点を定めたルーブリックを用いて評価する。評点は課題ごとに提示する。</li> <li>レポート、ポートフォリオは、提出の遅滞や内容の不足があった場合に減点する。内容によっては再提出を求める。</li> </ul>
---------	--

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 各単元の終わりに配布されたレポート課題（次回の予習と当日の復習）を自宅で回答してする。レポートは次回の授業中に回収する（各回50分）
- このレポート課題をもとに、毎回小テストを行う。
- 授業での配布資料やレポートを整理し、ポートフォリオを作成する（各回10分）。

課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法

- レポートは、コメントを記入するなどしてフィードバックする。
- 筆記試験は、答案を返却する。答案を取りに来た学生に対し、個別に口頭でフィードバックを行う。

教科書

「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版」 岩崎テル子 他編 医学書院  
「ベッドサイドの神経の診かた」 田崎義昭 他著 南山堂

参考図書

随時紹介する。

備考：履修者への要望

1年次に学ぶすべての専門基礎科目及び基礎科目と密接に関わってきます。また2年次に学ぶ専門科目の基盤となる科目です。どのテキストを調べれば必要な知識が得られるか、などといった情報の整理を随時しておいてください。

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
精神障害作業評価学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
横山 剛					
実務経験のある教員					
横山 剛：医療機関で作業療法士として勤務経験のある教員が、精神障害領域における作業療法評価を実践できることを目標に精神障害作業療法の歴史や実際の方法について講義し、学生自身が評価計画を作成する科目である。					
授業概要					
精神障害領域の作業療法は、障害を持つ人の精神・心理機能（特に認知の障害）について理解していることが必要である。更に精神障害を持つ人の「生きにくさ」について理解することが必要である。本科目は、評価方法としての面接、観察を中心に、各種検査を含めて講義形式で学習する。その上で、代表的な精神疾患の作業療法評価計画の立案を模擬的に行う。					
学習到達目標					
知識・理解	①精神科領域の評価のタイプを説明できる。＜DP1＞ ②精神科領域の評価の方法の長所・短所を説明できる。＜DP1＞ ③精神科領域の評価の使用上の注意点を説明できる。＜DP1＞				
思考・判断 ・表現	④ペーパーペイシエントの評価計画を立案できる。＜DP1＞				
技能					
関心・意欲 ・態度	⑤精神科領域に関心を持てる＜DP6＞				
授業形態					
講義	講義、グループディスカッション、グループディスカッション後のプレゼンテーション				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	横山	精神障害作業療法の概要1	精神医療の歴史		
2～3	横山	精神障害作業療法の概要2,3	映画を鑑賞し精神科臨床のイメージを作る		
4	横山	作業療法の実際1	精神の障害とは？ 障害の捉え方		
5	横山	作業療法の実際2	生活の考え方（自立と自律）、生きにくさ		
6	横山	作業療法の実際3	障害者援助の考え方。関わり方の工夫		
7～9	横山	作業療法の実際4～6	評価方法1～3		
10～15	横山	症例の評価計画を立案する1～6	1：回復状態の考え方 2：目的に見合った評価項目の選択 3：評価方法の選択 4：評価実施上の留意点 5：評価順序の組み立て 6：まとめ		

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	筆記試験	●	●			●	60
質問表	●					20	①②③
参加貢献度					●	20	⑤
評価の 特記事項	筆記試験（60%）、質問表の内容（20%）、参加貢献度（20%）で評価する。60点の未満の場合は、再試験を行います。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
授業初回時に資料を配布するので、それを元に予習・復習に努めてください（1回につき1～2時間）。							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
質問表、筆記試験に関して希望者には随時フィードバックします。							
教科書							
精神障害と作業療法 山根 寛 著 三輪書店 その他配布プリント							
参考図書							
授業内で紹介します。							
備考：履修者への要望							
精神という目には見えないものを取り扱う領域であるので、自身の他者への影響を考慮して行動してください。毎回質問表を使用するので、身の確かな学習の感覚を養って欲しいです。質問がない、質問できない、ということがないように、質の高い質問ができるようになって欲しいと思います。							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
発達障害作業評価学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
小山 隆幸					
実務経験のある教員					
授業概要					
発達障害領域における作業評価では、成長と成熟からなる発達過程を学ぶことにより、子供たちの発達について、感覚運動側面、知覚・認知的側面から知る事を目指します。本講義では、運動機能、感覚機能、心理・社会機能それぞれの発達段階の変化について学びます。また、運動機能、感覚機能、心理・社会機能の相互の関係性について学びます。さらに、作業療法士が発達障害領域で用いる評価法について学習します。					
学習到達目標					
知識・理解	①本講義の概要について理解し、発達障害領域の作業療法評価について基本的事項を説明できる (DP1) ②運動機能、感覚機能、上肢機能、ADL、コミュニケーション能力の発達の評価治療的見方について説明できる (DP1) ③心理・社会機能がどのように獲得され、発達していくのか説明できる (DP1)				
思考・判断 ・表現	④機能がどのように獲得され、発達していくか分析評価できる (DP6)				
技能	⑤『発達障害作業治療学実習』で関わるお子さん達と楽しく積極的にかかわる技能を習得できる (DP5、DP6)				
関心・意欲 ・態度	⑥『発達障害作業治療学実習』で関わるお子さん達と楽しく積極的にかかわる態度を身につけることができる (DP5、DP6)				
授業形態					
講義	スライド及びVTRを用いた講義を中心とする。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	小山	発達障害評価学とは	本講義の概要について理解し発達障害領域の作業療法評価について基本的事項を学ぶ。P1～		
2	小山	発達障害評価学とは	本講義の概要について理解し発達障害領域の作業療法評価について基本的事項を学ぶ。P13～		
3	小山	粗大運動機能の発達	粗大運動について学ぶ。P39～		
4	小山	粗大運動機能の発達	各疾患別に粗大運動に着目して評価法を学ぶ。P63～		
5	小山	感覚機能の発達	感覚運動理論に基づき感覚機能がどのように発達し統合されるかについて学ぶ。P52～		
6	小山	感覚機能の発達	各疾患別に感覚運動理論に基づき感覚機能に着目して評価法を学ぶ。P63～		
7	小山	上肢機能の発達	上肢機能がどのように獲得され、発達していくのかについて学ぶ。P53～		
8	小山	上肢機能の発達	各疾患別に上肢機能の発達に着目して評価法を学ぶ。P63～		
9	小山	ADL・コミュニケーションの発達	ADLやコミュニケーション能力がどのように発達していくのかについて学ぶ。P56～		

10	小山	ADL・コミュニケーションの発達	各疾患別にADLやコミュニケーションに着目して評価法を学ぶ。P63～					
11	小山	口腔機能の発達	口腔機能がどのように獲得され、発達していくのかについて学ぶ。P57～					
12	小山	口腔機能の発達	各疾患別に口腔機能の発達に着目して評価法を学ぶ。P63～					
13	小山	心理・社会機能の発達	心理・社会機能の相互関係について学ぶ。P29～					
14	小山	心理・社会機能の発達	各疾患別に心理・社会機能に着目して評価法を学ぶ。P63～					
15	小山	評価法	評価法について学ぶ。P63～					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●	●			75	①②③④
	小テスト		●	●			15	①②③④
	参加貢献度				●	●	10	⑤⑥
評価の特記事項		筆記試験成績が6割以下のものは再試験を受けること。毎回授業の初めには、先回授業に関する小テストを実施します。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
既に学んだ『人間発達学』の内容を復習して下さい。（復習）他の回で学んだ内容との関連性などを考察しながら学習をして下さい。（約15分～）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
解答例の提示、個別面談及びコメント、小テストは次回返却する。								
教科書								
「イラストでわかる発達障害の作業療法」上杉雅之監 辛島千恵子編 医歯薬出版								
参考図書								
必要に応じて参考書を提示します。								
備考：履修者への要望								
講義を通じて、障がいのあるお子さんのイメージを持つ事ができるが重要になります。評価の観察するポイントや症状の特徴を理解できるようにしましょう。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
作業療法研究法	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
横山 剛、加藤 真夕美、渡邊 豊明、清水 一輝、松田 裕美、廣渡 洋史、外倉 由之					
実務経験のある教員					
加藤 真夕美、横山 剛、渡邊 豊明、清水 一輝 以上の教員は、医療機関や福祉施設などで作業療法士として勤務した経験を有する。					
授業概要					
臨床・研究・教育は三位一体を成すものである。疑問から始まり研究を実施できる基本的な知識を習得する。					
学習到達目標					
知識・理解	①研究の流れを理解する(DP3) ②研究計画書を理解する(DP1) ③統計処理の基礎を理解する(DP3)				
思考・判断 ・表現	④文献検索の方法を知り、興味ある文献を収集することができる(DP3) ⑤研究疑問より研究計画へ反映させることができる(DP5)				
技能	⑥文献検索を実際に行うことができる(DP3) ⑦発表の方法を理解して実践できる(DP1・DP3)				
関心・意欲 ・態度	⑧研究倫理と管理の責任を理解して実行することができる(DP1・DP3)				
授業形態					
講義	テキストに沿って授業を進めますが、適宜グループワークも行う。テキスト以外にもプリント配布やスライドの講義形式をとります。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	廣渡	研究	研究の意義、研究者の心構えについて学ぶ。		
2	廣渡	作業療法と研究	医学モデルと今後の作業療法研究の流れについて学ぶ。		
3	廣渡	研究疑問と研究の様式	研究疑問とは何か、また、研究様式の分類を理解する。		
4	廣渡	研究の流れ	研究疑問の設定と文献レビューの概要を学び、研究計画の作成方法を知る。		
5	廣渡	研究倫理と管理	倫理的意義と責任を学び、管理的義務を学ぶ。研究助成金について知る。		
6	廣渡	文献レビュー	文献の探し方、読み方、レビューの書き方を学ぶ。		
7	廣渡	文献的研究および倫理的研究	総説、メタ・アナリシス、理論の開発について学ぶ。		
8	廣渡	調査研究	調査研究における調査の分類、手順、方法を学ぶ。		
9	廣渡	実験的研究	実験的研究の特徴、デザインの種類、統計的仮説検定の方法を知る。		

10	廣渡	論文探求	興味ある論文を検索して入手し、論文抄録ノートを記載する。					
11	廣渡	統計	基本的な統計手法を学ぶ。					
12	廣渡	研究発表	研究発表に必要なスキルを学ぶ。					
13	廣渡・横山・加藤 渡邊 清水・松田 外倉	教員研究紹介①	廣渡・横山・加藤・渡邊 清水・松田・外倉の研究紹介と研究手法および検定方法の説明					
14	廣渡・横山・加藤 渡邊 清水・松田 外倉	教員研究紹介②	廣渡・横山・加藤・渡邊 清水・松田・外倉の研究紹介と研究手法および検定方法の説明					
15	廣渡・横山・加藤 渡邊 清水・松田 外倉	教員研究紹介③	廣渡・横山・加藤・渡邊 清水・松田・外倉の研究紹介と研究手法および検定方法の説明					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	レポート提出物		●	●	●	●	80	①②③④⑤⑥⑦ ⑧
	参加貢献度					●	20	⑧
評価の 特記事項	授業に対する参加貢献度（20%）、課題提出物（80%）評価する。課題未提出者は未修得となりますので注意してください。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
<p>（予習）図書館で気になる論文を確認しておいてください。約1時間  （復習）授業で習った点について先行文献における該当箇所を確認すること。約1時間</p>								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
提出物等は研究室に保管しているので事前に連絡の上、内容を確認することができる。								
教科書								
「作業療法士のための研究法入門」鎌倉矩子 三輪書店 1997								
参考図書								
「はじめての研究法 - コ・メディカルの研究法入門」千住秀明 神陵文庫 2003								
備考：履修者への要望								
はじめから研究に対して苦手意識を持たず、楽しく研究ができるために基本を学びましょう。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
作業治療学理論	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	15時間
担当教員名					
横山 剛					
実務経験のある教員					
授業概要					
本科目では、作業療法実践の意味と根拠を示す各種理論や関連した枠組みについて理解する。授業はテキストを用いて学修する他、興味のある理論の学習、成果発表で構成する。作業療法や作業療法に関連した各種理論や枠組みをテキストから学修する。					
学習到達目標					
知識・理解	①作業療法の様々な理論について、その特徴や見方を述べることができる。(DP1)				
思考・判断 ・表現	②作業療法における、理論の必要性と意義を説明できる。(DP2) ③理論と作業療法の実践とのつながりについて説明できる。(DP5) ④作業療法の独自性について、学んだ知識を用いて、自らの意見を述べるができる。(DP2)				
技能					
関心・意欲 ・態度	⑤グループワークにおいて、自らの役割を果たし協調することができる。(DP5)				
授業形態					
講義	講義に加えてグループワークを実施し、アクティブラーニングの形式で進める				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	横山	作業療法の理論の概観	作業療法の理論の構成およびその内容について学ぶ。(第1、3章)		
2	横山	理論と実践1	作業療法理論、実践モデルを学ぶ。(第2章) グループで理論を選択して、その内容について理解し、報告を行う準備をする。		
3	横山	理論と実践2	作業療法理論、実践モデルを学ぶ。(第2章) グループで理論を選択して、その内容について理解し、報告を行う準備をする。		
4	横山	理論と実践3	作業療法理論、実践モデルを学ぶ。(第2章) グループで理論を選択して、その内容について理解し、報告を行う準備をする。		
5	横山	理論と実践4	作業療法理論、実践モデルを学ぶ。(第2章) グループで理論を選択して、その内容について理解し、報告を行う準備をする。		
6	横山	理論と実践5	作業療法理論、実践モデルを学ぶ。(第2章) グループで理論を選択して、その内容について理解し、報告を行う準備をする。		
7	横山	理論と実践6	各理論をグループごとに発表する。		
8	横山	まとめ	授業の総括		



観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法						
	筆記試験	●	●			40	①④
	レポート		●			40	②③
	参加貢献度				●	20	⑤
評価の 特記事項	再試験は筆記試験・レポート・参加貢献度の合計点が6割に満たない場合実施する。 再試験は筆記試験のみ行い、その際レポート・参加貢献度の点をそのまま加点する。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
予習：教科書の該当箇所をよく読み理解を深めてください。講義で課題に出された内容については、各自でもグループでも調べて次回の講義に参加して下さい。（約1時間） 復習：授業の内容を復習し、グループ報告の後は、他のグループの報告内容の理解に勤めてください。（約1時間）							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
グループ学習の報告については講義の中でフィードバックします。筆記試験は、希望者に開示します。							
教科書							
「5W1Hでわかりやすく学べる 作業療法理論の教科書」小川真寛・他編、メジカルビュー社							
参考図書							
適宜紹介します。							
備考：履修者への要望							
作業療法の枠組みを理論的にしっかりと学び、作業の効果的な介入計画と実施、そして説明ができる作業療法士を目指しましょう。							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
作業療法治療学実習	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
渡邊 豊明、清水 一輝、横山 剛、松田 裕美、廣渡 洋史、外倉 由之					
実務経験のある教員					
渡邊 豊明、加藤 真夕美、清水 一輝、横山 剛、松田 裕美、廣渡 洋史、外倉 由之：以上の教員は、医療施設等で作業療法を实践した経験を有し、作業療法治療学実習の講義を実施する。					
授業概要					
<p>作業療法では、患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践並びに治療効果判定という一連の過程を実施する。</p> <p>本科目では、3年次の臨床実習に向け、生活行為向上マネジメントを学び、作業療法プロセスの理解を深める。さらに、客観的臨床能力試験（OSCE）の視点を導入することで、臨床で必要とされる「知識・技能・態度」を理解し、実習を通して3年次の臨床実習に必要な能力を養うことを目的とする。</p>					
学習到達目標					
知識・理解	①「療法士面接・バイタルチェック・腱反射・関節可動域測定・徒手筋力検査」を実施する際の目標と必要なポイントを述べることができる。（DP1） ②生活行為向上マネジメントの概要を述べることができる。（DP1）				
思考・判断 ・表現	③「療法士面接・バイタルチェック・腱反射・関節可動域測定・徒手筋力検査」において臨床で求められる評価項目と採点基準を説明できる。（DP5）				
技能	④「療法士面接・バイタルチェック・腱反射・関節可動域測定・徒手筋力検査」を適切に実施できる。（DP5） ⑤生活行為向上マネジメントを模擬事例に立案できる。（DP5）				
関心・意欲 ・態度	⑥臨床で必要とされる「知識・技能・態度」に対する自身の能力を知ることにより、実習までの学習計画を立て、実施し始める。（DP2）				
授業形態					
実習	講義及び実技練習やグループディスカッションなどのアクティブ・ラーニングにて授業を進める。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	渡邊	オリエンテーション 臨床実習とは	客観的臨床技能試験（OSCE）の考え方を学習する。 臨床実習Ⅲ・Ⅳを体験した3年生から実習の体験談を聞く。		
2	横山・松田	療法士面接 説明・演習	目標の確認・ポイントの説明・評価項目と採点基準を理解する。 療法士面接を学生間で行い、フィードバックを受ける。		
3	渡邊・廣渡 清水・外倉	バイタルチェック・腱反射 説明	目標の確認・ポイントの説明・評価項目と採点基準を理解する。		
4	渡邊・廣渡 清水・外倉	バイタルチェック・腱反射 演習	バイタルチェック・腱反射を学生間で行い、フィードバックを受ける。		
5	渡邊	関節可動域測定 説明	目標の確認・ポイントの説明・評価項目と採点基準を理解する。		
6	渡邊	関節可動域測定 説明	関節可動域測定を学生間で行い、フィードバックを受ける。		
7	外倉	生活行為向上マネジメント	生活行為向上マネジメントの概要を学習する。		
8	外倉	生活行為向上マネジメント ②演習	模擬事例を用いて、生活行為向上マネジメントを立案する。		
9	外倉	生活行為向上マネジメント ③発表	模擬事例に対して立案した、生活行為向上マネジメントを発表する。		

10	渡邊	徒手筋力検査 説明	目標の確認・ポイントの説明・評価項目と採点基準を理解する。					
11	渡邊	徒手筋力検査 演習	徒手筋力検査を学生間で行い、フィードバックを受ける。					
12	渡邊, 清水, 外倉	客観的臨床能力試験 (OSCE)	模擬患者に対して、上記の内容に関して「知識・技能・態度」の確認を行い、実習に向けての学習計画を立案する。					
13	外倉・清水	客観的臨床能力試験 (OSCE)	模擬患者に対して、上記の内容に関して「知識・技能・態度」の確認を行い、実習に向けての学習計画を立案する。					
14	渡邊・清水	客観的臨床能力試験 (OSCE)	模擬患者に対して、上記の内容に関して「知識・技能・態度」の確認を行い、実習に向けての学習計画を立案する。					
15	清水	客観的臨床能力試験 (OSCE)	模擬患者に対して、上記の内容に関して「知識・技能・態度」の確認を行い、実習に向けての学習計画を立案する。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	実技試験		●	●	●	●	80	①③④
	学習計画レポート					●	10	⑥
	課題レポート		●	●	●		10	②⑤
評価の特記事項		<p>実技試験はOSCEの形式で実施する。          評価は実技試験・学習計画レポート・課題レポート（生活行為向上マネジメント）の合計点で行い、6割に満たない場合、再試験を実施する。          再試験は実技試験のみ行い、その際、学習計画レポートと課題レポートの得点はそのまま加点する。</p>						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
<p>（予習）実技項目に関して、既に学習した内容を確認し、この授業に臨むようにしてください。（約1～2時間）          （復習）自身の不足点に関して、補強するようにしてください。（約1～2時間）</p>								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
<p>個々の実技項目に関して、その都度フィードバックしていきます。12～15回の実技試験では、模擬患者からもフィードバックしますので、臨床で必要とされる「知識・技能・態度」について自身の不足分を補強してください。</p>								
教科書								
PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂 才藤 栄一（監修）、金田 嘉清（編集）他 金原出版（株）（2020年）								
参考図書								
適宜紹介します。								
備考：履修者への要望								
臨床実習へ向けての具体的な準備に役立てるための授業であることを理解し、取り組んでください。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
身体障害作業治療学 I	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
渡邊 豊明、廣渡 洋史					
実務経験のある教員					
渡邊 豊明：医療機関で作業療法士として勤務経験のある教員が、身体障害領域（主に整形外科疾患）における作業療法対象疾患について、各疾患の特徴・障害像・評価法・作業療法アプローチの基礎などを講義し、作業療法士として必要な各疾患の特徴・障害像・評価法・作業療法アプローチを学ぶ科目である。					
授業概要					
本講義では、身体障害領域（主に整形外科疾患）における作業療法対象疾患について、各疾患の特徴・障害像・評価法・作業療法アプローチの基礎などを学習する。整形外科疾患の作業療法は、解剖学および運動学の基礎知識を元に展開されるものであるため、それらの復習を行いながら、各疾患の特徴・障害像・評価法・作業療法アプローチを学ぶ。					
学習到達目標					
知識・理解	①各疾患の特徴・障害像を説明できる。（DP1） ②障害像を理解したうえで、必要な評価項目を列挙することができる。（DP1）				
思考・判断 ・表現	③各疾患における作業療法アプローチについて討議できる。（DP1）				
技能					
関心・意欲 ・態度					
授業形態					
講義	講義は、クリッカーを適時使用し、双方向性の授業を展開する。授業後半には、グループワークを用いて知識を深める。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	廣渡	オリエンテーション 骨折①：疾患の特徴と障害像	本科目の進め方 骨折に関する基礎知識（病態、修復方法、治癒過程、合併症）について学習する ：教pp216-230		
2	廣渡	骨折②：骨折例に対する作業療法	骨修復後の作業療法の展開（評価とアプローチ）を学習する ：教科書pp216-230		
3	廣渡	骨折③：骨折例に対する作業療法	骨修復後の作業療法の展開（評価とアプローチ）を学習する ：教科書pp216-230		
4	廣渡	加齢性関節疾患：疾患の特徴、障害 像	加齢性関節疾患に関する基礎知識と症例に対する作業療法の展開について学習する ：教科書pp232-238		
5	廣渡	末梢神経損傷：疾患の特徴と障害 像、作業療法	末梢神経損傷に関する基礎知識と症例に対する作業療法の展開について学習する ：教科書pp261-278		
6	廣渡	末梢神経損傷：疾患の特徴と障害 像、作業療法	末梢神経損傷に関する基礎知識と症例に対する作業療法の展開について学習する ：教科書pp261-278		
7	廣渡	屈筋腱損傷：疾患の特徴と障害像、 作業療法	屈筋腱損傷に関する基礎知識と症例に対する作業療法の展開について学習する ：教科書pp279-290		
8	廣渡	屈筋腱損傷：疾患の特徴と障害像、 作業療法	屈筋腱損傷に関する基礎知識と症例に対する作業療法の展開について学習する ：教科書pp279-290		
9	廣渡	屈筋腱損傷：疾患の特徴と障害像、 作業療法	屈筋腱損傷に関する基礎知識と症例に対する作業療法の展開について学習する ：教科書pp279-290		

10	廣渡	CRPS：疾患の特徴と障害像、作業療法	CRPSの発生機序とその治療について学習する：教科書pp125、配布資料					
11	廣渡	熱傷：疾患の特徴と障害像、作業療法	熱傷に関する基礎知識と症例に対する作業療法の展開について学習する：教科書pp298-308					
12	廣渡	腱板損傷：疾患の特徴と障害像、作業療法	腱板損傷に関する基礎知識と症例に対する作業療法の展開について学習する：教科書pp291-297					
13	渡邊	脊髄損傷①：疾患の特徴と障害像	脊髄損傷に関する基礎知識（病態、治療法、合併症）について学習する					
14	渡邊	脊髄損傷②：脊髄損傷例に対する作業療法	脊髄損傷症例に対する作業療法の展開（評価とアプローチ）を学習する					
15	廣渡	関節リウマチ及び関連疾患：疾患の特徴と障害像、作業療法	関節リウマチ及び関連疾患に関する基礎知識と症例に対する作業療法の展開について学習する：教pp239-254					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（%）	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●	●			80	①②③
	小テスト		●	●			20	①②③
評価の 特記事項	適宜、授業の最初に小テストを実施する。 すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
事前学習：指定した教科書のページの予習（1時間）。 事後学習：講義後は、教科書を読み直すなどの復習（1時間）。小テストの対策（30分）。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
小テストは授業で返却する。筆記試験は研究室に保管しているので事前に連絡の上、内容を確認することができる。								
教科書								
「標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学」第3版 山口昇他 編集 医学書院 2016年								
参考図書								
「リハ実践テクニック ハンドセラピー」 齋藤慶一郎 MEDICALVIEW 2014年 「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学」第3版 能登真一他 編集 医学書院 2017年								
備考：履修者への要望								
授業中の質問、授業後のアンケートにて積極的な参加を要望する。また、分からない部分はそのままにすることなく、積極的に質問に来ること。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
身体障害作業治療学Ⅱ	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
清水 一輝					
実務経験のある教員					
清水一輝、水口和代、山田隆司：医療機関、介護老人保健施設、通所リハビリテーション事業所において作業療法士として勤務し、身体障害領域の作業療法の経験を有する教員が、身体障害の作業療法について講義する					
授業概要					
身体障害領域（特に脳血管障害、外傷性脳損傷、神経変性疾患、神経筋疾患）において、作業療法士が焦点を当てる作業に対する介入をするために最低限必要となる、身体障害領域における作業療法対象疾患について、各疾患の特徴・障害像・評価法・作業療法アプローチの基礎などについて学習する。					
学習到達目標					
知識・理解	①脳血管障害の障害特性について説明できる (DP1) ②脳血管障害の評価（脳画像の読み取り方や検査測定の方法）について説明できる (DP1) ③脳血管障害における介入の基本について説明できる (DP1) ④神経筋疾患の各疾患の障害特性について説明できる (DP1) ⑤神経筋疾患の各疾患に対する介入の基本を説明できる (DP1) ⑥神経変性疾患の各疾患の障害特性について説明できる (DP1) ⑦神経変性疾患の各疾患に対する介入の基本を説明できる (DP1) ⑧内部疾患、悪性腫瘍の障害特性と介入の基本を説明できる (DP1)				
思考・判断 ・表現					
技能	⑨模擬事例に対する評価、介入計画を立案できる (DP1, 2, 5)				
関心・意欲 ・態度	⑩講義の中での疑問を明確にし、作業療法の対象となる疾患や介入方法に対する理解を深めることができる (DP2, 5)				
授業形態					
講義	主に資料を使用して講義形式で実施する。模擬事例を通したグループワークを実施する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	清水	脳血管障害の障害特性について	脳血管障害の障害特性について学ぶ。教科書p162-169、185-190		
2	清水	脳血管障害の評価について	脳血管障害の評価方法とその結果の解釈について学習する。教科書p162-169		
3	清水	脳血管障害に対する介入	脳血管障害の評価結果から介入プログラムの立案について学習する。科書p169-184		
4	清水	神経筋疾患の障害特性について	多発性硬化症、ギランバレー症候群、重症筋無力症の障害特性とその評価方法について学ぶ。教科書p336-350		
5	清水	神経筋疾患に対する評価、介入	多発性硬化症、ギランバレー症候群、重症筋無力症に対する作業療法介入の基本について学ぶ。教科書p336-350		
6	清水	神経変性疾患の障害特性について	パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症の障害特性とその評価方法について学ぶ。教科書p352-373		
7	清水	神経変性疾患に対する評価、介入	パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症に対する作業療法介入の基本について学習する。教科書p352-373		
8	清水	内部疾患、悪性腫瘍の障害特性について	内部疾患、悪性腫瘍の障害特性とその評価方法について学ぶ		

9	清水	内部疾患、悪性腫瘍に対する評価、介入	内部疾患、悪性腫瘍に対する作業療法の介入の基本について学ぶ。教科書p376-439					
10	清水	模擬事例を通した脳血管障害の障害像の理解	脳血管障害の模擬事例情報を元に、脳血管障害の障害像に対する理解を深める					
11	清水	模擬事例に対する評価計画の立案	模擬事例に対する評価計画の立案をグループで学ぶ					
12	清水	模擬事例に対する介入方法の検討	模擬事例に対する介入計画をグループで学ぶ					
13	清水	模擬事例に対する作業療法のまとめ	第10, 11, 12回の内容を振り返り、各グループの介入計画について共有する					
14	水口・清水	当事者の生活と作業療法士への期待	当事者との関わりを通じて、障害を抱えながら生活することや作業療法士として必要な態度について理解を深める					
15	山田・清水	障害の捉え方と作業療法の支援	当事者セラピストからの講義を通して、作業療法が対象とする障害とはなんなのか、作業療法士として支援すべきポイントについて学ぶ					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●				70	①②③④⑤⑥⑦⑧
	ポートフォリオ		●		●	●	20	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
	グループ発表		●		●	●	10	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
評価の 特記事項	すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施する。グループ発表、ポートフォリオは、ルーブリック評価を用いて評価する。評価基準はその都度提示する。ポートフォリオの提出が遅れた場合には減点する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
全ての学習成果をファイルにまとめてポートフォリオとして提出する。ポートフォリオの中身は、授業のプリント、講義のまとめノート、講義の疑問に対する自己学習の資料（1時間程度） 模擬事例に対する評価計画、統合と解釈、介入計画についてレポートにまとめて提出する。（1時間程度）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
ポートフォリオ、レポートは講義の中で返却・フィードバックします。筆記試験は研究室に保管していますので、内容を確認することができます。								
教科書								
「標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学」 岩崎テル子 編集 医学書院								
参考図書								
「作業療法全書第4巻 身体障害」 日本作業療法士協会 監修 協同医書出版 「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学」 岩崎テル子 他編集 医学書院								
備考：履修者への要望								
学ぶ内容が多岐に渡りますので講義で伝えられる知識は基本的な原則にとどまります。課題の学習などを通じて、十分に予習復習を行い理解を深めてください。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
身体障害作業治療学実習	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
清水 一輝、加藤 真夕美、外倉 由之、長井 多美子					
実務経験のある教員					
清水一輝、外倉由之：作業療法士として勤務し、身体障害領域の作業療法の経験を有する教員が、作業療法の介入方法について講義する					
授業概要					
本科目では、身体障害領域の作業療法で主に用いられる感覚、反射、姿勢反射、筋緊張、協調性、脳神経、上肢機能などの評価の実施方法、記録方法とその結果の解釈の仕方について実習を通して身につける。また、模擬事例を通して作業療法介入についての理解を深める。					
学習到達目標					
知識・理解	①検査測定で必要な知識を理解し、説明することができる (DP1) ②身体障害領域における、作業療法評価、介入の基本について説明できる (DP1)				
思考・判断 ・表現					
技能	③各検査・測定の手技を理解し、模擬患者に対して実施できる (DP1, 3, 4, 5) ④身体障害に対する作業療法介入計画を立案し、模擬患者に対して実施できる (DP1, 2, 3, 4, 5)				
関心・意欲 ・態度	⑤他者の検査・測定の手技を評価し、自らの意見を伝えることができる (DP1, 3, 5) ⑥作業療法評価、介入計画の立案に必要な知識を自ら学ぶことができる (DP1, 3, 5)				
授業形態					
実習	各検査測定について簡単な講義を行い、学生のグループを作り、各評価の実施方法の確認や意見交換を行いながら理解を深める。事例に基づいて作業療法実践の一連の流れを学習する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	清水、外倉	体性感覚検査	体性感覚検査の実施方法を実習を通して学ぶ 教科書p114-129		
2	清水、外倉	反射、姿勢反射検査	反射、姿勢反射検査の実施方法を実習を通して学ぶ 教科書p130-150		
3	清水、加藤	筋緊張、協調性検査	筋緊張、協調性検査の実施方法を実習を通して学ぶ 教科書p151-167		
4	清水、加藤	脳神経検査、上肢機能検査 (Brs)	脳神経検査、上肢機能検査 (Brs) の実施方法を実習を通して学ぶ 教科書p204-212、配布資料		
5	清水、加藤	上肢機能検査	上肢機能検査実施方法を実習を通して学ぶ 配布資料		
6	清水	事例に基づいた各種疾患の理解	情報から事例の状態を予測し、必要な評価について整理することができる		
7	清水	事例に対する評価計画の立案	事例情報を整理して必要な評価を列挙、評価計画を立案する		
8	清水	評価結果の解釈	評価結果を記録し、事例の作業を疎外している要因について整理する		
9	清水	作業療法介入計画の立案	事例の作業を可能にするための作業療法介入について学ぶ		



10	清水	作業療法介入の実施	模擬事例に対して立案した作業療法介入を実施する					
11	清水	ケースレポートのまとめ①	各事例に関して評価、結果の解釈、目標の立案、介入計画までをレポートにまとめる					
12	清水	ケースレポートのまとめ②	各事例に関して評価、結果の解釈、目標の立案、介入計画までをレポートにまとめる					
13	清水	作業療法過程の報告	事例に関する作業療法の一連の過程を報告し議論する					
14	長井、清水	吸引について	吸引の方法やリスクについて					
15	長井、清水	吸引の実践	吸引の演習を通して実践方法を学習する					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	実技試験		●		●		30	①③④
	発表					●	20	⑤⑥
	ポートフォリオ		●			●	50	②⑤⑥
評価の 特記事項	実技試験において6割未満の成績または実技試験を受験できなかった場合は再試験の対象とする。 発表、ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
各テーマに該当する教科書を予習する。(1時間程度) 実技は学生同士で確実に実施できるよう復習をする。事例学習の内容は各自でレポートにまとめる。(1時間程度)								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
レポート作成において必ず担当教員の指導を受ける								
教科書								
「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学」 岩崎 テル子他 編 医学書院								
参考図書								
「ベッドサイドの神経の診かた」 田崎 義昭他 著 南山堂								
備考：履修者への要望								
実技を行う際は、動きやすい服装で臨んでください。 作業療法実践（実習）に向けて作業療法士として必要な思考過程を学ぶ講義になります。自ら積極的に学ぶ姿勢を忘れないように参加してください。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数			
精神障害作業治療学	リハビリテーション学科 作業療法専攻	2学年	必修	2単位	30時間			
担当教員名								
横山 剛								
実務経験のある教員								
横山 剛：医療機関で作業療法士として勤務経験のある教員の指導のもと、精神障害における各疾患、疾病、障害の特徴、精神科作業療法について、グループワークを通して教授する。								
授業概要								
本科目では、精神障害における代表的な疾患を取り上げ、それら疾患の生活の障害特性・予後、問題点の焦点化、作業療法の介入について講義形式で学修する。精神障害作業療法の意義について理解を深め、精神障害を持つ人の「生きにくさ」について共感的に理解し、対応することができるようになることを目的とする。								
学習到達目標								
知識・理解	①精神障害者の特性を説明できる<DP1,2> ②精神障害者の作業療法介入について説明できる<DP1,2>							
思考・判断 ・表現	③障害特性から生きにくさを考察できる<DP1>							
技能								
関心・意欲 ・態度	④精神障害領域に興味を持つ<DP6>							
授業形態								
講義	講義、グループワーク課題レポートの作成、プレゼンテーション							
授 業 計 画								
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容					
1	横山	オリエンテーション 精神の病と障害	授業の概要説明、課題の説明。精神の病と障害について学ぶ。					
2～7	横山	各疾患・障害についての学修	統合失調症、気分障害、人格障害、神経症圏、アルコール依存症、自閉症、のそれぞれのグループワーク課題に取り組む					
8～13	横山	学修成果のプレゼンテーション	統合失調症、気分障害、人格障害、神経症圏、アルコール依存症、自閉症、のそれぞれの障害特性・作業療法について等のプレゼンテーション					
14～15	横山	授業まとめ	質問表の応答など					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	筆記試験		●	●			40	①②③
	グループワークレポート		●	●		●	40	①②③④
	参加貢献度					●	20	④
評価の 特記事項	筆記試験 (40%)、グループワークレポート (質問表の応答含む) (40%)、参加貢献度 (20%) で評価する。60点の未滿の場合は、再試験を行います。							

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
グループワーク課題に積極的に取り組んでください。（1回の講義につき1～2時間程度）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法
グループワークも含め、毎回質問表を使用するので、その質問に答えます。また、担当した課題の発表の際には、他の学生の質問表に应答します。
教科書
「精神障害と作業療法」 山根 寛 三輪書店
参考図書
随時紹介します。
備考：履修者への要望
本講義は、作業療法の治療学における精神分野の内容です。こころという目には見えない領域を扱いますから、病気・疾病にとどまらず幅広い知識が必要ですので新聞や他の本などでも調べ、理解を深めて下さい。

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数		
精神障害作業治療学実習		リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	45時間		
担当教員名								
横山 剛、松田 裕美								
実務経験のある教員								
横山 剛、松田裕美：精神障害領域の医療機関で作業療法士として勤務経験のある教員の指導のもと、精神障害における作業療法評価を実施できるようになることを目標に、学生自身が評価計画立案を行う。								
授業概要								
本科目では、精神障害に対する評価の考え方と評価方法を模擬的に実践する。教員のスーパーバイズを受けながら、学生同士が、評価計画を立案しそれを行い、結果のまとめ・整理、レポート作成・発表をする機会を通して、精神障害に対する作業療法の実践を模擬的に学修する。								
学習到達目標								
知識・理解	①評価方法の種類と手順を説明できる<DP1,2>							
思考・判断 ・表現	②スーパーバイズを受け、結果から解釈を行える<DP1>							
技能								
関心・意欲 ・態度	③作業療法士を目指す学生について興味関心を持てる<DP6>							
授業形態								
実習	講義および実習							
授 業 計 画								
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容					
1～8	横山・松田	精神障害領域の評価について	評価のタイプを講義し、5W1Hの視点から、評価について学ぶ。実習のオリエンテーションを含めて各種検査を実施する。					
9～10	横山・松田	評価計画立案	評価を効率よく行うための方法について教授し、評価計画を立案する。					
11～18	横山・松田	評価実施	指定した評価法を実施し、結果を整理する。					
19～22	横山・松田	評価実施とフィードバック	必要な評価内容をリストアップし、評価計画に加えて実施する。フィードバックを受けながら、結果を整理する。ものをレポートにまとめる。					
23	横山・松田	レポート発表	レポートを発表する機会を持ち、他者との視点の違いを確認する。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	レポート		●	●		●	40	①②③
	レポートの発表		●	●			30	①②
	参加貢献度					●	30	③
評価の 特記事項	レポート (40%)、発表 (30%)、参加貢献度 (30%) で評価する。60点の未満の場合は、再度レポートをしていただきます。							

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>①心理学、臨床心理学の教科書、ノート類を一度は必ずreviewしておく。  ②臨床心理学、精神医学の講義と関連付けて履修すること。  ③毎回の実習のレポートを次回授業までにまとめてください  （1回の講義につき1～2時間程度）。</p>
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法
<p>実習においては各自、毎回の授業時もしくは次回授業時までにフィードバックをします（1回につき20分程度）。</p>
教科書
<p>資料を授業中に配布する。</p>
参考図書
<p>随時紹介する。</p>
備考：履修者への要望
<p>臨床実習前の実習なので、臨床実習を十分に想定しながら臨んでください。  スーパーバイズを受ける機会が増えるので、報告・連絡・相談を行い信頼関係構築に努めてください。</p>

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
発達障害作業治療学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	2単位	30時間
担当教員名					
小山 隆幸					
実務経験のある教員					
授業概要					
発達障害児の捉え方の視点を深めると共に、発達障害を伴う疾患についてその特徴を理解し、各疾患の臨床症状について学ぶ。各疾患の症例検討を通じて、治療的関わり方の指向性について理解を深め、具体的な治療の関わり方を学習する。					
学習到達目標					
知識・理解	①発達障害作業療法が対象とする疾患の特徴を理解し説明することが出来る (DP1) ②発達障害作業療法が対象とする疾患の治療的関わり方の思考的過程を説明することが出来る (DP1)				
思考・判断 ・表現	③グループワーク、発表での役割を積極的に選択し担うことが出来る (DP3)				
技能	④発達障害作業療法が対象とする疾患の治療的関わり方の思考的過程をわかりやすく発表することが出来る (DP3)				
関心・意欲 ・態度	⑤グループワークでの役割を積極的に選択し担うことを身につけることが出来る (DP3、4) ⑥発達障害作業療法が対象とする疾患の治療的関わり方をわかりやすく発表することが出来る (DP3、4)				
授業形態					
講義	講義とグループ・ワークによるアクティブ・ラーニングにて進める。初回授業時に授業内容の個別学習課題について記入した授業ノートを配布する。この授業ノートに従い進める。最終回では発達過程における各疾患について発表・意見交換の機会を体験する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	小山	本講義の進め方。治療的関わり(子どもや両親への関わりと理解)	子どもの家庭環境や家族への治療的関わりについて学ぶ。P3～		
2	小山	脳性麻痺の臨床像の理解と関わり	脳性まひの臨床像と関わりについて学ぶ。P135～		
3	小山	姿勢と運動の発達①	姿勢と運動の障害像と対比しながら人の動きについて理解を深める。P135～		
4	小山	姿勢と運動の発達②	姿勢と運動の障害像と対比しながら人の動きについて分析的視点を学ぶ。P135～		
5	小山	知的障害の臨床像の理解と関わり	知的障害の臨床像の理解と関わりについて学ぶ。P162～		
6	小山	グループ・ワーク	各疾患や類型の特徴と作業療法士の役割について学んだことをまとめる		
7	小山	グループ・ワーク中間報告	プロダクトの進捗状況を報告し学習内容の確認をする		
8	小山	整形外科疾患の理解と関わり	整形外科疾患の臨床像の理解と関わりについて学ぶ P275～		
9	小山	グループ・ワーク	各疾患や類型の特徴と作業療法士の役割について学んだことをまとめる		

10	小山	ASD疾患の理解と関わり	ASDの臨床像の理解と治療的関わりの視点を学ぶ P179～					
11	小山	グループ・ワーク	各疾患や類型の特徴と作業療法士の役割について学んだことをまとめる					
12	小山	プロダクツの報告①	各疾患や類型の特徴と作業療法士の役割について学んだことを報告発表する。					
13	小山	プロダクツの報告②	各疾患や類型の特徴と作業療法士の役割について学んだことを報告発表する。					
14	小山	プロダクツの報告③	各疾患や類型の特徴と作業療法士の役割について学んだことを報告発表する。					
15	小山	法的社会背景と施設やサービス	法的背景による施設やサービスの異なりを学習し、発達障害児へ治療的介入方法を比較し、発達障害作業療法を鳥瞰図的に学ぶ。P39～					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	定期筆記試験		●				50	①②
	課題発表		●	●	●	●	40	①②③④⑤⑥
	参加貢献度			●		●	10	③④⑤
評価の特記事項		筆記試験が6割以下の場合には再試験とする。レポート課題の内容およびグループワークの報告など、分かりやすい報告や発表の状況も評定に含める。グループ構成員として各自が積極的に参加し役割を担い反映したものを成果とします。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
すでに学んだ人間発達学や発達障害作業評価学の内容をよく復習してください。（復習）グループワークの担当疾患や類型について臨床実習で取り組めるようにレポートにまとめ発表と報告をします。（約15分～）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
レポートに対するコメントは次回返却する、個別面談及びコメント								
教科書								
「標準作業療法学 発達過程作業療法学 第3版」福田恵美子編 医学書院								
参考図書								
必要に応じて紹介する。								
備考：履修者への要望								
障がいのあるお子さんとの関わり方の中で作業療法を身につけていけるよう積極的に関わってほしい。お子さんとの関わりの中で変化や成長を感じ取れるようにしましょう。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
発達障害作業治療学実習	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	45時間
担当教員名					
松田 裕美、外倉 由之					
実務経験のある教員					
松田 裕美、外倉 由之：医療施設等において、作業を用いた作業療法を実施した経験を有する教員が、個々の園児の発達段階を評価し、それに応じた作業や遊びを提供するための計画立案・実施をサポートする。					
授業概要					
本科目では、発達障害作業治療学で学修した内容を踏まえ、未就学児の発達を考慮した遊びを立案・提供し、具体的関わり方・心身の発達を実習を通して学修する。臨地での経験を積むため、本学附属の認定こども園(健常児・障害児)などで臨床実習を行い、発達過程にあるこどもに対する作業療法の実践を学修する。					
学習到達目標					
知識・理解	①年長児の発達過程を説明できる (DP1) ②年長児が楽しめる作業課題について説明できる (DP1)				
思考・判断 ・表現	③製作遊びのプログラムを立案することができる (DP1, 2, 5)				
技能	④製作遊びの計画書(時間の流れ、学生の指示、作業の工程など)を作成できる (DP3, 4, 5, 6) ⑤園児の行動の特徴を観察できる (DP3, 4, 5, 6) ⑥園児の行動に対して適切に対応できる (DP3, 4, 5, 6)				
関心・意欲 ・態度	⑦活動の計画・立案に積極的に参加し、自らの意見を述べる事ができる (DP2, 4, 5)				
授業形態					
実習	実習においてグループでの計画の立案・実施				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	外倉・松田	未就学児の発達段階や遊びの特徴について	年間を通じたこども園の園児との交流について、畝作りと苗植えに関するガイダンス		
2	外倉・松田	草取り/畝作り	サツマイモの苗を植えるための畝作りを計画し実施する。園児とともに草取りを行い交流を図る。		
3	外倉・松田	畝作り/草取り	サツマイモの苗を植えるための畝作りを計画し実施する。園児とともに交流を図る。		
4	外倉・松田	草取り	サツマイモの収穫に向けた草取りを園児とともに交流を図る。		
5	外倉・松田	草取り	サツマイモの収穫に向けた草取りを園児とともに交流を図る。		
6	外倉・松田	苗植え	苗植えを計画し実施する。園児の発達段階と実際を比較し、行動の特徴やその違いについて理解する。		
7	外倉・松田	苗植え	苗植えを計画し実施する。園児の発達段階と実際を比較し、行動の特徴やその違いについて理解する。		
8	外倉・松田	製作遊びのガイダンス	園児の発達段階、遊びの特徴、製作遊びを実施する際の注意点などについてのガイダンスを行う。		
8	外倉・松田	制作遊びの心構えと準備	製作遊びにおける作業について理解し、こども園の年長児が楽しめる作業を検討する。製作遊びの計画書の書き方について理解する。		



9	外倉・松田	製作遊び準備	製作遊びで実施する作業を選択し、その作業を選択した理由（活動の目的）を明確にする。作業の工程を整理し各工程の時間配分を検討する。					
11	外倉・松田	製作遊び準備	枠組みに合わせて製作遊びの計画書（時間配分、作業工程、環境、指導者のセリフなど）を作成する。					
12	外倉・松田	製作遊び準備	計画書の作業工程や指導者のセリフに合わせて反応する園児の行動を想像し、指導者として適切な対応方法の見直し、作業工程の変更を行う。					
13	外倉・松田	製作遊び準備	計画書の作業工程や指導者のセリフに合わせて反応する園児の行動を想像し、指導者として適切な対応方法の見直し、作業工程の変更を行う。					
14	外倉・松田	製作遊びリハーサル	計画書をもとに実施手順について実際の環境で確認する。各学生の担う役割を明確にし、確認する。 修正が必要な箇所を整理し、計画書の修正を行う					
15	外倉・松田	製作遊びリハーサル	計画書をもとに実施手順について実際の環境で確認する。各学生の担う役割を明確にし、確認する。 修正が必要な箇所を整理し、計画書の修正を行う					
16	外倉・松田	製作遊びリハーサル	計画書をもとに実施手順について実際の環境で確認する。各学生の担う役割を明確にし、確認する。 修正が必要な箇所を整理し、計画書の修正を行う					
17	外倉・松田	製作遊びの実施	計画した製作遊びを実施し、園児との関わり方や発達の段階について学ぶ。 ・予測していた内容と実際の園児の動きを比較し、その違いや特徴を記録する ・準備していた内容と実際に自分が取った態度を記録する ・園児の記録と自分の記録からより良い改善点を見つける					
18	外倉・松田	製作遊びの実施	計画した製作遊びを実施し、園児との関わり方や発達の段階について学ぶ。 ・予測していた内容と実際の園児の動きを比較し、その違いや特徴を記録する ・準備していた内容と実際に自分が取った態度を記録する ・園児の記録と自分の記録からより良い改善点を見つける					
19	外倉・松田	食育のガイダンスと準備	芋掘り・食育を実施する際の注意点などについてのガイダンスを行う。 食育で実施する実験遊びの準備をする。					
20	外倉・松田	食育のガイダンスと準備／草取り	芋掘り・食育を実施する際の注意点などについてのガイダンスを行う。 食育で実施する実験遊びの準備をする。					
21	外倉・松田	サツマイモ掘り	サツマイモ掘りを通して、園児との関わり方や発達の段階について学ぶ。 製作遊びの時との園児の行動の違いや特徴について理解する。					
22	外倉・松田	サツマイモ掘り	サツマイモ掘りを通して、園児との関わり方や発達の段階について学ぶ。 製作遊びの時との園児の行動の違いや特徴について理解する。					
23	外倉・松田	食育	食育を通して、園児との関わり方や発達の段階について学ぶ。 製作遊びの時との園児の行動の違いや特徴について理解する。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法		●	●	●		80	①②③④⑤⑥
	レポート		●	●	●		80	①②③④⑤⑥
	受講態度				●	●	10	⑥⑦
	参加貢献度					●	10	⑦
評価の 特記事項	レポートは、各活動への参加後に提出を求めます。レポートの提出が遅れた場合は減点対象とします。 受講態度は製作遊びへの参加態度、参加貢献度はグループ活動への貢献度を元に評価します。 こども園での実習の実施に際し問題が在ったり、提出レポート等について問題がある場合、提出期限が守れない等があった場合は指導再提出があります。							

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>製作遊びの実施に向けた年長児の発達や遊びに関する事前学習（1時間）  製作遊びの実施に向けて、グループメンバーと協力し、計画の立案をする（1時間）</p>
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法
<p>レポートは個別でフィードバックを行います。</p>
教科書
<p>特になし</p>
参考図書
<p>講義の中で適宜紹介します。</p>
備考：履修者への要望
<p>日程の詳細については講義開始時に連絡します。  授業時間以外にも活動の実施に向けてグループで活動することが求められます。各自が積極的にグループでの活動に参加するようにしてください。</p>

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
高齢期作業療法学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
廣渡 洋史					
実務経験のある教員					
授業概要					
作業療法の対象となる高齢者およびそれに付随する障害の特徴を理解し、高齢期作業療法における評価から目標設定の流れに続き、具体的な介入方法、援助方法について習得する。					
学習到達目標					
知識・理解	①老年期障害の特徴を述べることができる。(DP1)				
思考・判断 ・表現	②老年期分野の作業療法の目的・流れ・評価・介入について説明できる。(DP1) ③認知症の疾患特性や評価の際の留意点・介入の考え方や方法について説明できる。(DP5)				
技能					
関心・意欲 ・態度	④対象者の状態や周囲の状況に応じた評価・介入計画について自分の意見を述べるができる。(DP5)				
授業形態					
講義	講義では各種資料・視聴覚教材を取り入れていきます。また、適宜グループワーク・レポートを取り入れます。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	廣渡	高齢者の理解	高齢社会と高齢者像を理解する。		
2	廣渡	高齢者の特性	加齢と老化、生活障害について理解する。		
3	廣渡	運動機能	高齢者の基本的運動機能(評価)について理解する。		
4	廣渡	知的・精神機能	高齢者の知的・精神機能(評価)について理解する。		
5	廣渡	ユマニチュード	ユマニチュードについて理解する。		
6	廣渡	高齢者の関わり方	実際の関わり方を知り理解を深める。		
7	廣渡	社会資源	高齢者をとりまく社会試験における保健・医療・福祉を知る。		
8	廣渡	老年期作業療法の役割	在宅生活と入所施設生活を知り、理解を深める。		
9	廣渡	介護保険制度	介護保険制度について理解する。		

10	廣渡	QOL	高齢者のQOLについて理解する。					
11	廣渡	ADL	高齢者のADLについて理解する。					
12	廣渡	リスク管理	高齢者のリスク管理について理解する。					
13	廣渡	疾患と治療①	高齢者に多い疾患と作業療法について理解する。					
14	廣渡	疾患と治療②	高齢者に多い疾患と作業療法について理解する。					
15	廣渡	実際の治療	実際の治療場面を広く知る。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●	●			70	①②③
	グループワーク・レポート			●		●	30	②③④
評価の 特記事項	定期試験結果が60点に満たない場合、再試験の対象となる。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
事前学習：高齢者に関する文献を一つ読んでおくこと（約1時間） 事後学習：講義終了後は復習をすること（約1時間）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
レポートは返却する。筆記試験は研究室に保管しているので事前に連絡の上、内容を確認することができる。								
教科書								
随時配布資料を使用する。								
参考図書								
随時授業の中で紹介する。								
備考：履修者への要望								
超高齢社会の日本の取り組みは世界から注目されています。作業療法士として何が出来るかを模索する契機となることを願います。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
日常生活作業学Ⅰ	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	15時間
担当教員名					
加藤 真夕美					
実務経験のある教員					
加藤真夕美：医療機関、介護老人保健施設、保健センター、通所介護事業所において作業療法士として勤務し、身体障害領域および老年期領域の作業療法の経験を有する。					
授業概要					
本科目は、作業療法士にとって重要な概念である日常生活活動（以下、ADL）の基礎を作業療法の視点から理解することを目的とする。ADLの概念および分類、ADLの構成要素を概観した後、ADLの制限や制約の意味付け、ADLの評価方法、ADL支援の種類、ADL制限・制約に対する分野別の作業療法の実践例について、その概要を学ぶ。授業は講義が主体であるが、理解を深めるために随時演習を用いる。					
学習到達目標					
知識・理解	①ADLの概念と範囲を説明することができる。（DP1） ②ADL評価の種類と特徴を説明することができる。（DP1）				
思考・判断 ・表現	③各障害領域のADL制限・制約に対する作業療法士の基本的役割を理解し、説明することができる。（DP1, 5）				
技能	④ADLに対する作業療法の実践例について、文献検索を通して情報収集することができる。（DP1, 2）				
関心・意欲 ・態度	⑤提出物を遅滞なく、内容の不足なく確実に提出することができる。（DP3）				
授業形態					
講義	講義を主体とするが、理解を深めるために模擬体験や文献検索、レポート作成など、能動的な学習を促す演習を併用する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	加藤	オリエンテーション ADLの概念と範囲	ADLの定義および範囲、位置づけを学ぶ。（第1章）		
2	加藤	ADLの構成要素と特徴	ADLの構成要素（工程）と特徴を学ぶ。（第2章）		
3	加藤	ADLの自立と制限・制約 ADLの評価	ADLの自立および制限・制約について学ぶ。またADLの評価法の種類を学ぶ。（第3章）		
4	加藤	ADLに対する作業療法	ADLの制限、制約に対するの作業療法介入の基礎を学ぶ。（第4章）		
5	加藤	ADLの観察と記録	ADLの観察と記録の方法を学ぶ。（第5章）		
6	加藤	領域別のADL制限・制約に対する支援①	発達障害領域、身体障害領域におけるADLの支援方法について学ぶ。（第6章Ⅰ,Ⅱ）		
7	加藤	領域別のADL制限・制約に対する支援②	精神障害領域、老年期障害領域におけるADLの支援方法について学ぶ。（第6章Ⅲ,Ⅳ）		
8	加藤	まとめ	授業の総括を行う。		

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	筆記試験	●	●				80
レポート			●	●	●	20	③④⑤
評価の 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再試験は、筆記試験得点が6割未満の場合に実施する。</li> <li>・筆記試験得点が6割以上かつ、すべてのレポートが提出された場合に、単位を認定する。</li> <li>・レポートは、課題ごとに評点を定めたルーブリックを用いて評価する。評点は課題ごとに提示する。</li> <li>・レポートは、提出の遅滞や内容の不足があった場合に減点する。内容によっては再提出を求める。</li> </ul>						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元の終わりに配布されたレポート課題（文献レビューなど）をラーニングコモンズスペースを利用して作成する。レポートは次回の授業中に回収する。（授業時間内に完成しなかった分は自宅に持ち帰り仕上げる）</li> <li>・教科書の該当ページを読み込む。（各30分）</li> </ul>							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートは、コメントを記入するなどしてフィードバックする。</li> <li>・筆記試験は、答案を返却する。答案を取りに来た学生に対し、個別に口頭でフィードバックを行う。</li> </ul>							
教科書							
「作業療法技術学3 日常生活活動(作業療法学全書)」酒井 ひとみ、日本作業療法士協会、協同医書出版							
参考図書							
必要に応じて授業の中で紹介する。							
備考：履修者への要望							
ADLの支援は作業療法士の根幹とも言えるほど重要な位置を占めます。これから作業療法を学ぶに当たっての基盤となる知識ですので、しっかりと理解するよう努めて下さい。							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
日常生活作業学Ⅱ	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
清水 一輝					
実務経験のある教員					
清水一輝：作業療法士として勤務し、身体障害領域の作業療法の経験を有する教員が、日常生活作業の意義や評価方法について講義する					
授業概要					
本科目では、日常生活活動に関する評価の特徴や評価方法について、活動別の支援方法について理解することを目的とする。作業療法プロセスで用いる、FIM、OQ、ADOC、COPM、AMPSなどの評価について、ADL・IADLの各活動について、その評価の視点、評価結果の解釈の仕方、具体的な支援方法について学習する。					
学習到達目標					
知識・理解	①作業療法介入プロセスモデル（OTIPM）について説明できる ②AMPSの実施方法について説明できる（DP1） ③日常生活作業に関連する要因について列挙できる ④各疾患（脳血管障害、心疾患・呼吸器疾患、脊髄損傷、関節リウマチ、パーキンソン病）の日常生活作業についてその違いを比較しながら説明できる ⑤FIMの採点基準について説明できる（DP1） ⑥OQの実施方法について説明できる（DP1）				
思考・判断 ・表現					
技能	⑦COPM、ADOCを用いた面接が模擬事例に対して行える（DP1, 2, 5） ⑧AMPSを用いた観察評価が模擬事例に対して行（DP1, 2） ⑨FIMの採点基準に基づき模擬事例の評価ができる（DP1, 2）				
関心・意欲 ・態度	⑩グループワークに積極的に参加し、講義の理解を深めるような議論ができる（DP2, 5） ⑪講義での学びを整理し、疑問点を挙げ自ら学習した内容を含めてポートフォリオを作成する（DP2, 5）				
授業形態					
講義	講義が主体であるが、演習も行いながら理解を深めていく				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	清水	作業療法のプロセスについて	作業療法介入プロセスモデル（OTIPM）について		
2	清水	COPMについて	COPMを用いて模擬事例に対する面接を実施する		
3	清水	ADOCについて	ADOCを用いて模擬事例に対する面接を実施する		
4	清水	AMPSの運動技能項目について	AMPSの運動技能項目について理解する		
5	清水	AMPSに基づいた日常生活作業の評価 ①	AMPSの基準に従って模擬事例の運動技能を評価する		
6	清水	AMPSのプロセス技能項目について	AMPSのプロセス技能項目について理解する		
7	清水	AMPSに基づいた日常生活作業の評価 ②	AMPSの基準に従って模擬事例の運動技能を評価する		
8	清水	日常生活作業に影響を与える要因	各種の日常生活作業に影響を与える要因について学び、評価の視点について整理する		

9	清水	日常生活作業に対する介入方法	日常生活作業に対する介入方法について学ぶ
10	清水	各疾患特有の日常生活作業①	脳血管障害、心疾患・呼吸器疾患の日常生活作業について
11	清水	各疾患特有の日常生活作業②	脊髄損傷、関節リウマチ、パーキンソン病の日常生活作業について
12	清水	機能的自立度評価法（FIM）について	日常生活作業の評価であるFIMについて評価基準等を学ぶ
13	清水	FIMに基づいた日常生活作業の評価 ①：運動項目	模擬事例をもとにFIMの採点を行い、FIMの採点方法を理解する
14	清水	FIMに基づいた日常生活作業の評価 ②：認知項目	模擬事例をもとにFIMの採点を行い、FIMの採点方法を理解する
15	清水	OQについて	日常生活作業の評価であるOQについて学ぶ

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（％）	到達目標
	評価方法							
		筆記試験	●				70	①②③④⑤⑥
		ポートフォリオ			●	●	20	⑦⑧⑨⑩⑪
		小テスト	●		●		10	⑤⑨

評価の特記事項	すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施する。 ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。ポートフォリオには毎回の講義資料、課題、文献、自己学習の記録など講義に関連する全ての資料を含める。 ポートフォリオの提出が遅れた場合は減点対象とする。
---------	--

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

教科書の該当ページや配布資料を事前に読み理解する（1時間）  
講義で出された課題を行いレポートにまとめる（1時間）

課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法

筆記試験は研究室で保管しているため、内容を確認することができます。小テストは講義中にフィードバックします。

教科書

「作業療法技術学3 日常生活活動(作業療法学全書)」 著者/編集:酒井 ひとみ 監修:日本作業療法士協会

参考図書

講義の中で適宜紹介します

備考：履修者への要望

講義は皆さんに日常生活作業について深く考えるきっかけを与えるにすぎません。普段の生活の中で、自らの日常生活作業について考え、他者と比較し、日常生活作業の多様性を実感して下さい。



授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
日常生活作業学実習	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
加藤 真夕美					
実務経験のある教員					
加藤真夕美：医療機関、介護老人保健施設、保健センター、通所介護事業所において作業療法士として勤務し、身体障害領域および老年期領域の作業療法の経験を有する教員が、日常生活活動支援についての講義および実技指導を行う。					
授業概要					
本科目は、日常生活活動（以下、ADL）が心身状態の変化あるいは環境の影響によってどのように変化するか、またADL制限・制約に対する作業療法の役割を理解することを目的とする。本科目では主にセルフケアおよび手段の日常生活活動（IADL）について、基本的な評価方法をはじめ、脳血管障害、神経変性疾患、脊髄損傷など各疾患特有の制限・制約に関する知識および支援のあり方の基礎を、作業療法の視点から実習を通して実践的に学ぶ。					
学習到達目標					
知識・理解	①障害に応じたADLの代表的な評価方法、基礎的な介助や指導について理解することができる。（DP1）				
思考・判断 ・表現	②模擬事例のADL制限・制約の理由について、様々な情報を統合し、検討し、その検討結果を説明することができる。（DP1, 5）				
技能	③障害に応じたADLの基礎的な介助、指導を、学生を相手に実践できる。（DP1, 4, 5） ④代表的なADL評価法を用いた評価を、学生を相手に実施できる。（DP1, 4, 5）				
関心・意欲 ・態度	⑤提出物を遅滞なく、内容の不足なく確実に提出することができる。（DP3）				
授業形態					
実習	実習および演習を主体とする。演習ではPBLを用いる。随時必要な知識を講義形式で伝える。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1～2	加藤	オリエンテーション BADLの活動支援①	ADLに関連する事項の復習（範囲、分類、評価法など） 移動動作（起居動作・車椅子操作）に対する支援方法や技術を学ぶ。（第1章）		
3～4	加藤	BADLの活動支援②	移動動作（歩行・移乗動作）に対する支援方法や技術を学ぶ。（第2章－Ⅰ）		
5～6	加藤	BADLの活動支援③	身辺処理活動（食事・排泄・更衣・入浴・整容）に対する支援方法や技術を学ぶ。 実技試験①（寝返り、起き上がり、移乗介助）（第2章－Ⅰ）		
7～8	加藤	IADLの活動支援①	屋内活動に対する支援方法や技術を学ぶ。 実技試験②（寝返り、起き上がり、移乗介助）（第2章－Ⅱ）		
9～10	加藤	IADLの活動支援②	屋外活動に対する支援方法や技術を学ぶ。 実技試験③（車椅子移動介助）（第2章－Ⅲ）		
11～12	加藤	ADL評価	FIM、BIを中心に、代表的なADL評価方法を学び、実践する。 実技試験④（車椅子移乗介助）（第3章、第4章、第5章）		
13～14	加藤	PBL	模擬症例に対するADL評価および作業療法の計画立案を経験する。（第6章－Ⅱ, Ⅳ）		
15	加藤	まとめ	授業の総括および不足している知識、技術の再確認を行う。		

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法	実技試験			●		50
	レポート	●	●		●	50	①②⑤
評価の 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技試験は、課題ごとに定めた評価の視点すべてをクリアするまで繰り返し受験することを求める。授業終了までの間にすべての受験項目をクリアした場合に単位を認定する。</li> <li>・レポートは、提出の遅滞や内容の不足があった場合に減点する。内容によっては再提出を求める。</li> </ul>						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各单元ごとに提示されるレポートを作成する（授業内で作成。授業内で作成できなければ自宅に持ち帰り仕上げる）</li> <li>・実技試験①②および③④のための練習（各120分を目安）</li> </ul>							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートは、ルーブリックにて評価し、口頭およびレポート内へのコメント記載によりフィードバックする。</li> <li>・実技練習は、授業内で見回り、その都度口頭などにてフィードバックする。</li> </ul>							
教科書							
「作業療法技術学3 日常生活活動(作業療法学全書)」 著者/編集：酒井 ひとみ 監修：日本作業療法士協会							
参考図書							
必要に応じて授業内で紹介する。							
備考：履修者への要望							
他のすべての教科で学んだ知識、あるいは生まれてから今までの経験が、何らかの形で繋がってきます。必要に応じて知識を適切に利用できるよう、他の授業の資料等を整理しておいてください。							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
高次脳障害作業治療学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
加藤 真夕美					
実務経験のある教員					
加藤 真夕美：医療機関、介護老人保健施設、保健センター、通所介護事業所において作業療法士として勤務し、高次脳機能障害および認知症に対する作業療法の経験を有する教員が、高次脳機能障害の評価および作業療法についての講義を行う。					
授業概要					
本科目は、人が合目的な動作を行う際に必要となる高次脳機能障害について、作業療法の視点で理解することを目的とする。意識、情動制御、注意、記憶、対象や空間の認知、言語の表出および理解、行為の表出、遂行機能などについて、それらの機能の概要や障害の種類、責任病巣、行動上の特徴、評価法および作業療法の基本的な考え方について学ぶ。授業は、講義が主体であるが、評価方法習得のために随時演習を用いる。					
学習到達目標					
知識・理解	①高次脳機能障害の種類と責任病巣、行動上の特徴、主な評価法について説明できる (DP1) ②各障害に対する作業療法の基本的な考え方を説明できる。(DP1)				
思考・判断 ・表現	③高次脳機能障害が日常生活に及ぼす影響について考察できる。(DP1, 5)				
技能	④各障害に対する作業療法の実践例について、文献検索を通して情報収集することができる。(DP2, 5)				
関心・意欲 ・態度	⑤提出物を、期限に遅れることなく、また内容が不足することなく確実に提出することができる。(DP3)				
授業形態					
講義	主に講義形式で行う。一部、評価法の模擬実践や文献検索などアクティブラーニングを促す演習を取り入れる。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	加藤	高次脳機能障害とは 高次脳機能障害と制度	高次脳機能障害の定義や種類、また障害当事者の社会生活における課題および関連する制度について学ぶ。(第1章-I, III, IV)		
2	加藤	脳の側性化と利き手 運動と高次脳機能	脳の側性化と利き手の関連性、また運動と高次脳機能の関連性について学ぶ。(第1章)		
3	加藤	脳の機能解剖	脳の機能解剖と画像所見の診方について学ぶ。(第1章-II)		
4	加藤	高次脳機能障害者の症状の捉え方と 社会復帰支援	神経心理循環など高次脳機能障害の捉え方を学ぶ。また就労や自動車運転に関わる諸問題について学ぶ(第1章、第4章)		
5	加藤	易疲労性と意識障害	脳機能障害者における疲れやすさと意識障害について学ぶ。(第1章)		
6	加藤	注意障害の作業療法	注意機能の分類、障害像と責任病巣、評価法、介入のポイントについて学ぶ。(第2章-I、第3章-I)		
7	加藤	半側無視の作業療法	半側無視について、障害像と発症メカニズム、評価法、介入のポイントについて学ぶ。(第2章-VI、第3章-VI, VII)		
8	加藤	記憶障害の作業療法	記憶機能の分類、障害像と責任病巣、評価法、介入のポイントについて学ぶ。(第2章-II、第3章-II)		
9	加藤	失行の作業療法	失行(運動、行為の障害)について、障害像と発症メカニズム、評価法、介入のポイントについて学ぶ。(第2章-IV、第3章-IV)		

10	加藤	失認の作業療法	失認（対象認知の障害）について、障害像と発症メカニズム、評価法、介入のポイントについて学ぶ。（第2章－V、第3章－V）
11	加藤	失語の作業療法	失語（言語に関する高次脳機能障害）について、障害像と発症メカニズム、評価法、介入のポイントについて学ぶ。（第2章－III、第3章－III）
12～13	加藤	前頭葉症状の作業療法（遂行機能障害と社会的行動障害）	前頭葉関連症状（主に遂行機能障害と社会的行動障害）について、障害像と発症メカニズム、評価法、介入のポイントについて学ぶ。（第2章－VII, VIII、第3章－VII, IX）
14～15	加藤	文献検索	高次脳機能障害の各症状に対する作業療法の実践例を、文献検索を通して学ぶ。

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（%）	到達目標
	評価方法							
	筆記試験	●	●				70	①②③
	レポート	●	●	●	●		20	②③④⑤
	ポートフォリオ					●	10	⑤

評価の特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>再試験は、筆記試験得点が6割未満の場合に実施する。</li> <li>筆記試験得点が6割以上かつ、すべてのレポートとポートフォリオが提出された場合に、単位を認定する。（授業時間内に完成しなかった分は自宅に持ち帰り仕上げる）</li> <li>レポート、ポートフォリオは、課題ごとに評点を定めたルーブリックを用いて評価する。評点は課題ごとに提示する。</li> <li>レポート、ポートフォリオは、提出の遅滞や内容の不足があった場合に減点する。内容によっては再提出を求める。</li> </ul>
---------	--

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 各単元の終わりに配布されたレポート課題（文献レビューなど）をラーニングコモンズスペースを利用して作成する。レポートは次回の授業中に回収する。（授業時間内に完成しなかった分は自宅に持ち帰り仕上げる）
- 教科書の該当ページを読み込む。（各30分）
- 授業での配布資料やレポートを整理し、ポートフォリオを作成する。（各回10分）

課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法

- レポートは、コメントを記入するなどしてフィードバックする。
- 筆記試験は、答案を返却する。答案を取りに来た学生に対し、個別に口頭でフィードバックを行う。

教科書

「標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学 第2版」能登真一 編集 医学書院

参考図書

「高次脳機能障害の作業療法」鎌倉矩子・本田留美 著 三輪書店  
「リハビリスタッフ・支援者のためのやさしくわかる高次脳機能障害」和田義明 著 秀和システム  
「脳解剖から学べる高次脳機能障害リハビリテーション入門」安保雅博 監修 診断と治療社

備考：履修者への要望

日常生活のあらゆる場面において、高次脳機能は深く関わっています。今どのような高次脳機能が働いているのか、もしその機能がなければどのような不都合が生じるのか、折に触れ、考える習慣をつけてみてください。決して「目に見えない障害」ではありません。また、「身体障害作業治療学Ⅱ」や「神経学」など、脳の障害を扱う科目と内容が関連します。各科目の予習・復習も合わせて進めておいて下さい。

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
義肢装具学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	15時間
担当教員名					
廣渡 洋史					
実務経験のある教員					
授業概要					
義手・装具・スプリントを知る。その中で、特に作業療法士の関わる上肢における義手・装具・スプリントを学ぶ。特にOTが直接かかわることが多い装具・スプリントはその種類・適応について深く理解する。					
学習到達目標					
知識・理解	①各疾患の特徴・障害像を説明できる。(DP1) ②障害像を理解したうえで、必要な評価項目を列挙することができる。(DP1) ③各疾患における作業療法アプローチについて説明できる。(DP1) ④上肢切断の義手適応・拘縮手におけるスプリントの適応および評価、作業療法プログラムを説明できる。(DP1) ⑤各疾患に対して使用する装具のデザインと目的、必要な評価、装具の使用法を説明できる。(DP1)				
思考・判断 ・表現					
技能					
関心・意欲 ・態度					
授業形態					
講義	講義は、教科書とプリント配布物で行う。義手と装具は実物に触れて理解を深める。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	廣渡	オリエンテーション 切断	切断総論 : 教科書 p 4-6		
2	廣渡	義手	義手の構造と部品・肩義手・上腕義手 : 教科書 p 12-32		
3	廣渡	義手	手部義手・筋電義手 : 教科書 p 40-58		
4	廣渡	義手	義手の訓練、チェックアウト、筋電義手の評価と訓練 : 教科書 p 88-141		
5	廣渡	義足・上肢装具	義足各論・上肢装具各論 : 教科書 p 154-193、 p 198-231		
6	廣渡	上肢装具	上肢装具各論 : 教科書 p 232-257		
7	廣渡	上肢装具・義足	スプリント各論 : 教科書 p 200-230		
8	廣渡	体幹装具・下肢装具	体幹装具・下肢装具各論 (要点のみ) : 教科書 p 278-394		

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法						
	筆記試験	●				80	①②③④⑤
	小テスト	●				20	①②③④⑤
評価の 特記事項	適宜小テストを実施する。小テスト・定期試験結果が60点に満たない場合、再試験の対象となる。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
事前学習：指定した教科書のページの予習（1時間）。 事後学習：講義後は、教科書を読み直すなどの復習（1時間）。							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
小テストは授業で返却する。筆記試験は研究室に保管しているので事前に連絡の上、内容を確認することができる。							
教科書							
「リハビリテーション義肢装具学」 清水順一 MEDICALVIEW 2017年							
参考図書							
随時、配布するプリント							
備考：履修者への要望							
できるだけ実物に触れて理解を深めるように心がけるようにしてください。							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
義肢装具学実習	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
廣渡 洋史					
実務経験のある教員					
授業概要					
熱可塑性プラスチックを用いてスプリントの作成を行う。評価・採型からチェックアウトまで行い、技術を習得していく。代表的なスプリントを作成し、その技術を身につける。					
学習到達目標					
知識・理解	①作成を通して、特に失敗したことを体で覚えて理解する。(DP1)				
思考・判断 ・表現	②スプリント作成だけに気を取られずに、対象者への対応を同時に注意して行動ができる。(DP3)				
技能	③樹脂の特性を理解して作成することができる。(DP1)				
関心・意欲 ・態度					
授業形態					
実習	最初の講義以外は全て実習形式で行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	廣渡	スプリント作成の事前知識	スプリント作成を作成するにあたり、必要な知識と作成の物品などの種類・取り扱いについて学ぶ。熱可塑性樹脂の裁断まで行う。		
2	廣渡	掌側カックアップ	説明（作り方や注意点を知る）・作成を開始する（採型）		
3	廣渡	掌側カックアップ	作成（説明通りに作る）		
4	廣渡	背側カックアップ	説明（作り方や注意点を知る）・作成を開始する（採型）		
5	廣渡	背側カックアップ	作成（説明通りに作る）		
6	廣渡	短対立スプリント	説明（作り方や注意点を知る）・作成を開始する（採型）		
7	廣渡	短対立スプリント	作成（説明通りに作る）		
8	廣渡	アウトリガースプリント	説明（作り方や注意点を知る）・作成を開始する（採型）		
9	廣渡	アウトリガースプリント	作成（説明通りに作る）		

10	廣渡	サムスパイカスプリント	説明（作り方や注意点を知る）・作成を開始する（採型）					
11	廣渡	サムスパイカスプリント	作成（説明通りに作る）					
12	廣渡	ジョイントジャック	説明（作り方や注意点を知る）・作成を開始する（採型）					
13	廣渡	ジョイントジャック	作成（説明通りに作る）					
14	廣渡	8の字スプリント スタックスプリント	説明（作り方や注意点を知る）・作成を開始する（採型）・作成（説明通りに作る）					
15	廣渡	総括	スプリント・装具の違いや特徴についてまとめる					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合（%）	到達目標
	評価方法							
	レポート提出物		●	●			80	①②
	製作物				●		20	③
評価の 特記事項	レポートは作成の準備、方法、失敗したことを主に記載してください。製作物の出来が評価ではなく、失敗を恐れずいかに製作したか意識して製作してください。レポート未提出者・製作物未提出者は未修得となりますので注意してください。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
主に手に関する解剖・運動学の予習をしてください。（約2時間） 授業後は忘れないうちに作成に関する事項をメモをとりレポート記載を始めてください。（約1時間）								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
レポート記載にあたり、作成にあたる課題解決のポイントや質問事項を担当教員に質問してください。								
教科書								
随時、配布するプリント								
参考図書								
「リハ実践テクニック ハンドセラピー」 齋藤慶一郎 MEDICALVIEW 2014年 「リハビリテーション義肢装具学」 清水順一 MEDICALVIEW 2017年								
備考：履修者への要望								
まず楽しむこと。理解したことを実践し、実践の中で失敗を恐れず体で覚えるように心がけてください。								



授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
作業科学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	3学年	必修	1単位	15時間
担当教員名					
清水 一輝					
実務経験のある教員					
清水一輝：作業療法士として勤務し、作業科学の知識を活用した作業療法実践を行ってきた実績のある教員が、作業科学について講義を行う。					
授業概要					
作業科学は、作業と健康との関係や作業の性質について理解を深める学問です。作業療法士にとって、作業療法の独自性を支え、効果的に実践へのアイデアを得るものとして作業科学は発展してきました。本講義では、作業について様々な視点から理解を深め、実践にどのように活かせるかも学習していきます。					
学習到達目標					
知識・理解	①作業科学の歴史について説明できる (DP1) ②作業とは何か説明できる (DP1) ③健康になるための作業の特徴を列挙できる (DP1) ④作業的公正／不公正について説明できる (DP1)				
思考・判断 ・表現					
技能	⑤社会の課題を作業の視点で捉えることができる (DP1, 2, 5) ⑥健康につながる作業を考えることができる (DP1, 2, 5)				
関心・意欲 ・態度	⑦学んだ作業の知識が、どのように実践のアイディアにつながるのか、自分の意見を述べるができる (DP2, 3, 5)				
授業形態					
講義	講義、グループワーク				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	清水	作業科学とは	作業科学の歴史について理解し、作業科学がどのように発展してきたかを知る		
2	清水	作業とは／作業に基づいた実践	作業科学における作業の意味や作業の捉え方について学習する		
3	清水	健康に影響を与える作業とは	どのような作業が健康につながるのか、どのような工夫をすることで健康になるのかを学習する		
4	清水	健康に影響を与える作業の経験	健康に与える作業を実際に経験することで作業の力を知る		
5	清水	作業的公正／不公正について	作業的公正／不公正、作業権について研究から学習する		
6	清水	作業の視点で捉える社会の課題	作業の視点で実習での経験を振り返り、課題であると捉えられる事柄を探し、共有する		
7	清水	作業科学と作業療法	作業科学の知識を応用し、臨床実習で担当した事例の評価・治療内容を再検討しながら、作業科学と作業療法のつながりについて学ぶ		
8	清水	実践についての報告と講義のまとめ	作業科学の視点で振り返った実践について意見交換をする中で、今後の実践に活かせる知識を共有する		

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法	レポート	●		●		80
	参加貢献度			●	●	20	⑤⑥⑦
評価の 特記事項	すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、レポートの再提出を課す。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
各回の授業テーマに合わせて主に教科書を予習する。（1時間） 講義で課題として出された内容について復習をする。（1時間）							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
講義の中で課題について適宜フィードバックします							
教科書							
吉川ひろみ：「作業」って何だろう 作業科学入門 第2版 医歯薬出版 2017							
参考図書							
作業科学、Ruth Zemke&Florence Clark 監訳 佐藤 剛、三輪書店、1999.							
備考：履修者への要望							
作業科学は作業療法士にとってその実践を支える重要な学問です。講義のみで作業科学を理解することは難しい面もあるかと思いますが、講義以外の時間にも作業の知識を学び、理解を深めていってください。							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
人間作業モデル論	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	3学年	必修	1単位	15時間
担当教員名					
清水 一輝					
実務経験のある教員					
清水一輝：病院・施設にて、作業療法士としての実務経験を有する教員が、人間作業モデルについて講義する					
授業概要					
作業療法の治療理論の一つである人間作業モデルについてその概略、治療的技術を説明する。加えて、人間作業モデルに用いられる評価方法について説明し、授業の中で使用することで臨床現場において応用できるようにする。					
学習到達目標					
知識・理解	①人間作業モデルについて述べるができる。(DP1) ②人間作業モデルの理論基盤を述べるができる。(DP1)				
思考・判断 ・表現	③人間作業モデルの評価方法について説明できる。(DP5)				
技能	④人間作業モデルの評価を用いることができる。(DP5)				
関心・意欲 ・態度					
授業形態					
講義	教科書を元に講義形式で行う。評価の実施や事例学習はグループで行うアクティブラーニングの形式を用いる。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	清水	人間作業モデルとは ①概念	人間作業という概念・人と環境間の交流 教科書：第1章～第3章		
2	清水	人間作業モデルとは ②4つの要素	意思・習慣化・遂行能力・環境 教科書：第4章～第7章		
3	清水	人間作業モデルとは ③行為の諸次元	行為の諸次元・ナラティブ・発達 教科書：第8章～第10章		
4	清水	人間作業モデルとは ④過程とリーズニング	作業療法の過程とリーズニング 教科書：第11章～第14章		
5	清水	人間作業モデルで用いられる評価 ①観察・報告	観察評価・自己報告 教科書：第15章～第16章		
6	清水	人間作業モデルで用いられる評価 ②面接	面接評価・総合的評価 教科書：第17章～第18章		
7	清水	評価の実践 事例提示	人間作業モデルの評価法を用いて評価を行う 事例学習		
8	清水	事例説明	事例学習		

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	レポート	●	●				80
参加貢献度				●		20	④
評価の 特記事項	すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、レポートの再提出を課す。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
（予習）教科書の該当箇所を十分読んでください。（約1時間） （復習）教科書や配布プリントを読み、講義内容を復習してください。（約1時間）							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
講義の中で課題について適宜フィードバックします							
教科書							
「人間作業モデル理論と応用 改訂第5版」 Gary Kielhofner 編著山田 孝 監訳 協同医書出版社							
参考図書							
なし							
備考：履修者への要望							
作業療法の治療モデルの一つである人間作モデルに関する講義です。十分理解するように授業を受けて下さい。							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
リハビリテーション関連機器	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
渡邊 豊明					
実務経験のある教員					
渡邊 豊明：医療機関で作業療法士として勤務経験のある教員が、ADL、移乗・移動、食事、整容、入浴、排泄、更衣の各ADLにおいて使用するリハビリテーション関連機器の適用や使用方法、導入する際の選定のポイントについて講義する。					
授業概要					
作業療法介入の手段として、リハビリテーション関連機器を用いることがある。本講義では、ADL、移乗・移動、食事、整容、入浴、排泄、更衣の各ADLにおいて使用するリハビリテーション関連機器の適用や使用方法、導入する際の選定のポイントについて学ぶ。また、福祉用具等の展示施設に参加し、実際の機器に触れ、さらに最新の機器についての情報を収集しながら、リハビリテーション関連機器についての理解を深める。					
学習到達目標					
知識・理解	①ADL、IADLで用いるリハビリテーション関連機器の使用方法を説明できる。(DP1) ②各疾患患者による、リハビリテーション関連機器を用いた生活の仕方の違いを比較できる。(DP1) ③住宅改修上の注意点を説明できる。(DP1)				
思考・判断 ・表現	④最新のリハ関連機器について、その使用方法や利点、対象について調べて表現することができる。(DP1)				
技能	⑤レポート、スライドにまとめ、疾患別の内容を発表できる。(DP1)				
関心・意欲 ・態度	⑥積極的に授業に参加し、意見交換ができる。(DP1)				
授業形態					
講義	講義は、双方向性の授業を展開する。授業後半には、グループワークを用いて知識を深める。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	渡邊	オリエンテーション、福祉用具	オリエンテーション、福祉用語総論から作業療法士の役割、福祉用具適応論、リスクマネジメントについてについて 教科書：pp1-32		
2	渡邊	福祉用具の適用	起居、移乗動作について 教科書：pp33-50		
3	渡邊	福祉用具の適用	勢、移動について 教科書：pp52-73		
4	渡邊	福祉用具の適用	更衣、整容と排泄について 教科書：pp74-82		
5	渡邊	福祉用具の適用	食事、家事について 教科書：pp83-94		
6	渡邊	疾患別福祉用具使用例	頸髄損傷、脳血管障害、関節リウマチについて 教科書：pp107-122		
7	渡邊	疾患別福祉用具使用例	行性疾患、脳性麻痺、認知症、精神障害について 教科書：pp122-152		
8	渡邊	住環境整備	作業療法と環境整備について 教科書：pp153-163		
9	渡邊	住環境整備	住宅改造について 教科書：pp164-173		

10	渡邊	疾患別の留意点	頸髄損傷、脳血管障害、関節リウマチ、進行性疾患、脳性麻痺の住宅改修留意点について 教科書：pp180-186					
11	渡邊	コミュニケーション，環境制御装置，福祉車両など	コミュニケーション機器、環境制御装置、福祉車両について 教科書：pp98-106、178-180					
12	渡邊	症例検討発表会準備	疾患別福祉用具、住宅改修についての発表準備					
13	渡邊	症例検討発表会	疾患別福祉用具、住宅改修についての発表					
14	渡邊	国家試験対策	福祉用具、住宅改修の国家試験問題について					
15	渡邊	講義のまとめ	まとめ					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	小テスト		●				30	①②③
	レポート		●	●	●	●	50	①②③
	授業、発表時の参加態度			●	●	●	20	④⑤
評価の特記事項		毎回、授業の最初に小テストを実施する。 すべての評価方法の合計点数が6割に達しなかった場合、再試験を実施する。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
事前学習：指定した教科書のページの予習（1時間）。 事後学習：講義後は、教科書を読み直すなどの復習（1時間）。小テストの対策（30分）。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
小テストは授業で返却する。筆記試験は研究室に保管しているので事前に連絡の上、内容を確認することができる。レポートは後日返却をする。								
教科書								
「作業療法技術学2 福祉用具の使い方、住環境整備」 日本作業療法士協会 協同医書出版 2016年								
参考図書								
随時配布するプリントなど								
備考：履修者への要望								
リハビリテーション関連機器は様々な種類があり、新製品の開発にも力がそそがれている。講義の中だけでなく、自ら積極的に調べ理解を深めること。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
地域作業療法学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
渡邊 豊明					
実務経験のある教員					
渡邊 豊明：介護保険施設での実務経験を有する教員が、地域作業療法の講義を実施する。					
授業概要					
地域における作業療法士の役割は、近年益々重要度を増している。地域リハビリテーションの背景と歴史を学び、それを支える制度・支援・連携について理解する。自らの住む地域の資源を把握するとともに、事例を通して地域リハビリテーションの実際について学ぶ。さらに、地域包括ケアシステムの中の作業療法の実際について学び、地域で求められる作業療法士の役割について、自らの考えを持つことを目的とする。					
学習到達目標					
知識・理解	①地域リハビリテーションの背景と歴史について説明できる。(DP1,6) ②介護保険制度の概要について説明できる。(DP1)				
思考・判断 ・表現	③自分の住む街の地域資源を調べ、報告することができる。(DP6) ④事例を通して、地域作業療法の実際について理解し、伝えることができる。(DP5,6)				
技能					
関心・意欲 ・態度	⑤地域で求められる作業療法士の役割について、自らの考えを述べるができる。(DP6)				
授業形態					
講義	事例報告や、地域資源に関する調査学習等のアクティブラーニングを取り入れて進めます。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	渡邊	地域リハビリテーション活動の歴史 地域リハビリテーションの考え方と 定義	地域リハビリテーション活動の歴史について学ぶ。 第I章 地域リハビリテーションの考え方と定義について学ぶ。 第II章		
2	渡邊	地域リハビリテーションの諸サー ビス	地域リハビリテーションの諸サービスについて学ぶ。 第III章		
3	渡邊	介護保険とリハビリテーション	介護保険とリハビリテーションについて学ぶ。 第IV章		
4	渡邊	地域リハビリテーションのシステム	地域リハビリテーションのシステムについて学ぶ。 第V章		
5	渡邊	事例報告	事例報告（各自で事例についてまとめる）		
6	渡邊	事例検討	事例検討（解説）		
7	渡邊	事例検討	事例検討（解説）		
8	渡邊	事例検討	事例検討（発表）		
9	渡邊	事例検討	レポート作成		

10	渡邊	地域作業療法動画学習	ユマニチュード動画視聴 1					
11	渡邊	地域作業療法動画学習	ユマニチュード動画視聴2					
12	渡邊	地域作業療法動画学習	プロフェッショナル視聴					
13	渡邊	地域作業療法動画学習	涙の滴視聴					
14	渡邊	本学園のデイケアについて	デイケア見学について考える					
15	渡邊	まとめ	まとめ					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	課題レポート		●	●	●		90	①～⑤
	参加態度					●	10	①～⑤
評価の 特記事項	レポートはルーブリックで評価します。 参加態度は主に、授業アンケートで実施します。							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
<p>（予習）教科書の該当ページを読み、事前に専門用語を理解しておくようにしてください。介護保険制度等についての報道に関心を寄せるよう心がけてください。自分の住む街の地域資源を調べ、報告していただきます。（約1時間）</p> <p>（復習）授業内容を振り返り、前回の内容と統合を図りながら理解に努めてください。（約1時間）</p>								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
レポートはルーブリックにて評価し、点数やコメントをつけて、速やか返却します。								
教科書								
「地域リハビリテーション論」 大田仁史編 三輪書店								
参考図書								
なし								
備考：履修者への要望								
地域で求められる作業療法士について学び、自らの住む地域に置き換えて、自分が何ができそうか一緒に考えて行きましょう。								



授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
地域作業療法実習	リハビリテーション学科 作業療法専攻	1学年	必修	1単位	45時間
担当教員名					
横山 剛、渡邊 豊明、外倉 由之					
実務経験のある教員					
渡邊豊明・外倉由之・横山剛：介護保険施設での勤務経験を有する教員が、地域作業療法の講義を実施する。					
授業概要					
<p>本科目は、地域作業療法が実施されている施設を見学し、その目的を理解する。具体的には、デイケアでのレクリエーション実習の経験を通して、地域リハビリテーション・地域作業療法の実践を理解し、地域の社会資源や、そこに関わる専門職種について学び、その中で求められる作業療法士の役割について学習する。さらに、レクリエーション実習を実施することにより、計画立案・他者との協力を経験し、高齢期障害を持つ対象者との適切な関わりを学ぶ。地域における作業療法の実践を学び、臨地での経験を積むため、法人内のデイケアセンターで臨床実習を行う。</p>					
学習到達目標					
知識・理解					
思考・判断 ・表現	①地域作業療法が実施されている施設を見学し、その目的を説明することができる。(DP1・6) ②対象者を評価するための視点について説明することができる。(DP1・5)				
技能	③対象者を評価するための視点を実際プログラムと結びつけ、レクリエーション内容を計画できる。(DP1・5) ④老年期障害を持つ対象者に対する効果的なレクリエーションを実施することができる。(DP1・5) ⑤レクリエーションを実施することを通して、対象者を評価することができる。(DP1・5)				
関心・意欲 ・態度	⑥老年期障害を持つ対象者と、適切に関わることができる。(DP4) ⑦グループワークにおいて、自らの役割を果たし、他者と協調できる。(DP3)				
授業形態					
実習	グループでのディスカッション、体験学習、グループ発表、レポート提出など				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	渡邊	オリエンテーション 施設見学概要説明	科目全体のオリエンテーション 地域作業療法におけるレクリエーションの説明 施設見学の概要・留意点の説明		
2	渡邊	レクリエーション計画立案	グループ単位で、レクリエーション計画を立案		
3	渡邊	施設見学	グループ単位で、施設見学を実施 見学内容のまとめ		
4	外倉	レクリエーション計画立案	グループ単位で、レクリエーション計画を立案		
5	横山	地域関連動画視聴	動画を視聴し、地域で起こる問題事象を考える		
6	横山	地域関連動画視聴	動画を視聴し、地域で起こる問題事象を考える		
7	外倉	コグニサイズ	コグニサイズについて学ぶ		
8	外倉	レクリエーション計画立案	グループ単位で、レクリエーション計画を修正し、再度立案		
9	外倉	コグニサイズ実践	コグニサイズを実践する		

10	渡邊	シナプソロジー	シナプソロジーを学ぶ
11	渡邊	シナプソロジー実践	シナプソロジーを実践する
12	外倉	レクリエーション計画立案	グループ単位で、レクリエーション計画を修正し、再度立案
13	横山	地域関連動画視聴	動画を視聴し、地域で起こる問題事象を考える
14	横山	地域関連動画視聴	動画を視聴し、地域で起こる問題事象を考える
15	外倉	レクリエーション準備	グループ単位で、レクリエーションに必要な物品を作成し、練習を実施
16	外倉	レクリエーション準備	グループ単位で、レクリエーションに必要な物品を作成し、練習を実施
17	渡邊	レクリエーション発表	グループ単位で、学生を対象として、レクリエーションを模擬的に実施し、修正点を検討
18	渡邊	レクリエーション発表	グループ単位で、学生を対象として、レクリエーションを模擬的に実施し、修正点を検討
19	渡邊	レクリエーション発表 (2回目)	グループ単位で、学生を対象として、レクリエーションを模擬的に実施し、さらに修正
20	渡邊	レクリエーション発表 (2回目)	グループ単位で、学生を対象として、レクリエーションを模擬的に実施し、さらに修正
21	渡邊	レクリエーション実施	老年期障害を持つ対象者に対するレクリエーションを、施設にて実際の対象者に実施
22	外倉	清須市民げんき大学 演習 参加・振り返り	清須市民げんき大学 演習 参加・振り返り
23	外倉	“レクリエーション実習 振り返り、まとめ”	レクリエーション実習について振り返る、まとめ

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	レポート			●	●		50	①②③⑤
	参加貢献度				●	●	50	④⑥⑦

評価の特記事項	提出物は、レクリエーション計画書・レクリエーション実施後レポート・清須市民げんき大学演習後レポートなどである。 基本的に再試験は実施しない。 ※本来は1年次に地域実習等を計画していたが、コロナ禍にて2年生の授業に振替を行っている。
---------	---

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

（予習・復習）施設見学実習前の、実習施設に関する情報収集や、レクリエーション実習の計画立案・準備・練習は授業時間外にも積極的に行うようにしてください。（約1～2時間）

課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法

- ・レクリエーション計画レポートは、提出期限を指定して、複数回提出していただき、その都度フィードバックを行います。
- ・レクリエーションの発表練習の際には、その場でフィードバックを行っていきます。

教科書

なし

参考図書

授業中に紹介します。

備考：履修者への要望

- ・グループワークを円滑に進めるため、各自が責任を持って積極的・協力的に行動してください。
- ・見学の際、受身的な態度では何も学びとることはできません。積極的に自ら学ぼうとする態度で臨んでください。
- ・実習の際は、実際に対象者と関わり触れることになるため、安全面（精神的・身体的）への配慮を怠らないでください。

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
地域作業療法学実習	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	45時間
担当教員名					
渡邊 豊明、外倉 由之、横山 剛					
実務経験のある教員					
渡邊豊明・外倉由之・横山剛：介護保険施設での勤務経験を有する教員が、地域作業療法の講義を実施する。					
授業概要					
<p>本科目は、地域作業療法が実施されている施設を見学し、その目的を理解する。具体的には、デイケアでのレクリエーション実習の経験を通して、地域リハビリテーション・地域作業療法の実践を理解し、地域の社会資源や、そこに関わる専門職種について学び、その中で求められる作業療法士の役割について学習する。さらに、レクリエーション実習を実施することにより、計画立案・他者との協力を経験し、高齢期障害を持つ対象者との適切な関わりを学ぶ。地域における作業療法の実践を学び、臨地での経験を積むため、法人内のデイケアセンターで臨床実習を行う。</p>					
学習到達目標					
知識・理解					
思考・判断 ・表現	①地域作業療法が実施されている施設を見学し、その目的を説明することができる。(DP1・6) ②対象者を評価するための視点について説明することができる。(DP1・5)				
技能	③対象者を評価するための視点を実際プログラムと結びつけ、レクリエーション内容を計画できる。(DP1・5) ④老年期障害を持つ対象者に対する効果的なレクリエーションを実施することができる。(DP1・5) ⑤レクリエーションを実施することを通して、対象者を評価することができる。(DP1・5)				
関心・意欲 ・態度	⑥老年期障害を持つ対象者と、適切に関わることができる。(DP4) ⑦グループワークにおいて、自らの役割を果たし、他者と協調できる。(DP3)				
授業形態					
実習	グループでのディスカッション、体験学習、グループ発表、レポート提出など				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	渡邊	オリエンテーション 施設見学概要説明	科目全体のオリエンテーション 施設見学の概要・留意点の説明	地域作業療法におけるレクリエーションの説明	
2	渡邊	レクリエーション計画立案	グループ単位で、レクリエーション計画を立案		
3	渡邊	施設見学	グループ単位で、施設見学を実施	見学内容のまとめ	
4	外倉	レクリエーション計画立案	グループ単位で、レクリエーション計画を立案		
5	横山	地域関連動画視聴	動画を視聴し、地域で起こる問題事象を考える		
6	横山	地域関連動画視聴	動画を視聴し、地域で起こる問題事象を考える		
7	外倉	コグニサイズ	コグニサイズについて学ぶ		
8	外倉	レクリエーション計画立案	グループ単位で、レクリエーション計画を修正し、再度立案		
9	外倉	コグニサイズ実践	コグニサイズを実践する		

10	渡邊	シナプソロジー	シナプソロジーを学ぶ
11	渡邊	シナプソロジー実践	シナプソロジーを実践する
12	外倉	レクリエーション計画立案	グループ単位で、レクリエーション計画を修正し、再度立案
13	横山	地域関連動画視聴	動画を視聴し、地域で起こる問題事象を考える
14	横山	地域関連動画視聴	動画を視聴し、地域で起こる問題事象を考える
15	外倉	レクリエーション準備	グループ単位で、レクリエーションに必要な物品を作成し、練習を実施
16	外倉	レクリエーション準備	グループ単位で、レクリエーションに必要な物品を作成し、練習を実施
17	渡邊	レクリエーション発表	グループ単位で、学生を対象として、レクリエーションを模擬的に実施し、修正点を検討
18	渡邊	レクリエーション発表	グループ単位で、学生を対象として、レクリエーションを模擬的に実施し、修正点を検討
19	渡邊	レクリエーション発表 (2回目)	グループ単位で、学生を対象として、レクリエーションを模擬的に実施し、さらに修正
20	渡邊	レクリエーション発表 (2回目)	グループ単位で、学生を対象として、レクリエーションを模擬的に実施し、さらに修正
21	渡邊	レクリエーション実施	老年期障害を持つ対象者に対するレクリエーションを、施設にて実際の対象者に実施
22	外倉	清須市民げんき大学 演習 参加・振り返り	清須市民げんき大学 演習 参加・振り返り
23	外倉	“レクリエーション実習 振り返り、まとめ”	レクリエーション実習について振り返る、まとめ

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法						
	レポート		●	●		50	①②③⑤
	参加貢献度			●	●	50	④⑥⑦

評価の特記事項	提出物は、レクリエーション計画書・レクリエーション実施後レポート・清須市民げんき大学演習後レポートなどである。 基本的に再試験は実施しない。 ※本来は1年次に地域実習等を計画していたが、コロナ禍にて2年生の授業に振替を行っている。
---------	---

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

（予習・復習）施設見学実習前の、実習施設に関する情報収集や、レクリエーション実習の計画立案・準備・練習は授業時間外にも積極的に行うようにしてください。（約1～2時間）

課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法

- ・レクリエーション計画レポートは、提出期限を指定して、複数回提出していただき、その都度フィードバックを行います。
- ・レクリエーションの発表練習の際には、その場でフィードバックを行っていきます。

教科書
なし
参考図書
授業中に紹介します。
備考：履修者への要望
<ul style="list-style-type: none"><li>・グループワークを円滑に進めるため、各自が責任を持って積極的・協力的に行動してください。</li><li>・見学の際、受身的な態度では何も学びとることはできません。積極的に自ら学ぼうとする態度で臨んでください。</li><li>・実習の際は、実際に対象者と関わり触れることになるため、安全面（精神的・身体的）への配慮を怠らないでください。</li></ul>

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
就労支援学	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	3学年	必修	1単位	15時間
担当教員名					
横山 剛					
実務経験のある教員					
横山 剛：医療機関で作業療法士として勤務経験のある教員の指導のもと、心理社会的発達について理解することを目標に、学生が自身のこれまでの心理社会的発達および職業的発達を確認し、作業療法士になろうとしている自身の課題を探る授業である。					
授業概要					
<p>本科目は、まず人の欲求についてMaslowの欲求階層説に触れ、人が働くという意味について講義形式で学修する。次に、人の職業的発達について概観し、自身がどのような発達を遂げながら現在に至ったのかについてワークシートを用いて解釈していく。その際には、「自身の職業的発達の説明」や「他者の職業的発達の聞き取り」について他者の視点を取り入れるため、少人数形式で演習を交えながら行う。</p> <p>さらに、これらの内容を元に、他の科目で学んだ障害特性と関連付け、障害就労援助や支援方法について考察する。</p>					
学習到達目標					
知識・理解	①人が働く意味について心理社会的発達の理論から説明できる<DP1> ②障害者雇用の現状を説明できる<DP2> ③障害者雇用の政策について説明できる<DP2> ④障害者雇用の支援について説明できる<DP1>				
思考・判断 ・表現					
技能					
関心・意欲 ・態度	⑤自身の職業的発達について整理し作業療法士になることの意味を説明できる<DP6>				
授業形態					
講義	講義、グループディスカッション、ディスカッションした内容のプレゼンテーション				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	横山	障害者の就業の現状	障害者の雇用の現状について		
2	横山	心理社会的発達について	乳幼児期、学童期の発達課題		
3	横山	心理社会的発達について②	青年期発達課題について①		
4	横山	職業的発達について	職業的発達 課題レポートの説明		
5	横山	心理社会的発達について③	成人期、中年期発達課題について		
6	横山	心理社会的発達について④	老年期の発達課題について		
7	横山	自身の職業的発達について	振り返りとレポート		
8	横山	まとめ	まとめ		

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法						
	レポート	●			●	40	①②③④⑤
	参加貢献度	●			●	30	①②③④⑤
	プレゼンテーション内容	●			●	30	①②③④⑤
評価の 特記事項	レポート課題（40%）、授業への参加貢献度（30%）、プレゼンテーション内容（30%）。60点の未満の場合は、再度レポートをしていただきます。						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
自身のこれまでの職業的発達について、発達段階ごとにレポートしてください（1回の講義につき2時間程度）。							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
希望者には、レポート等について個別にフィードバックします。							
教科書							
授業中に資料を配布します。							
参考図書							
随時紹介します。							
備考：履修者への要望							
人の職業はどのように決まってくるのか、また人はなぜ働くのかについて心理社会的発達から理解し、自身の職業的発達についての理解を深めてください。							



授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数			
臨床実習Ⅰ(見学)	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	2単位	90時間			
担当教員名								
加藤 真夕美、横山 剛、渡邊 豊明、清水 一輝、松田 裕美、廣渡 洋史、外倉 由之								
実務経験のある教員								
横山 剛、廣渡洋史、加藤 真夕美、渡邊 豊明、清水 一輝、松田 裕美、外倉由之 以上の教員は、医療機関や福祉施設などで作業療法士として勤務した経験を有する。								
授業概要								
病院・施設における作業療法の実際を見学することにより、作業療法士の役割と責任を全体的に理解する。この臨床実習を通して、1年次に習得した医学的基礎知識が作業療法士の業務にどのように関連しているのかを理解し、2年次以降の専門的な知識の習得をより効果的かつ有意義に行うための準備としての目的をもつ。								
学習到達目標								
知識・理解	①作業療法士の役割や専門的な内容を体系的に理解する。(DP1, 2, 5, 6) ②症例を把握し、その問題解決の為に作業療法士としてできることを概念的に捉える。(DP1, 2, 5, 6)							
思考・判断 ・表現	③見学した施設の目的、役割、治療方針、施設組織及び作業療法部門の役割を把握し、その中でリハビリテーションとしての作業療法の意義を掴む。(DP1, 2, 3, 5, 6)							
技能	④これまでに学んだ基礎知識が実際にはどのような意味を持つのかを考え、これ以降の専門的な学習を通じての知識習得をより効果的かつ有意義に行えるように準備する。(DP1, 2, 3, 4, 5, 6)							
関心・意欲 ・態度	⑤作業療法士や他の医療スタッフとの交流によって、将来作業療法士になるための資質向上に役立てる。(DP1, 2, 3, 4, 5, 6)							
授業形態								
外部実習	医療、介護施設における臨床実習とする。なお、事前の実習前ガイダンス、及び実習後セミナー(いずれも演習形態)を含む。							
授 業 計 画								
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容					
	横山、廣渡、加藤、渡邊、清水、松田、外倉	実習前ガイダンス	実習のオリエンテーションを実施し、実習への心構え、態度、その他準備すべきことを周知する。その上で、各自必要な実習前学習を行う。					
	横山、廣渡、加藤、渡邊、清水、松田、外倉	医療・介護施設での見学実習	作業療法士の在籍する医療機関・介護施設へ赴き、規定の期間、実習目標が達成できるよう実習を行う。					
	横山、廣渡、加藤、渡邊、清水、松田、外倉	実習後セミナー	実習終了後、学内での実習報告会を実施し、実習報告レポートを本学へ提出する。実習報告レポートなどの内容については、実習前のガイダンスにて提示する。					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合(%)	到達目標
	評価方法		●	●	●	●	100	①②③④⑤
	総合評価とする。「評価の特記事項」を参照のこと。							
評価の特記事項	各施設において、実習指導者によって実習目標に基づいた具体的項目についての評価を受ける。その評価内容をもとに、実習後の報告会、レポート内容などを総合的にみて、学内の各専攻における実習判定会議にて、学習目標が達成できたと判断された場合に合格とする。実習前ガイダンスや実習後セミナー等、学内ガイダンス・報告会には必ず出席すること。正当な理由なき欠席の場合は、実習を見合わせることもある。また、不合格となることもある。							
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間								
予習：学内で学んだ内容を整理し、実習の準備を進めること。(5時間) 復習：経験した内容を振り返りまとめ、レポートを作成すること。学習内容に関する実習指導者からのフィードバック内容を踏まえて更に学習を深め、以後の学習に繋げられるようにすること。(5時間)								

<p>課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の実習内容や疑問点を記す「デイリーノート」は、基本的にはその翌日に実習指導者からフィードバックを受ける。</li> <li>・実習で学んだことをまとめる「実習レポート」は、実習中に実習指導者から随時フィードバックを受ける。</li> <li>・実習で学んだことは「実習後セミナー」で発表する。学生はセミナー用にレジメを作成する。発表の場で本学教員及び参加学生からのフィードバックを受ける。</li> </ul>
<p>教科書</p>
<p>これまでに使用した教科書や授業で配布した資料すべて</p>
<p>参考図書</p>
<p>関係成書</p>
<p>備考：履修者への要望</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「リハビリテーション、作業療法」について整理するとともに、現在の社会的背景や自分の考えも踏まえ説明ができるようにしましょう。</li> <li>・医療従事者として、社会人として身につけておくべき資質について考えまとめましょう。</li> <li>・実習中において、わからないことや疑問に思ったことは自ら調べまとめましょう。</li> <li>・作業療法士になるための総合的な学習の場として、臨床実習があります。知識、技術、態度など多角的に能力を高められるように取り組むことが大切です。</li> <li>・実習では多くのわからないことや疑問が出ます。実習指導者や本学教員の助言を積極的に仰ぎ、自己成長に繋げてください。</li> </ul>

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数	
臨床実習Ⅱ(地域)		リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	45時間	
担当教員名							
加藤 真夕美、横山 剛、渡邊 豊明、清水 一輝、松田 裕美、廣渡 洋史、外倉 由之							
実務経験のある教員							
横山 剛、廣渡洋史、加藤 真夕美、渡邊 豊明、清水 一輝、松田 裕美、外倉由之 以上の教員は、医療機関や福祉施設などで作業療法士として勤務した経験を有する。							
授業概要							
通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションを実施している病院・施設において、地域における作業療法の実際を見学することにより、地域包括ケアシステムの中での作業療法士の役割と責任を理解する。							
学習到達目標							
知識・理解	①地域における作業療法士の役割や責任を理解する。(DP1, 2, 5, 6) ②地域包括ケアシステムの中での多職種連携の実際を理解する。(DP1, 2, 5, 6)						
思考・判断 ・表現	③在宅生活を送る症例を把握し、その問題解決の為に作業療法士としてできることを概念的に捉える。 ④見学した施設の目的、役割を把握し、その中で地域リハビリテーションとしての作業療法の意義を掴む。(DP1, 2, 3, 5, 6)						
技能	⑤これまでに学んだ基礎知識が実際にはどのような意味を持つのかを考え、これ以降の専門的な学習を通じての知識習得をより効果的かつ有意義に行えるように準備する。(DP1, 2, 3, 4, 5, 6)						
関心・意欲 ・態度	⑥作業療法士や他の医療スタッフとの交流によって、将来作業療法士になるための資質向上に役立てる。(DP1, 2, 3, 4, 5, 6)						
授業形態							
外部実習	医療、介護施設における臨床実習とする。なお、事前の実習前ガイダンス、及び実習後セミナー(いずれも演習形態)を含む。						
授 業 計 画							
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容				
	横山、廣渡、加藤 渡邊、清水、松田 外倉	実習前ガイダンス	実習のオリエンテーションを実施し、実習への心構え、態度、その他準備すべきことを周知する。その上で、各自必要な実習前学習を行う。				
	横山、廣渡、加藤 渡邊、清水、松田 外倉	医療・介護施設での見学実習	作業療法士の在籍する医療機関・介護施設へ赴き、規定の期間、実習目標が達成できるよう実習を行う。				
	横山、廣渡、加藤 渡邊、清水、松田 外倉	実習後セミナー	実習終了後、学内での実習報告会を実施し、実習報告レポートを本学へ提出する。実習報告レポートなどの内容については、実習前のガイダンスにて提示する。				
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合(%)	到達目標
	評価方法						
	総合評価とする。「評価の特記事項」を参照のこと。	●	●	●	●	100	①②③④⑤⑥
評価の特記事項	各施設において、実習指導者によって実習目標に基づいた具体的項目についての評価を受ける。その評価内容をもとに、実習後の報告会、レポート内容などを総合的にみて、学内の各専攻における実習判定会議にて、学習目標が達成できたと判断された場合に合格とする。実習前ガイダンスや実習後セミナー等、学内ガイダンス・報告会には必ず出席すること。正当な理由なき欠席の場合は、実習を見合わせることもある。また、不合格となることもある。						
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間							
予習：学内で学んだ内容を整理し、実習の準備を進めること。(2.5時間) 復習：経験した内容を振り返りまとめ、レポートを作成すること。学習内容に関する実習指導者からのフィードバック内容を踏まえて更に学習を深め、以後の学習に繋げられるようにすること。(2.5時間)							

課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法

- ・日々の実習内容や疑問点を記す「デイリーノート」は、基本的にはその翌日に実習指導者からフィードバックを受ける。
- ・実習で学んだことをまとめる「実習レポート」は、実習中に実習指導者から随時フィードバックを受ける。
- ・実習で学んだことは「実習後セミナー」で発表する。学生はセミナー用にレジюмеを作成する。発表の場で本学教員及び参加学生からのフィードバックを受ける。

教科書

これまでに使用した教科書や授業で配布した資料すべて

参考図書

関係成書

備考：履修者への要望

- ・「リハビリテーション、作業療法」について整理するとともに、現在の社会的背景や自分の考えも踏まえ説明ができるようにしましょう。
- ・医療従事者として、社会人として身につけておくべき資質について考えまとめましょう。
- ・実習中において、わからないことや疑問に思ったことは自ら調べまとめましょう。
- ・作業療法士になるための総合的な学習の場として、臨床実習があります。知識、技術、態度など多角的に能力を高められるように取り組むことが大切です。
- ・実習では多くのわからないことや疑問が出ます。実習指導者や本学教員の助言を積極的に仰ぎ、自己成長に繋げてください。

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数			
臨床実習Ⅲ (総合1)	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	3学年	必修	7単位	315時間			
担当教員名								
横山 剛、加藤 真夕美、渡邊 豊明、清水 一輝、松田 裕美、廣渡 洋史、外倉 由之								
実務経験のある教員								
横山 剛、廣渡洋史、加藤 真夕美、渡邊 豊明、清水 一輝、松田 裕美、外倉由之 以上の教員は、医療機関や福祉施設などで作業療法士として勤務した経験を有する。								
授業概要								
作業療法についての知識・技能の学習の総括として、実習指導者の指導のもとにこれらを活用し、評価・治療計画・治療という一連の作業療法過程を実施し、ならびにそのために必要な記録・報告ができるようにする。また、作業療法部門の管理・運営に関する基本的事項についての自分の意見を持ち、医療専門職として責任ある態度・行動を取れるようになることを目的とする。								
学習到達目標								
知識・理解	①患者のもつ問題点やその原因をつかむために、必要かつ適切な評価を行うことができる。(DP1, 2, 3, 4, 5, 6)							
思考・判断 ・表現	②評価結果を基に具体的な治療計画を組むことができる。(DP1, 2, 3, 4, 5, 6)							
技能	③治療計画に沿って、実習指導者の指導のもとで適切な治療訓練ができる。(DP1, 2, 3, 4, 5, 6) ④作業療法士として必要な記録および報告ができる。(DP1, 2, 3, 4, 5, 6)							
関心・意欲 ・態度	⑤医療専門職に相応しい責任ある態度・積極的な行動ができる。(DP1, 2, 3, 4, 5, 6)							
授業形態								
外部実習	医療・介護施設における臨床実習とする。なお、事前の実習前ガイダンス、及び実習後セミナー（いずれも演習形態）を含む。 また、新型コロナウイルス感染症の影響で臨床実習が中止・中断となった学生に対しては、不足分の日数に対して、代替として学内演習を行う。							
授 業 計 画								
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容					
	横山、廣渡、加藤 渡邊、清水、松田 外倉	実習前ガイダンス	実習のオリエンテーションを実施し、実習への心構え、態度、その他準備すべきことを周知する。その上で、各自必要な実習前学習を行う					
	横山、廣渡、加藤 渡邊、清水、松田 外倉	医療・介護施設での臨床実習	作業療法士の在籍する医療・介護施設へ赴き、規定の期間、実習目標が達成できるよう実習を行う。 また、新型コロナウイルス感染症の影響で臨床実習が中止・中断となった学生に対しては、不足分の日数に対して、代替として学内演習を行う。					
	横山、廣渡、加藤 渡邊、清水、松田 外倉	実習後セミナー	実習終了後、学内での実習報告会、内容検討会などを実施し、実習報告レポートを本学へ提出する。(実習目標およびそれに関する詳細は、学修の手引き別頁の「臨床実習」を参照のこと。また、その他の詳細については、事前のガイダンスにて提示する)					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	総合評価		●	●	●	●	100	①②③④⑤
評価の 特記事項	各施設において、実習指導者によって実習目標に基づいた具体的項目についての評価を受ける。その評価内容をもとに、実習後の報告会、レポート内容などを総合的にみて、学内の各専攻における実習判定委員会にて、学習目標が達成できたと判断された場合に合格とする。事前、事後ガイダンス等、学内ガイダンス・報告会には必ず出席すること。正当な理由なき欠席の場合は、実習を見合わせることもある。また、不合格となることもある。 また、代替としての学内演習においては、デイリーレポート、症例レポート、国家試験過去問に基づいた専門知識の学習成果レポート、およびOSCE（臨床技能試験）結果を総合的に判断して評定する。							

<p>準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p> <p>（予習、復習：一日1時間、合計40時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「リハビリテーション、作業療法」について整理するとともに、現在の社会的背景や自身の考えも踏まえ説明ができるようにすること。</li> <li>・作業療法に必要な基礎的知識・専門知識を整理し、患者の障害像把握に努め、適切な検査測定、評価、ゴール設定、プログラム立案・実施ができるよう学習すること。</li> <li>・医療従事者として、社会人として身につけておくべき資質について考えまとめること。</li> <li>・実習中において、解らないことや疑問に思ったことは自ら調べまとめること。</li> <li>・実習後は、経験してきた内容を振り返りまとめ、以後の学習に繋がられるようにすること。</li> </ul>
<p>課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の実習内容や疑問点を記す「デイリーノート」は、基本的にはその翌日に実習指導者からフィードバックを受ける。</li> <li>・実習で学んだことをまとめる「症例ノート」と「症例レポート」は、実習中に実習指導者から随時フィードバックを受ける。</li> <li>・実習で学んだことは「実習後セミナー」で発表する。学生はセミナー用にレジュメを作成する。発表の場で本学教員及び参加学生からのフィードバックを受ける。</li> <li>・代替としての学内演習においては、「デイリーレポート」「症例レポート」「国家試験過去問に基づいた専門知識の学習成果レポート」および「OSCE（臨床技能試験）結果」について、教員により個別にフィードバックを受ける。また、クラスで成果発表し教員からフィードバックを受ける場を基本的に毎日設ける。</li> </ul>
<p>教科書</p> <p>これまでに使用した教科書や授業で配布した資料すべて</p>
<p>参考図書</p> <p>関係成書</p>
<p>備考：履修者への要望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法士になるための総合的な学習の場として、臨床実習があります。知識、技術、態度など多角的に能力を高められるように取り組むことが大切です。</li> <li>・実習では多くの解らないことや疑問が出ます。実習指導者や本学教員の助言を積極的に仰ぎ、自己成長に繋がってください。</li> </ul>

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数		
臨床実習Ⅳ (総合2)		リハビリテーション学科 作業療法学専攻	3学年	必修	7単位	315時間		
担当教員名								
横山 剛、加藤 真夕美、渡邊 豊明、清水 一輝、松田 裕美、廣渡 洋史、外倉 由之								
実務経験のある教員								
横山 剛、廣渡洋史、加藤 真夕美、渡邊 豊明、清水 一輝、松田 裕美、外倉由之 以上の教員は、医療機関や福祉施設などで作業療法士として勤務した経験を有する。								
授業概要								
作業療法についての知識・技能の学習の総括として、実習指導者の指導のもとにこれらを活用し、評価・治療計画・治療という一連の作業療法過程を実施し、ならびにそのために必要な記録・報告ができるようにする。また、作業療法部門の管理・運営に関する基本的事項についての自分の意見を持ち、医療専門職として責任ある態度・行動を取れるようになることを目的とする。								
学習到達目標								
知識・理解	①患者のもつ問題点やその原因をつかむために、必要かつ適切な評価を行うことができる。(DP1, 2, 3, 4, 5, 6)							
思考・判断 ・表現	②評価結果を基に具体的な治療計画を組むことができる。(DP1, 2, 3, 4, 5, 6)							
技能	③治療計画に沿って、実習指導者の指導のもとで適切な治療訓練ができる。(DP1, 2, 3, 4, 5, 6) ④作業療法士として必要な記録および報告ができる。(DP1, 2, 3, 4, 5, 6)							
関心・意欲 ・態度	⑤医療専門職に相応しい責任ある態度・積極的な行動ができる。(DP1, 2, 3, 4, 5, 6)							
授業形態								
外部実習	医療・介護施設における臨床実習とする。なお、事前の実習前ガイダンス、及び実習後セミナー(いずれも演習形態)を含む。 また、新型コロナウイルス感染症の影響で臨床実習が中止・中断となった学生に対しては、不足分の日数に対して、代替として学内演習を行う。							
授 業 計 画								
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容					
	横山、廣渡、加藤 渡邊、清水、松田 外倉	実習前ガイダンス	実習のオリエンテーションを実施し、実習への心構え、態度、その他準備すべきことを周知する。その上で、各自必要な実習前学習を行う					
	横山、廣渡、加藤 渡邊、清水、松田 外倉	医療・介護施設での臨床実習	作業療法士の在籍する医療・介護施設へ赴き、規定の期間、実習目標が達成できるよう実習を行う。 また、新型コロナウイルス感染症の影響で臨床実習が中止・中断となった学生に対しては、不足分の日数に対して、代替として学内演習を行う。					
	横山、廣渡、加藤 渡邊、清水、松田 外倉	実習後セミナー	実習終了後、学内での実習報告会、内容検討会などを実施し、実習報告レポートを本学へ提出する。(実習目標およびそれに関する詳細は、学修の手引き別頁の「臨床実習」を参照のこと。また、その他の詳細については、事前のガイダンスにて提示する)					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	総合評価		●	●	●	●	100	①②③④⑤
評価の特記事項		各施設において、実習指導者によって実習目標に基づいた具体的項目についての評価を受ける。その評価内容をもとに、実習後の報告会、レポート内容などを総合的にみて、学内の各専攻における実習判定委員会にて、学習目標が達成できたと判断された場合に合格とする。事前、事後ガイダンス等、学内ガイダンス・報告会には必ず出席すること。正当な理由なき欠席の場合は、実習を見合わせることもある。また、不合格となることもある。 また、代替としての学内演習においては、デイリーレポート、症例レポート、国家試験過去問に基づいた専門知識の学習成果レポート、およびOSCE(臨床技能試験)結果を総合的に判断して評定する。						

<p>準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p>
<p>（予習、復習：一日1時間、合計40時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「リハビリテーション、作業療法」について整理するとともに、現在の社会的背景や自身の考えも踏まえ説明ができるようにすること。</li> <li>・作業療法に必要な基礎的知識・専門知識を整理し、患者の障害像把握に努め、適切な検査測定、評価、ゴール設定、プログラム立案・実施ができるよう学習すること。</li> <li>・医療従事者として、社会人として身につけておくべき資質について考えまとめること。</li> <li>・実習中において、解らないことや疑問に思ったことは自ら調べまとめること。</li> <li>・実習後は、経験してきた内容を振り返りまとめ、以後の学習に繋がられるようにすること。</li> </ul>
<p>課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の実習内容や疑問点を記す「デイリーノート」は、基本的にはその翌日に実習指導者からフィードバックを受ける。</li> <li>・実習で学んだことをまとめる「症例ノート」と「症例レポート」は、実習中に実習指導者から随時フィードバックを受ける。</li> <li>・実習で学んだことは「実習後セミナー」で発表する。学生はセミナー用にレジメを作成する。発表の場で本学教員及び参加学生からのフィードバックを受ける。</li> <li>・代替としての学内演習においては、「デイリーレポート」「症例レポート」「国家試験過去問に基づいた専門知識の学習成果レポート」「およびOSCE（臨床技能試験）結果」について、教員より個別にフィードバックを受ける。また、クラスで成果発表し教員からフィードバックを受ける場を基本的に毎日設ける。</li> </ul>
<p>教科書</p>
<p>これまでで使用した教科書や授業で配布した資料すべて</p>
<p>参考図書</p>
<p>関係成書</p>
<p>備考：履修者への要望</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法士になるための総合的な学習の場として、臨床実習があります。知識、技術、態度など多角的に能力を高められるように取り組むことが大切です。</li> <li>・実習では多くの解らないことや疑問が出ます。実習指導者や本学教員の助言を積極的に仰ぎ、自己成長に繋げてください。</li> </ul>



授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
卒業研究	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
横山 剛、加藤 真夕美、渡邊 豊明、清水 一輝、松田 裕美、廣渡 洋史、外倉 由之					
実務経験のある教員					
授業概要					
この科目では、作業療法学専攻で学習した基礎・専門的な知識のもとに、作業療法研究法で学んだ研究の手法を使って進めた研究を、具体的に卒業論文としてまとめ上げることを最終目標としている。論文にまとめるためには、各自が、それぞれの研究テーマに沿って様々な調査や実験を行い、それらの結果を多くの先行文献などと比較検討しなくてはならない。それは、単に教科書を読むだけの学習にとどまらず、広く多角的な知識を得ることにつながる。このように、この科目では論文をまとめる過程を通して様々な形で学習機会を体験し、自らの研究成果を形として残すことが重要な柱となる。					
学習到達目標					
知識・理解					
思考・判断 ・表現	①研究計画を立案、実施し、その結果から論理的な考察を導き出すことができる。(DP2, 5) ②自らの研究の成果として、論文をまとめることができる。(DP2, 5)				
技能					
関心・意欲 ・態度					
授業形態					
演習	担当教員によるゼミ形式で行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	高田・山下・加藤 横山・清水	ガイダンス	別途連絡します		
2	高田・山下・加藤 横山・清水	研究の実施と論文作成	研究の実施と論文作成		
3	高田・山下・加藤 横山・清水	研究の実施と論文作成	研究の実施と論文作成		
4	高田・山下・加藤 横山・清水	研究の実施と論文作成	研究の実施と論文作成		
5	高田・山下・加藤 横山・清水	研究の実施と論文作成	研究の実施と論文作成		
6	高田・山下・加藤 横山・清水	研究の実施と論文作成	研究の実施と論文作成		
7	高田・山下・加藤 横山・清水	研究の実施と論文作成	研究の実施と論文作成		
8	高田・山下・加藤 横山・清水	研究論文作成	研究の実施と論文作成		

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法		●			80	②
	論文		●			20	①
	ゼミ参加						
評価の 特記事項	<p>作業療法研究法の単位が取得されていることが、本科目の評価対象者となる。 卒業研究論文として提出80%、指導教員のゼミ参加20%で評価する。人を対象とした論文では、愛知医療学院短期大学の倫理委員会の承認を受け行う。また、論文提出は指導教員の受理と指導を受けることを前提とする。 基本的に再試験は実施しない。</p>						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
<p>（予習・復習）研究は、ある特定の授業時間のみで進めるものではなく、各自の研究計画に沿って調査・実験をすすめるものです。それぞれの研究計画をしっかりと立てて遂行していきましょう。</p>							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
論文作成にあたり、指導教員のゼミに参加し積極的にフィードバックを受けましょう。							
教科書							
なし							
参考図書							
各分野成書							
備考：履修者への要望							
<p>本科目の中で、卒業論文をまとめ上げることは、本学在学中の学習において、総合的な学習成果が十分であるかどうかの指標になる大切な事項であります。それぞれが、各科目で学習した知識にとどまらず、実習や自己学習で得られた多くの知識を活かして、積極的に研究活動を進めることを望みます。</p>							

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
卒業研究	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	3学年	必修	1単位	15時間
担当教員名					
横山 剛、加藤 真夕美、渡邊 豊明、清水 一輝、松田 裕美、廣渡 洋史、外倉 由之					
実務経験のある教員					
<p>この科目では、作業療法学専攻で学習した基礎・専門的な知識のもとに、作業療法研究法で学んだ研究の手法を使って進めた研究を、具体的に卒業論文としてまとめ上げることを最終目標としている。論文にまとめるためには、各自が、それぞれの研究テーマに沿って様々な調査や実験を行い、それらの結果を多くの先行文献などと比較検討しなくてはならない。それは、単に教科書を読むだけの学習にとどまらず、広く多角的な知識を得ることにつながる。このように、この科目では論文をまとめる過程を通して様々な形での学習機会を体験し、自らの研究成果を形として残すことが重要な柱となる。</p>					
学習到達目標					
知識・理解					
思考・判断 ・表現	①研究計画を立案、実施し、その結果から論理的な考察を導き出すことができる。(DP2,5) ②自らの研究の成果として、論文をまとめることができる。(DP2,5)				
技能					
関心・意欲 ・態度					
授業形態					
演習	担当教員によるゼミ形式で行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	横山、加藤、渡邊 清水、松田、廣渡 外倉	ガイダンス	別途連絡します		
2	横山、加藤、渡邊 清水、松田、廣渡 外倉	研究の実施と論文作成	研究の実施と論文作成		
3	横山、加藤、渡邊 清水、松田、廣渡 外倉	研究の実施と論文作成	研究の実施と論文作成		
4	横山、加藤、渡邊 清水、松田、廣渡 外倉	研究の実施と論文作成	研究の実施と論文作成		
5	横山、加藤、渡邊 清水、松田、廣渡 外倉	研究の実施と論文作成	研究の実施と論文作成		

6	横山、加藤、渡邊 清水、松田、廣渡 外倉	研究の実施と論文作成	研究の実施と論文作成					
7	横山、加藤、渡邊 清水、松田、廣渡 外倉	研究の実施と論文作成	研究の実施と論文作成					
8	横山、加藤、渡邊 清水、松田、廣渡 外倉	研究論文作成	研究の実施と論文作成					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標	
	論文		●			80	②	
	ゼミ参加		●			20	①	
評価の 特記事項	<p>作業療法研究法の単位が取得されていることが、本科目の評価対象者となる。 卒業研究論文として提出80%、指導教員のゼミ参加20%で評価する。人を対象とした論文では、愛知医療学院短期大学の倫理委員会の承認を受け行う。また、論文提出は指導教員の受理と指導を受けることを前提とする。 基本的に再試験は実施しない。</p>							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
（予習・復習）研究は、ある特定の授業時間のみで進めるものではなく、各自の研究計画に沿って調査・実験をすすめるものです。それぞれの研究計画をしっかりと立てて遂行していきましょう。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
論文作成にあたり、指導教員のゼミに参加し積極的にフィードバックを受けましょう。								
教科書								
なし								
参考図書								
各分野成書								
備考：履修者への要望								
本科目の中で、卒業論文をまとめ上げることは、本学在学中の学習において、総合的な学習成果が十分であるかどうかの指標になる大切な事項であります。それぞれが、各科目で学習した知識にとどまらず、実習や自己学習で得られた多くの知識を活かして、積極的に研究活動を進めることを望みます。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
総合演習	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
石川 清、加藤 真弓、杉山 成司、宮津 真寿美、木村 菜穂子、松村 仁実、臼井 晴信、山田 南欧美、齊藤 誠、石黒 茂、種田 陽一、横山 剛、加藤 真夕美、清水 一輝、松田 裕美、渡邊 豊明、濱田 光佑、廣渡 洋史、外倉 由之					
実務経験のある教員					
加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・臼井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠・濱田 光佑 廣渡 洋史・横山 剛・加藤 真夕美・渡邊 豊明・清水 一輝・松田 裕美・外倉 由之 以上の教員は、医療機関や介護保険領域の施設等において理学療法士・作業療法士として勤務した経験を有する					
授業概要					
本演習は主として各講義や実習などで学んだ知識を整理し、卒業後の診療活動における専門職として必要な総合的能力を統合させることを目的とし、本学におけるすべての講義、演習、実習の成果を総括する。 理学療法士・作業療法士国家試験に必要な事項についての対策講義と、複数の教員によるゼミナール形式で、これまでに学習した内容をより臨床に向けて整理し、一人の理学療法士・作業療法士の専門家として活躍できるように準備を行う。 また、医療人としての素養としての救命救急や災害医療の知識や技術も身につけるものとする。					
学習到達目標					
知識・理解	①理学療法士・作業療法士国家試験に合格できるだけの総合的な知識を身につける(他者に適切に説明できる)(DP1) ②理学療法士・作業療法士としてだけでなく、一医療人、一社会人として医療施設、福祉施設、地域などにおいて求められる能力を理解することができる(DP1)				
思考・判断 ・表現	③理学療法士・作業療法士として臨床における問題解決能力を身につけることができる(DP1)				
技能	④理学療法士・作業療法士としてだけでなく、一医療人・社会人として必要な心肺蘇生法や災害医療におけるトリアージ等を実施できる(DP6)				
関心・意欲 ・態度					
授業形態					
演習	グループおよび個人において演習を行う				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1-2	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 臼井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	社会に出るにあたり ※2年次	就職活動についての必要事項の確認		
3-4	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 臼井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	国家試験について ※これ以降3年次	国家試験に向けての概要		
5-6	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 臼井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達分野		
7-8	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 臼井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進分野		

9-10	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 臼井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念分野					
11-12	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 臼井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	専門分野	【PT】理学療法評価学分野・治療学分野 【OT】作業療法評価学分野・治療学分野					
13-15	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 臼井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	まとめ	総まとめ					
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法							
	筆記試験		●	●	●		100	①②③④
評価の 特記事項	3年次の最終の筆記試験で100%評価する（受講態度などにより減点する場合もある） ※受験要件として、1年次(9月、3月)、2年次(9月、3月)に実施される実力（国家試験対策）テスト(4回)を受験していること							
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
各専攻ともに、3年間の集大成として理学療法士および作業療法士国家試験に合格することは大切な学習成果である。そのための学習は本講義のみでは不十分であるため、積極的な課外学習を1コマあたりにつき少なくとも1時間はしておく必要がある。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
模擬試験など、各課題終了時点で紙面もしくは口頭でフィードバックを行う。								
教科書								
関係各成書全般								
参考図書								
関係各成書全般								
備考：履修者への要望								
最終的に国家試験を合格し、臨床現場へ就職していくことになるが、その為の絶対的な必須条件が国家試験合格である。そのため、各自が自身の能力を客観的に自覚し、積極的な取り組みをする必要がある。この科目は、主に3年次はその集大成であるという心構えで取り組んで欲しい。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
総合演習	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	2学年	必修	1単位	30時間
担当教員名					
石川 清、加藤 真弓、杉山 成司、宮津 真寿美、木村 菜穂子、松村 仁実、臼井 晴信、山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑、横山 剛、加藤 真夕美、渡邊 豊明、清水 一輝、松田 裕美、石黒 茂、廣渡 洋史、外倉 由之、種田 陽一					
実務経験のある教員					
加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・臼井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠・濱田 光佑 横山 剛・加藤 真夕美・廣渡 洋史・渡邊豊明・清水 一輝・松田 裕美・外倉 由之 以上の教員は、医療機関や介護保険領域の施設等において理学療法士・作業療法士として勤務した経験を有する					
授業概要					
本演習は主として各講義や実習などで学んだ知識を整理し、卒業後の診療活動における専門職として必要な総合的能力を統合させることを目的とし、本学におけるすべての講義、演習、実習の成果を総括する。 理学療法士・作業療法士国家試験に必要な事項についての対策講義と、複数の教員によるゼミナール形式で、これまでに学習した内容をより臨床に向けて整理し、一人の理学療法・作業療法専門家として活躍できるように準備を行う。 また、医療人としての素養としての救命救急や災害医療の知識や技術も身につけるものとする。					
学習到達目標					
知識・理解	①理学療法士・作業療法士国家試験に合格できるだけの総合的な知識を身につける(他者に適切に説明できる)(DP1) ②理学療法士・作業療法士としてだけでなく、一医療人、一社会人として医療施設、福祉施設、地域などにおいて求められる能力を理解することができる(DP1)				
思考・判断 ・表現	③理学療法士・作業療法士として臨床における問題解決能力を身につけることができる(DP1)				
技能	④理学療法士・作業療法士としてだけでなく、一医療人・社会人として必要な心肺蘇生法や災害医療におけるトリアージ等を実施できる(DP6)				
関心・意欲 ・態度					
授業形態					
演習	グループおよび個人において演習を行う				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1-2	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 臼井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	社会に出るにあたり ※2年次	就職活動についての必要事項の確認		
3-4	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 臼井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	国家試験について ※これ以降3年次	国家試験に向けての概要		
5-6	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 臼井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達分野		

7-8	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 臼井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進分野
9-10	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 臼井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念分野
11-12	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 臼井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	専門分野	【PT】理学療法評価学分野・治療学分野 【OT】作業療法評価学分野・治療学分野
13-15	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 臼井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	まとめ	総まとめ

観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	評価方法						
	筆記試験	●	●	●		100	①②③④

評価の特記事項	3年次の最終の筆記試験で100%評価する（受講態度などにより減点する場合もある） ※受験要件として、1年次(9月、3月)、2年次(9月、3月)に実施される実力（国家試験対策）テスト(4回)を受験していること
---------	--

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各専攻ともに、3年間の集大成として理学療法士および作業療法士国家試験に合格することは大切な学習成果である。そのための学習は本講義のみでは不十分であるため、積極的な課外学習を1コマあたりにつき少なくとも1時間はしておく必要がある。

課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法

模擬試験など、各課題終了時点で紙面もしくは口頭でフィードバックを行う。

教科書

関係各成書全般

参考図書

関係各成書全般

備考：履修者への要望

最終的に国家試験を合格し、臨床現場へ就職していくことになるが、その為の絶対的な必須条件が国家試験合格である。そのため、各自が自身の能力を客観的に自覚し、積極的な取り組みをする必要がある。この科目は、主に3年次はその集大成であるという心構えで取り組んで欲しい。



授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
総合演習	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	3学年	必修	1単位	15時間
担当教員名					
石川 清、加藤 真弓、松村 仁実、宮津 真寿美、杉山 成司、木村 菜穂子、臼井 晴信、山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑、横山 剛、加藤 真夕美、清水 一輝、松田 裕美、廣渡 洋史、外倉 由之、石黒 茂、種田 陽一、渡邊 豊明					
実務経験のある教員					
加藤 真弓・松村 仁実・宮津 真寿美・木村 菜穂子・臼井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠・濱田 光佑 横山 剛・加藤 真夕美・廣渡 洋史・渡邊 豊明・清水 一輝・松田 裕美・外倉 由之 以上の教員は、医療機関や介護保険領域の施設等において理学療法士・作業療法士として勤務した経験を有する					
授業概要					
本演習は主として各講義や実習などで学んだ知識を整理し、卒業後の診療活動における専門職として必要な総合的能力を統合させることを目的とし、本学におけるすべての講義、演習、実習の成果を総括する。 理学療法士・作業療法士国家試験に必要な事項についての対策講義と、複数の教員によるゼミナール形式で、これまでに学習した内容をより臨床に向けて整理し、一人の理学療法士・作業療法士の専門家として活躍できるように準備を行う。 また、医療人としての素養としての救命救急や災害医療の知識や技術も身につけるものとする。					
学習到達目標					
知識・理解	①理学療法士・作業療法士国家試験に合格できるだけの総合的な知識を身につける(他者に適切に説明できる)(DP1) ②理学療法士・作業療法士としてだけでなく、一医療人、一社会人として医療施設、福祉施設、地域などにおいて求められる能力を理解することができる(DP1)				
思考・判断 ・表現	③理学療法士・作業療法士として臨床における問題解決能力を身につけることができる(DP1)				
技能	④理学療法士・作業療法士としてだけでなく、一医療人・社会人として必要な心肺蘇生法や災害医療におけるトリアージ等を実施できる(DP6)				
関心・意欲 ・態度					
授業形態					
演習	グループおよび個人において演習を行う				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1-2	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 臼井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	災害医療 ※2年次	清須市総合防災訓練の事前学習として、バイタルサインのみかた、取り方等の実技を学ぶ。		
3	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 臼井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	災害医療 一次救命救急 ※2年次	救急法短期講習(日本赤十字社)にて、心肺蘇生法、応急処置、トリアージ等の災害医療救護活動を学ぶ。		
4	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 臼井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	社会に出るにあたり ※2年次	就職活動についての必要事項の確認		

5	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 白井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	国家試験について ※これ以降3年次	国家試験に向けての概要				
6-7	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 白井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達分野				
8-9	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 白井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進分野				
10-11	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 白井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念分野				
12-13	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 白井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	専門分野	【PT】理学療法評価学分野・治療学分野 【OT】作業療法評価学分野・治療学分野				
14-15	石川、加藤、杉山 宮津、木村、松村 白井、山田、齊藤 濱田、廣渡、石黒 横山、加藤、渡邊 清水、松田、種田 外倉	まとめ	総まとめ				
観点別 成績評価と 到達目標の 関連	評価の方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	割合 (%)	到達目標
	筆記試験	●	●	●		100	①②③④
評価の 特記事項	3年次の最終の筆記試験で100%評価する（受講態度などにより減点する場合もある） ※受験要件として、1年次(9月、3月)、2年次(9月、3月)に実施される実力（国家試験対策）テスト(4回)を受験していること ※受験要件として、2年次の災害医療に関する講義等に出席かつレポートを提出し受理されていること						
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
各専攻ともに、3年間の集大成として理学療法士および作業療法士国家試験に合格することは大切な学習成果である。そのための学習は本講義のみでは不十分であるため、積極的な課外学習を1コマあたりにつき少なくとも1時間はしておく必要がある。							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
模擬試験など、各課題終了時点で紙面もしくは口頭でフィードバックを行う。							
教科書							
関係各成書全般							

参考図書

関係各成書全般

備考：履修者への要望

最終的に国家試験を合格し、臨床現場へ就職していくことになるが、その為の絶対的な必須条件が国家試験合格である。そのため、各自が自身の能力を客観的に自覚し、積極的な取り組みをする必要がある。この科目は、主に3年次はその集大成であるという心構えで取り組んで欲しい。